

平 田 遺 跡

—第 1 次発掘調査概要報告—

2005.3

鈴鹿市考古博物館



掘立柱建物SB 01・SB 09 (垂直)



掘立柱建物SB 16・SB 17 (垂直)



掘立柱建物 S B 29 (垂直)



土罫 (垂直)

例 言

1. 本書は、鈴鹿市平田本町1丁目（字御門垣内）に所在する平田遺跡、御門垣内古墳の発掘調査概要報告である。
2. 発掘調査は、太洋不動産株式会社の宅地造成工事に伴う事前調査として、同社の依頼により鈴鹿市文化振興部考古博物館が実施した。
3. 調査にかかる費用は太洋不動産株式会社が負担した。
調査の体制は、下記により実施した。

調査主体 / 鈴鹿市

調査担当 / 鈴鹿市文化振興部 鈴鹿市考古博物館

（組織および構成）

鈴鹿市考古博物館館長 平井茂公

副参事兼埋蔵文化財グループリーダー 中森成行

埋蔵文化財グループ副主幹 宮崎正光 北条正則

副主査 田中忠明 水橋公恵（県から派遣）

事務吏員 伊藤淳

囑託 吉田真由美 林和範

臨時職員 坂下日向 杉本恭子 別府智子 永戸久美子 徳永由紀子

5. 現地調査は、上記係員のうち、吉田が担当した。
6. 現地での調査期間は平成16年4月5日～平成16年7月20日である。
7. 本書の執筆・編集は、当館学芸員藤原秀樹の指導のもと、吉田が担当した。一部遺物写真撮影、石刀の実測にあたっては鈴鹿市資産税課新田剛氏の協力を得た。
8. 座標は国土座標系VI系を用いている。図中の方位は座標北を示す。
9. 遺構番号は遺構の性格を示す記号の後ろに発見順に番号を与えた。調査区を3mグリットに分割し、南北方向：カタカナ、東西方向：数字を組み合わせてグリット名とした。柱穴は建物ごと、もしくはグリットごとに番号を与えた。
SB: 掘立柱建物 ST: 竪穴住居 SD: 溝 SK: 土坑 SE: 井戸 P, Pit: 柱穴 SX: 方形周溝墓
10. 本調査にかかる遺物・図面・写真はすべて鈴鹿市考古博物館が保管している。
11. 調査及び報告書刊行にあたっては地元各位をはじめ、下記の方々のご指導・ご協力を得た。記して感謝申し上げます。
平田町自治会・太洋不動産高橋茂、榛村裕之、前田義雄・石毛綾子・大西貴夫・亀山隆・木野本和之・小西絵美・小林俊之・酒井巳紀子・志賀崇・竹田憲治・田中弘志・新田剛・服部英世・早野浩二・八賀晋・山田猛・山中敏史

目 次

I. はじめに	1
II. 遺構と遺物	2
III. まとめ	3

表 目 次

Tab.1 掘立柱建物・柵一覧表	12
Tab.2 出土遺物観察表	13
Tab.3 出土瓦観察表	14
Tab.4 報告書抄録	62

図 版 目 次

Plate 1 周辺の遺跡 (1:100,000)	15
Plate 2 調査区位置図 (1:5,000)	16
Plate 3 遺構平面図 (1:400)	17
Plate 4 主要掘立柱建物平面図 (1:200)	19
Plate 5 掘立柱建物SB29・溝SD19・SD20・SD45・SD46・SD55・SD56平面図 (1:250)	21
Plate 6 地区割図 (1:600) 丸・平瓦側面・端面調整	23
Plate 7 掘立柱建物SB01平面図 (1:80)・断面図 (1:50)	24
Plate 8 掘立柱建物SB09・SB142平面図・断面図 (1:50)	25

Plate9	掘立柱建物 SB16・SB17・SB31・SB37 平面図 (1:80)	26
Plate10	掘立柱建物 SB16・SB17・SB31 断面図 (1:50) 掘立柱建物 SB78 平面図 (1:80)	27
Plate11	掘立柱建物 SB02・SB90・SB143・竪穴住居 ST04 平面図 (1:80)・断面図 (1:50)	28
Plate12	掘立柱建物 SB03・SB135・SB80・柵 SA144 平面図 (1:100)・断面図 (1:50)	29
Plate13	掘立柱建物 SB41・SB65 平面図 (1:80)	30
Plate14	竪穴住居 ST07・土坑 SK08・竪穴住居 ST54 平面図 (1:50)	31
Plate15	竪穴住居 ST23・ST24 平面図 (1:80)・断面図 (1:50)	32
Plate16	土塁平面図 (1:150)	33
Plate17	土塁下層遺構平面図 (1:150)	34
Plate18	土塁断面図 (1:80)	35
Plate19	溝・土坑断面図 (1:50)	36
Plate20	溝断面図 (1:50)	37
Plate21	出土遺物 (1:4 石刀 1:3)	38
Plate22	出土遺物 (1:4)	39
Plate23	出土遺物 (1:4)	40
Plate24	出土遺物 (1:4)	41
Plate25	出土遺物 (1:4)	42
Plate26	出土遺物 (1:4)	43
Plate27	出土遺物 (1:4)	44
Plate28	出土遺物 (1:4)	45
Plate29	掘立柱建物 SB01 (南西から) / 掘立柱建物 SB01 (南西から) / 掘立柱建物 SB01P-19 断面 (西から) / 掘立柱建物 SB01P-20 断面 (南から) / 掘立柱建物 SB09 (西から) / 掘立柱建物 SB09P-4 断面 (南から) / 掘立柱建物 SB02 (南から) / 掘立柱建物 SB03 (西から)	46
Plate30	掘立柱建物 SB16 (東から) / 掘立柱建物 SB17 (南東から) / 掘立柱建物 SB31 (北東から) / 掘立柱建物 SB41 (北西から) / 掘立柱建物 SB65 (北西から) / 掘立柱建物 SB90 (北東から) / 掘立柱建物 SB135 (北から) / 掘立柱建物 SB29 礎板 (南から)	47
Plate31	竪穴住居 ST04 (南から) / 竪穴住居 ST07 (西から) / 竪穴住居 ST23・ST24 (南から) / 竪穴住居 ST54 (東から) / 土墳墓 SX38 (南東から) / 井戸 SE121 (北西から) / 土塁東断面 (東から) / 土塁西断面 (東から)	48
Plate32	溝 SD05・SD06 (西から) / 溝 SD05 断面 (西から) / 溝 SD06 断面 (西から) / 溝 SD10 (北西から) / 溝 SD11・SD12 (北東から) / 溝 SD11 断面 (西から) / 溝 SD12 断面 (西から) / 溝 SD13 断面 (東から)	49
Plate33	溝 SD15 (北東から) / 溝 SD15 断面 (東から) / 溝 SD19 断面 (北から) / 溝 SD20・掘立柱建物 SB21 (北東から) / 溝 SD45 断面 (北から) / 溝 SD46 断面 (北から) / 溝 SD55・SD56 (西から) / 溝 SD55 断面 (西から)	
Plate34	溝 SD56 断面 (西から) / 方形周溝墓 SX62 (北東から) / 方形周溝墓 SX62 石刀出土状況 (北西から) / 溝 SD11 溝 SD64 断面 (東から) / 溝 SD87・SD91 (北東から) / 溝 SD87 断面 (南から) / 溝 SD94 (南西から) / 溝 SD94 断面 (南西から)	51
Plate35	作業風景 (南から) / 現地説明会 (北西から) / 出土遺物	52
Plate36	出土遺物	53
Plate37	出土遺物	54
Plate38	出土遺物	55
Plate39	出土遺物	56
Plate40	出土遺物	57
Plate41	出土遺物	58
Plate42	出土遺物	59

カラー図版目次

Color Plate 1	掘立柱建物 SB01・SB09 (垂直) / 掘立柱建物 SB16・SB17 (垂直)	i
Color Plate 2	掘立柱建物 SB29 (垂直) / 土塁 (垂直)	ii

I . はじめに

平田遺跡は、鈴鹿川右岸の標高約 22 m、鈴鹿川に向かってやや張り出す河岸段丘上に立地し、鈴鹿川によって形成される谷底平野を見下ろす。平野との比高差は 4～5 m を測る。

古代において、鈴鹿市西部は鈴鹿郡、東部は川曲郡、南部は菴芸郡にあたり、平田遺跡は鈴鹿郡牧田（ひらた）郷に位置し、川曲郡との境に近い。鈴鹿郡には伊勢国府、川曲郡には伊勢国分二寺が置かれるなど、伊勢国の政治・文化の中心地であった。平田遺跡は、奈良時代半ばに造営された現在の広瀬町に所在する伊勢国府と伊勢国分寺から等距離のところに位置する。また、奈良時代末～平安時代初頭に現在の国府町に移転したと考えられている伊勢国府推定地と国分寺を結ぶ、およそ中間に位置する。

伊勢国府跡（広瀬町）では政庁の建物配置が明らかになっており、政庁の北方には方格地割内に瓦葺礎石建物が整然と立ち並ぶ曹司ないし国司館などの官衙群が確認されている。

国府町では国府政庁跡は確認できていないが、三宅神社遺跡・天王山西遺跡・梅田遺跡で計画的に配置された建物群が検出され、移転後の国府に関連するものと考えられている。

中でも三宅神社遺跡ではコ字型配置をとる建物群が検出され、国司・郡司等の居宅と考えられている。伊勢国分寺跡に近接する狐塚遺跡では川曲郡衛正倉院が調査され、郡庁院と思われる建物群も検出されている。

平田遺跡の周辺で発掘調査が行われた遺跡は天神遺跡・岡田南遺跡・岡田神社遺跡などがあり、古墳時代から中世にかけての集落跡が確認されている。天神遺跡は 5 世紀初頭から半ばにかけての集落跡で、一辺 5 m 前後の竪穴住居 4 棟が確認され、土師器・須恵器のほか、滑石製の紡錘車・管玉・手捏ね土器などが出土している。岡田南遺跡では、古墳の周溝・土壙墓、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物、中世の溝などが検出されている。土壙墓からは勾玉 2 点、管玉 1 点、ガラス玉 103 点、鹿角装の刀子が出土している。岡田神社

遺跡でも中世の溝が検出されている。

鈴鹿川の対岸には、推定伊勢国分尼寺で使用された瓦を生産した川原井瓦窯跡や、石帯が出土した津賀平遺跡などがある。また、平安時代末～鎌倉・室町時代の椎山中世墓では古瀬戸四耳壺・瓶子・常滑三筋壺・甕などを骨蔵器とした 100～200 基の墓が営まれたと推定されている。

平田遺跡の南西に隣接して中世城館・平田城跡が所在する。『鈴鹿市史』、『三重の中世城館』によると平田菊蔵氏宅の東の畑地が「平田兵庫頭の屋敷地」といわれている。桓武平氏の子孫と伝える平田氏が応仁元年（1467）に城を海善寺城（亀山市所在地不明）より、枚田郷平田（字御門垣内）に移したとされている。平田氏は織田信長の高岡城攻囲の際、別働隊に攻められ、城は陥落し、滅亡した。

鈴鹿川右岸は国府地区を除くと古墳の分布は少ないが、調査地内には『鈴鹿市遺跡地図』に御門垣内古墳（前方後円墳）として登録されている高まりが存在する。

平成 15 年度に行った試掘調査で、溝、柱穴などが確認され、土師器・須恵器のほか、円面硯や斜格子叩きの瓦などが出土し、遺構が宅地造成の計画地全体に及んでいることが判明した。協議の結果、道路建設部分に関して、太洋不動産負担により調査を行い、地下保存可能である宅地部分については、個別に対応することとなった。

調査は 4 月 5 日から重機による表土除去作業を開始し、4 月 12 日から作業員による遺構の検出、掘削作業を開始した。造成工事の都合、Ⅰ期（6 月 4 日）：1～3 区、Ⅱ期（7 月 16 日）：4～7 区の 2 回に分けて航空写真測量を行った。7 月 18 日には現地説明会を行い、20 日に現地での作業を終了した。

II. 遺構と遺物

今回調査を行ったのは、道路部分のみで、便宜上、Plate.3のように1～7区と地区名をつけた。

調査に入る前は大部分が畑として利用されていた。調査地の南西側の宅地がやや高くなっており、また、台地の縁にあたる北から北西に向かって緩やかに傾斜するが、おおむね平坦な地形である。

1. 基本層序

基本層序は以下のとおりである。

I層：表土・耕作土

II層：クロボク土

III層：漸移層

IV層：黄褐色シルト

V層：砂礫層

遺構の検出は、1区北・3区・4区南・7区東ではII・III・IV層が残存していなかったため、V層上面において行った。1区南・2区・4区・5区・7区西ではII層・III層が残存していたが、遺構の検出が困難であり、限られた期間で調査を行うため、やむを得ず、重機によりII・III層を除去したIV層上面において検出を行った。6区では、御門垣内古墳が調査区に重なり、I期で表土除去した状態で航空写真測量を行ったのち、重機により盛土を除去し、IV層上面において下層遺構の確認を行った。

2. 1区

調査区は台地の辺縁部に向かって南から北へと緩やかに傾斜している。

竪穴住居 ST23 (Plate15) 北西一南東 4.7m × 北東一南西 5m 以上、検出面からの深さ 0.05m を測り、遺構の残りはきわめて悪い。北東部は調査区外へと続く。竈は確認できていないが中央付近では焼土がみられた。主柱穴は直径 0.2～0.35m ほどの円形である。北側を竪穴住居 ST24 に切られ、掘立柱建物 SB17, SB78 の柱穴に切られる。出土遺物には土師器や瓦があるがいずれも細片であるため、図示していない。

竪穴住居 ST24 (Plate15) 北西一南東 6.6m × 北東一南西 6.2m 以上、深さ約 0.2 m を測る。およそ東半分は調査区外へと続く。竪穴住居 ST23 と同様、竈は確認できていないが、北西側で数ヶ所、焼土

がみられた。主柱穴と思われる柱穴を 2 基確認している。竪穴住居 ST24 を溝 SD61 が切っていることを調査区東壁の土層断面で確認した。

土師器 (12～15) 暗文を有する土師器の破片が 4 点出土している。13 は口縁端部を内側へ折り返し、体部内面には放射状暗文を二段、底部内面には螺旋状暗文を施す。皿 12・14 は内面に放射状暗文を施す。15 はおそらく坏の体部の破片と思われる。内面に放射状暗文を二段施す。

須恵器 (9～11) 坏蓋 9 は天井部にはヘラ切り後、指で押さえた痕跡が残る。坏身 10 は口縁部は受部から短く立ち上がり、内傾する。底部はヘラ切りのまま未調整である。坏 11 の体部は直線的に伸びる。

平瓦 (16～19) 瓦の多くは上層からの出土である。16 は凸面を丁寧な横方向のケズリ調整を施し、17 は凹面の側面付近を縦方向にケズリ調整を施す。18 は凹面に明瞭な段があり、模骨痕と考えられるが、その幅は不明である。19 は長さ 36cm 以上を測り、分割突帯に沿って分割される。斜格子 A 類による叩き締めの後、横方向にケズリ調整を施す。**竪穴住居 ST39** (Plate15) 壁溝の一部を検出した。竪穴住居 ST24 の 1 m ほど北に位置する。

掘立柱建物 SB41 (Plate13) 梁行 3 間 (3.8m) × 桁行 3 間 (4.0 m) 以上、方位は N87° E を示す。柱穴は円形で 0.4 m、柱痕跡は 0.15～0.2m を測る。北側の柱の通りが悪い。柱穴の埋土に瓦を含む。

柵 SA58 (Plate15) 東西 2 間分を検出した。柱穴は円形もしくは隅丸方形で直径 0.5 m を測る。方位は N78.50E を示し、柱間は東から 2.25 m +2.05m を測る。

小柱穴シ-10 Pit1 (Plate15) 竪穴住居 ST24 の西側に位置する。小柱穴内からは 3 個体分の土師器甕 (157, 158) の破片、平瓦が詰め込まれたような状態で出土している。

土師器甕 (157・158) 口縁端部は丸くおさめ、内面は横方向、外面は縦方向のハケによる調整を施す。

調査区の北部では遺構の密度は薄く、柱穴をいくつか確認したもの、建物としてのまとまりは確認できなかった。

3. 2区

調査区は東から中央にかけては概ね平坦で、中央から西に向かって緩やかに傾斜する。東部は中世、中央は古代の遺構が多く、西部は遺構の密度が薄い。

掘立柱建物 SB16 (Plate9) 梁行2間(2.0m)以上×桁行5間(9.95m)の東西棟で方位はN86° Eを示す。柱穴は0.6～0.7m×0.8～0.9mの方形で柱痕跡は0.2～0.3mを測る。桁行の柱間は1.7～2.25mと一定ではない。特に西1間分が1.7mと狭くなる。柱穴から出土している遺物は細片が多く、時期の特定は難しい。

掘立柱建物 SB17 (Plate9) 梁行2間(4.2m)×桁行5間(8.25m)の東西棟で、南に廂を待つ(廂を含むと5.6m)。柱穴は0.5～0.6m×0.6～0.9mの規模の方形で、南側の柱穴は南北に長い。廂の出は、1.4～1.45mを測り、柱穴の形状は円形に近く、規模は0.5mと身舎に比べて小さい。掘立柱建物SB16とSB17は近接するが、重複はしない。方位はN84° Eを示し、掘立柱建物SB16と2°ほどずれるが、SB16の柱間の中間にSB17の柱が位置し、建て替えなど何らかの関連があるものと考えられる。竪穴住居ST23と重複し、柱穴P-2が竪穴住居ST23を切る。

土師器 (42) P-3 出土。体部内面には放射状暗文、底部内面には螺旋状暗文を施す。

土玉 (43) P-6 出土。直径22mm、棒状工具による深さ5mmほどの刺突痕が見られる。

掘立柱建物 SB21 (Plate5) 桁行4間(5.95m)以上、梁行(3.85m)の間数は調査区外のため不明である。方位はN1.5° Eを示す。柱穴は不整形な楕円形で、規模は0.4～0.5mを測る。

掘立柱建物 SB31 (Plate9) 東西2間(3.1～3.2m)×南北2間(3.25～3.6m)の総柱建物の倉庫である。南北方向の柱間が若干長い。柱穴は隅丸方形で0.5mを測る。方位は南北方向でN19.5° W、東西方向ではN61.5°～65° Eを示し、直行しない。柱穴からは灰釉陶器の破片が出土している。

掘立柱建物 SB78 (Plate10) 梁行3間(3.85m)×桁行3間(4.6m)以上の東西棟から梁行3間(4.1m)×桁行3間(3.0m)以上の東西棟に建て替えられる。梁行の柱はほぼ同じ場所にあるが、桁行は建て替え後、柱間が長くなる。桁行、梁行ともに

柱筋の通りは悪い。建て替え前のものは掘立柱建物SB117と方位がほぼ揃い、建て替え後は掘立柱建物SB16と方位が揃う。掘立柱建物SB16との距離は約7m、掘立柱建物SB17との距離は2.1mを測る。

掘立柱建物 SB29 (Plate5) 梁行3間(6.5m)×桁行4間(8.0m)以上の総柱建物(南北棟)である。方位はN10.5°～11.5° E(梁行N75°～76° W)を示す。柱穴からは礎盤として用いたと思われる石が出土している。扁平な石を1つ据えるものやこぶし大の石を複数入れるものなどがある。土師皿や山茶碗が出土している。

掘立柱建物 SB37 (Plate9) 南北3間(4.45m)以上×東西4間(9.05m)の総柱建物である。柱穴の形状は円形で、規模は、0.35～0.45mを測り、方位はN75° Wを示す。柱穴から土師器・山茶碗が出土している。

溝 SD19・SD20 (Plate5) 溝SD19は検出面で幅1.3～1.5m、深さ0.4mを測り、N12.5° Eを示す南北溝である。調査区の南側で西へと張り出し、こぶし大の礫を多く含む。溝SD20は幅0.9～1m、深さ0.2mを測る。この2条の溝はほぼ並行し、内法で2.9～3.5mを測る。図示していないが、出土遺物には土師器・須恵器・瓦・陶器・山茶碗・常滑焼などがある。

溝 SD33 (Plate9) 幅1～1.4m、深さ0.1～0.45m、延長約37mを測る。溝が途切れたその延長にSD19が位置するが、一連のものかは不明である。この溝は、調査以前に利用されていた地道とほぼ重複する。図示していないが出土遺物には土師器・須恵器・瓦・山茶碗・羽釜などがある。

溝 SD45・SD46 (Plate5) 溝SD45は幅0.6～0.7m、深さ0.2mを測る。溝SD46は幅2.1～2.2m、深さ0.8～0.9mを測り、N10° Eを示す南北溝である。この2条の溝はほぼ並行しており、内法で1.5～1.9mを測る。溝SD46から出土した遺物には山茶碗(66～68)・鉢(70)・青磁碗(69)がある。青磁碗の内面に飛雲文状の文様が描かれている。

溝 SD49 (Plate5) 幅0.4m、深さ0.1～0.2mを測り、方位はN42°～43.5° Eを示す。南側には竪穴住居ST54が位置しているが、溝SD49の延長は確認できていない。

土壇墓 SX38 (Plate9) 長方形で2.3m×0.9m、深さ0.2

mを測る。副葬品と思われる遺物の出土はなかった。

土坑 SX25・土坑 SK26 (Plate5) 土坑 SK25 はほぼ円形の土坑で直径 1m, 深さ 0.2m を測る。掘立柱建物 SB29 の柱穴を切る。土坑 SK26 は直径 0.9m, 深さ 0.1 m の円形の土坑である。完形に近い土師器小皿(81)が出土している。2基の土坑は南北に並ぶ。

土坑 SK42・SK43 (Plate5) 土坑 SK42 は一辺約 2 m の正方形に近い形状をし、土坑 SK43 は 3.4 ~ 3.7m ほどの円形に近い形状をする。これらの土坑からは多数の土器が出土している。SK43 からは砥石(94)・鞘の羽口(95)が出土している。土坑 SK42 からは山茶碗(89・93)・山皿(92)・土師器小皿(88)・伊勢型鍋(90)が出土している。

土坑 SK51 (Plate9) 直径 1.2 m, 深さ約 0.1m を測る。山茶碗などともに玉縁式の丸瓦が出土している。この丸瓦は国府・国分寺跡から出土するものと類似する。

丸瓦 (129) 玉縁式の丸瓦である。凸面には縄叩きのあと短軸方向にケズリ調整を施す。

土坑 SK60 (Plate5) 調査区の南壁際で遺物が断面に引っかかるように出土し、拡張して遺構の検出を試みたが、検出面において明確な遺構は検出できなかった。

土師器 (96) 内面は黒褐色、外面はにぶい褐色を呈し、内面はミガキ、外面はナデ、ケズリ調整を施す。

その他、多数の小柱穴が確認できたが、現時点では建物としてのまとまりは確認できていない。

小柱穴ソ-11 Pit3 (Plate9) ロクロ土師器小皿(155)が出土している。底部には明瞭に糸切り痕が残る。

小柱穴ソ-12 Pit3 (Plate9) 弥生土器壺(8)が底部を上にした状態で出土した。

弥生土器 (8) 底径約 7cm, 体部最大径約 21cm, 口頸部を欠き、平底で体部が張り出し、肩部に沈線が 1 条めぐり、風化が著しく、はっきりとしないが、おそらく外面はハケ調整後ミガキ調整を施す。胎土は粗く、砂粒を多く含む。

1 区から 2 区にかけての試掘坑の埋土には瓦が含まれていた。

平瓦 (47・50・128) 47 の凹面には分割突帯撚紐痕跡が 1.5c m の間隔で 2 条確認でき、そのうち、

一方に沿って分割されている。128 の広端面には 4 箇所窪みが残る。

4. 3 区

調査区の南部は御門垣内古墳に隣接する。表土を約 0.1 ~ 0.15 m ほど除去した V 層直上において遺構の検出を行ったところ御門垣内古墳の周溝ではなく、御門垣内古墳を挟むように並行する 2 条の溝を検出した。

溝 SD11 (Plate16) 幅 2.1 ~ 2.3m, 深さ 0.65m を測る。御門垣内古墳とされる高まりの北辺にほぼ沿って、4 区へと続く。山茶碗(59・60)・山皿(58)・常滑焼(61)などが出土している。

溝 SD12 (Plate16) 幅 ~ 1.7m, 深さ 0.25 ~ 0.91 m を測る。溝 SD11 と並行するが、現存する高まりの 3.5m ほど東で南へと曲がり、調査区外へ続く。おそらく西へと向きを変え溝 SD66 に続き、高まりの南辺を通るものと考えられる。山茶碗(63)・古瀬戸折縁深皿(64・65)が出土している。65 の内面には牡丹唐草文が描かれる。溝 SD13 (Plate5) 幅 1.8m, 深さ 0.3m を測る東西溝で、調査区内で途切れる。4 区 SD15, 5 区 SD10 とは位置的な関係から一連の溝である可能性

が考えられるが、幅がやや狭く、浅い。また、埋土の状況が若干異なる。土師器・緑釉陶器・山茶碗(62)・古瀬戸などが出土している。

溝 SD55・SD56 (Plate5) 溝 SD55 は検出面での幅 0.8 ~ 0.9m, 深さ 0.4m を測る。断面は逆台形状を呈する。SD56 は幅 1.4 ~ 2m, 深さ 0.4 m を測る。方位は N78° W を示す東西溝で、内法で 4.1 ~ 4.3 1n を測る。土師器, 山茶碗(72・73)・山皿・瓦などが出土している。

灰釉陶器短頸壺 (71) 溝 SD56 出土。口縁端部は内側に段を持つ。外面全体に灰釉がかかる。

5. 4 区

竪穴住居 ST54 (Plate14) 南北 6.3 m × 東西 6m, 深さ 0.1m を測る。残りは悪いが、北辺に竈の痕跡を確認した・竈の周辺からは瓦が出土しており、竈に利用されていたものと思われる。

土師器 (25・26) 細片であるが、2 点とも内面には放射状暗文が施文される。

須恵器 (20 ~ 24) 杯蓋にはカエリを持つ 21, カエリを持たない 20・22 がある。22 の口縁端部は

外反し、「ハ」字状に開く。

平瓦 (27・30) 27は凸面を横方向に丁寧にケズリ調整を施すため、叩き痕が残らないが、工具痕と思われる沈線が2周巡る。30は斜格子A類による叩き調整のあと、横方向にケズリ調整を施す。内面には幅5cmの模骨痕が残る。

掘立柱建物 SB65 (Plate13) 梁行2間(1.9m)以上×桁行4間(6.6m)の南北棟と考えられる。柱穴の規模は0.7m×0.8mを測る。南側の削平が著しく、南辺の柱穴は一部検出できなかった。方位はN2.5°Wを示す。

溝 SD15 幅3.7～4.8m、深さ0.85mを測り、方位はN78.50Wを示す。土層の観察から、南辺から流れ込む状況がみられ、南側に土塁状のものが存在した可能性が考えられる。また、2回ほど掘りなおされている。土師器・須恵器・瓦・山茶碗が出土している

溝 SD64 幅1.1m、深さ0.4mを測る。高まりの北側を通り、3区では溝SD11と重複する。

溝 SD66 幅1.3m、深さ0.1mを測り、削平のため、残りが悪い。高まりの南側を通り、おそらくSD12に続くものと考えられる。土師器・中世瓦・山茶碗などが出土している

方形周溝墓 SX62 幅0.8～1mを測る。調査区の東側で周溝が「L」字状に曲がる。周溝の埋土上層からは石刀が溝の肩に平行して、ほぼ水平に置かれたような状態で出土し、意図的に置かれたものと思われる。また、溝の角のあたりからほぼ完形の手焙り形土器が出土している。

弥生土器 (2・3) 手焙り形土器(2)の覆部の右側には刻みを有する約2cmの突帯がある。壺形土器(3)は肩部に半裁竹管による横線文が巡る。

石刀 (1) 長さ392mm、幅25.3mm、厚さ22.3mmを測る。粘板岩製と思われる。直刀で刀関はない。鼻柄には斜格子文が2帯、短線文が1帯巡り、文様剥離後も研磨されている。刃は鈍く、稜線は柄の部分までかろうじて続く。切っ先も剥離後研磨されている。縄文晩期のものと思われる。

土坑 SK34・SK70・SK72・SK75・SK76 (Plate5) 土坑SK34は南北2.2m×東西2.4mの方形の土坑である。図示していないが土師器、須恵器、瓦が出土している。土坑SK70は南北2.0m×東西2.85m以上の方形の土坑である。土師器(31～34・36)、

須恵器(36)が出土している。土坑SK72は不整形な土坑で土師器(32)が出土している。土坑SK75は不整形な土坑で土師器(39・40)が出土している。土坑SK76は0.6×1.8mの方形の土坑で、土坑SK72に切られる。土師器(97)が出土している。**土師器**(31～35・39・97) 31は底部内面に螺旋状暗文、体部内面に放射状暗文を施す。32～34はおそらく同一・固体と考えられ、内面には螺旋状暗文を施す。35は放射状暗文を格子状に施す。39は内面には煤が付着しているため、暗文を有するかは不明である。97は口縁端部には面をもち、内側にわずかに突出する。内面には螺旋状暗文を施し、体部はミガキによる調整を施す。

須恵器蓋(36) 丸みのある天井部に扁平な摘みが付く。天井部内面には甕類の整形に用いられる同心円の当具痕が残る。

土坑 SK35・土坑 SK36 (Plate14) 土坑SK36は南北2.1m×東西1.7mの方形で深さ0.1mと浅い。その南に並ぶSK35は南北1.3m×東西1.7mの方形で、深さ0.05mを測る。

灰釉陶器(82・84) 82は土坑SK35出土。高台がややずれた位置につく。84は土坑SK36出土。高台がややゆがむ。

土師器(86～87) 土坑SK36出土。85、86はロクロ成形による。87は内面に放射状暗文を施す。

山皿(83) 土坑SK36出土。完形品である。

土坑 SK119 (Plate14) 不整形な土坑で西半分が調査区外へと続く。土師器・須恵器(45)・瓦(44)などが出土している。

平瓦(44) 阻面には幅約4cmの模骨痕が明瞭に残る。凸面は斜格子C類による叩き締めのもと横方向にケズリ調整を施す。

井戸 SE116・SE121 SE116は径1.1m、深さ1.5m以上、SE121は径1.4m、深さ1.5m以上、いずれも垂直に掘り込まれる素掘りの井戸ある。検出面から1.5mほど掘削し、残りは地下保存とした。井戸SE116からは山茶碗(154)・山皿(151～153)が出土し、井戸SE121からは土師器皿(130～134・137) 鞠・碗(143)・伊勢型鍋(139)・山茶碗(140・144・146・148)・山皿(134～136・138・139・141～142)・青磁小皿(142)・砥石(147)が出土している。土師器(143)は体部内面に放射状暗文を施す。山皿(135)の内面には煤が付着し

ており、灯明皿として使用されたものと思われる。山皿（136）の底部には墨で記号が書かれている。

調査区北部では検出時に須恵器（41）・灰釉陶器（53）が出土している。

須恵器 坏（41） 断面方形状の低い高台を有し、端面は沈線状にくぼむ。底部内面にはかすかに同心円状の当て具痕が残る。

灰釉陶器 碗（53）底部内面には三叉トチン痕が残る。

6. 5 区

掘立柱建物 SB01（Plate7）身舎梁行3間×桁行3間以上の東西棟で、北、南、西に廂を持つ。調査は建物の西側を検出したのみであるため、建物の東西規模などは不明であるが、おそらく東側にも廂が付くものと考えられる。方位はN 86.5° Wを示す。身舎の柱穴は方形で最大のもので1.2×1.4mを測る。溝SD05, SD06が身舎や南廟の柱穴を切っていたが、溝の底部において身舎の北西隅、南西隅の柱穴をかりうじて検出した。桁行の柱間は2.4m（8尺）を測り、梁行は3間の内、中央間が広がっている。廟の柱穴の規模は0.8～1mを測り、ほぼ正方形に近い。廟の出は2.1mを測る。柱穴の埋土はややしまりがない。

土師器 坏（37）P-8出土。口縁部は内面側に面を持つ。体部内面はミガキ、体部外面はハケのあとミガキ調整を施す。

掘立柱建物 SB02（Plate11）南北2間（2.7～3.15m）×東西2間（2.7～3.1m）の総柱建物の倉庫である。方位はN11°～17.5° Eを示す。柱穴は方形に近い円形で0.4～0.7mを測る。図示していないが、円形の透かしを持つ土師器・高坏の脚部の破片が出土している。

掘立柱建物 SB09（Plate8）梁行3間（4.8m）×桁行4間（5.8m）以上の東西棟である。方位はN86.5° Wを示し、SB01と同じ方位をとる。柱穴は方形で0.6～0.7×0.8～.9mの規模を測る。柱痕跡は直径0.2～0.3mである。北側の柱穴のうち西から2番目の柱穴は検出にはいたらなかった。

土師器（38）P-5の抜き取り痕と考えられるところからの出土。風化が著しく、調整は不明である。底部が非常に薄い。

掘立柱建物 SB90（Plate11）梁行（3.9m）柱間数

不明×桁行5間（6.8m）以上、方位はN37° Eを示す。柱穴は円形で直径0.45～0.5mを測る。竪穴住居ST04を切る。掘立柱建物SB01と重複する。明確な柱穴の切りあい関係は確認できていないため、前後関係は不明である。

掘立柱建物 SB141（Plate4）南北2間（1.75m）以上×東西2間（3.9m）以上、建物の北辺と東辺の一部を確認した。南辺、西辺は削平のため、検出には至らなかった。方位はN1.50Eを示し、掘立柱建物SB21と同じ方位を示す。

掘立柱建物 SB142（Plate8）梁行2間（3.3m）×桁行4間（6.0m）以上の南北棟である。方位はN52° Eを示す。柱穴は長方形、もしくは円形で、柱穴の規模は0.25～0.3m×0.3～0.35mとやや小さい。掘立柱建物SB09と重複するが、柱穴が切り合っていないため、前後関係は不明である。

掘立柱建物 SB143（Plate11）南北2間（3.0m）以上×東西2間（3.35m）以上、建物の南辺、西辺を検出した。北辺、東辺は調査区外へと続く。方位はN39° Eを示し、西側に位置する掘立柱建物SB90と近い方位をとる。

竪穴住居 ST04（Plate11）北西一南東7.7m×北東一南西6.0m以上、深さ0.2mを測る。主柱穴は確認できていない。中央やや南よりでつぶれた状態の赤彩土器（4）が出土した。

土師器（4～7）土師器壺（4）は口縁部、体部下半と肩部横線文、刺突による鋸歯文の文様部分を赤く塗る。5・6はS字甕で5は口縁部にV字状の刺突痕がある。6はハケ状工具による刺突痕があり、やや厚みがある。7は脚部の接合部分と体部に異なる工具によるハケ調整を施す。

竪穴住居 ST07（Plate14）北西一南東4.2m×北東一南西4.7m、深さ0.1mを測る。座標北に対して大きく傾き、北東一南西方向がやや長い方形を呈する。直径0.4m前後の規模の主柱穴を確認した。北西辺では焼土がみられ、竈が存在したと思われる。

竪穴住居 ST122（Plate11）南西隅の一部を確認したのみである。掘立柱建物SB02に切られる。埋土の色・質は竪穴住居ST04に似る。

溝 SD05・溝 SD06（Plate7）溝SD05は検出面での幅は2.2～3m、深さ0.4～0.7mを測り、溝SD06は幅1.7～2.4m、深さ0.6～0.7mを測る。この

2条の東西溝の距離は内法で3.0～4.2mを測り、北西から南東へ蛇行しながらも、ほぼ並行する。また、溝SD06は南辺から流れ込む暗褐色土の層がみられたことから、この2条の溝の間に土塁状の高まりが存在したと考えられる。出土遺物は他の溝に比べ少なく、土師器(74)・山茶碗(77・78)のほか、羽釜(75)・青磁(76)・天目茶碗も出土している。

溝SD10 幅3～3.5m、深さ1.0mを測る。南辺から流れ込む層が確認でき、溝の南側に土塁状の高まりが存在していた可能性が考えられる。4区で検出した溝SD15とは位置や埋土の状況から、一連のものと考えられる。土師器・須恵器・瓦(48)・近世瓦が出土している。

丸瓦(48) 凸面は丁寧にケズリ調整が施され、凹面には布の綴じ合わせ目が残る。

溝SD85・SD92 (Plate11) 溝SD85は幅0.3～0.8m、深さ0.2mを測り、方位はN42.5° Eを示す。溝SD92は幅0.3m、深さ0.1mを測り、方位はN41° 15' Eを示す。掘立柱建物SB90・SB143の間に位置し、これらの溝と建物の方位が近い値を示すことから、この2棟を区画する溝か、掘立柱建物SB90の雨落ち溝の可能性が考えられる。溝SD85からは土師器、溝SD92からは土師器・須恵器が出土している。

溝SD94 (Plate7) 幅0.75m、深さ0.45mを測り、方位はN42°～44° Eを示す。断面「V」字状を呈し、掘立柱建物SB01の柱穴、溝SD06に切られる。直線的に伸びる溝であるが、溝SD06の南側ではその延長は確認できていない。一方、2区において検出した溝SD49がほぼ延長上に位置する。土師器や須恵器の細片が少量出土しているのみで、遺構の性格や時期は不明である。

土坑SK08 (Plate14) 南北約4m×東西約3mの不整形な土坑である。土師器・須恵器・瓦などが出土している。また、検出時には瓦(56, 126, 127)が出土している。

土師器 (28・29) 28は体部内面に放射状暗文を施す。29は高杯の坏部と考えられ、体部内面には螺旋状暗文、外面には放射状暗文が格子状に施す。

土坑SK133 (Plate14) 西側が調査区外へと続くため正確な規模は不明であるが、4m以上×1m以上の方形に近い形状をするものと思われる。土師器・

丸瓦(57)が出土している。

表土除去作業中に丸瓦(125)、包含層から緑釉陶器(52)が出土している。

丸瓦(125) 行基式丸瓦で狭端部推定径は約7cmである。凸面は斜格子A類による叩き締めの後、短軸方向にケズリ調整を施す。凹面にはダーツ状の布の綴じ合わせ目が残る。

緑釉陶器(52) 底部内面に沈線があり、段皿と考えられる。

7. 6区

御門垣内古墳として鈴鹿市遺跡地図に登録されていた高まりは、調査前は竹藪となっており、竹藪はその西へと続き、低いながらも高まりがあり、御門垣内古墳の西およそ20mのところ南へと向きを変える。『三重の中世城館』には「高さ約3m、径30m足らずの土盛りが残」り、「城の遺構であろう。この南にも土塁の跡らしい所が竹藪となっている。」という記述があり、おそらく御門垣内古墳がこれにあたると思われる。

土塁 (Plate16) 残存する高まりで東西約22mを測り、南北幅は東側で約15m、西側では約9.5mを測る。高さは東側が2.2mを測り、西側は一段低くなっており、高さ1.2mを測る。この形状から前方後円墳と考えられ、鈴鹿市の遺跡地図には御門垣内古墳として登録されていた。高まりの北辺、南辺をとおる溝SD11・SD12や盛土から瓦のほか、土師器・山茶碗などが出土していることから、古墳ではなく土塁と判断した。南側の斜面からは近世から現代にかけての遺物も含めて、土師器(98～100・102～104・106・107)・山茶碗(105・109)・山皿(101)・瓦(110～121)・古瀬戸(108)など多数出土している。完形に近い土器が多数出土しており、**山茶碗(105)**は斜面に伏せた状態で出土している。

土師器(106・107)高坏(106)は坏部の口縁部を欠く。脚部は緩やかに開く。107は内面に放射状暗文を施し、外面はミガキ調整を施す。

瓦(110～121) 平瓦110は凸面に丁寧なケズリ調整を施す。111は斜格子A類による叩き締めの後、横方向にケズリ調整を施す。114は広端部側に分割の当りと思われる切り込みがある。116は凹面に布目痕ではなく、ケズリ痕がみられ、粘土板の合

わせ目が剥離したものと思われる。凸面は横方向のケズリ調整後、縦方向にケズリ調整を施す。丸瓦 119 は分割前に短軸方向にケズリ調整を施し分割後、側面付近を長軸方向に削り調整を施す。120 は広端部際に斜格子 B 類の叩き痕が残る。広端部推定径は約 13cm である。121 は分割突帯と粘土板の接合部分が一・致する。

古瀬戸 (108) 溝 SD11 出土 65 と同様の文様を持ち、同一個体かと思われる。

土塁の下層からは溝、土坑、小柱穴などを確認した。

土坑 SK105 (Plate17) 1.5m 以上×1.5m 以上、深さ 0.1m を測る不整形な土坑である。土師器、瓦 (122, 123)、山茶碗が出土している。

瓦 (122・123) 丸瓦 (122) は比較的丁寧なケズリ調整を施し、かすかに斜格子 B 類の痕跡が残る。

平瓦 (123) は粘土板の合わせ目が剥離した箇所にあたる。

土坑 SK107 (Plate17) 南北 0.6m × 東西 1.2m、深さ 0.2m を測る長方形の土坑である。

平瓦 (124) 焼成は非常に悪く、凸面は正格子叩き痕、凹面には布目痕、模骨痕がかるうじて残る。凹面は一部縦方向にナゲ調整を施す。

8. 7 区

『鈴鹿市史』に記述されている平田菊蔵氏宅は調査区の南西部に隣接し、4・5 区の南・7 区が「平田兵庫頭の屋敷地」とされる平田菊蔵氏宅の東の畑地にあたるものと考えられる。

掘立柱建物 SB03 (Plate12) 梁行 3 間 (4.5m) × 桁行 4 間 (6.15m) の南北棟である。柱穴は 0.5 ~ 0.7m × 0.7 ~ 0.8m の隅丸方形で、方位は N2° W を示す。

掘立柱建物 SB135 (Plate12) 調査区の南側で柱穴 3 基を検出した。建物の北辺にあたり、調査区外へと続くものと思われる。柱穴は方形で、0.8m × 0.9m の規模である。方位は N85° W を示し、掘立柱建物 SB01 に近い方位をとる。掘立柱建物 SB03 の柱穴と重複し、その切り合い関係から掘立柱建物 SB135 のほうが新しい。

掘立柱建物 SB80 (Plate12) 南北 3 間 (6.65 ~ 6.8m) × 東西 2 間 (4.55 ~ 4.65m) 以上の総柱建物である。方位は N1° 45' ~ 2° 45' E を示す。柱穴は直径 0.3m の円形である。溝 SD87 に近接する。

柵 SA144 (Plate12) 東西 6 間分検出した。柱間は 2.0 ~ 2.1m を測り、方位は N86.5° E を示す。掘立柱建物 SB03 の南辺のほぼ延長上に位置する。

溝 SD87・溝 SD91 (Plate12) 溝 SD87 は幅 1.8 ~ 2m、深さ 0.5m を測る。方位は N3° E を示す。溝 SD91 は断面逆台形状で幅 0.7 ~ 0.8m、深さ 0.4m を測る。この 2 条の溝は並行するが内法で 0.5m と近接している。溝 SD91 の東側には土塁から続く、低い高まりがある。高まりの東側は 0.4m ほど低くなっている。溝 SD87 からは土師器・伊勢型鍋・須恵器・灰粕陶器・山茶碗・溝 SD91 からは土師器・伊勢型鍋・須恵器・灰粕陶器・山茶碗・青磁が出土している。

山茶碗 (79・80) SD87 出土。高台はなく、体部は直線的に伸びる。

小柱穴 ヨー 7Pit2 (Plate12) 掘立柱建物 SB03 の柱穴に重複する小柱穴である。土師器・高坏 (159) が出土している。高坏の脚部で幅約 2cm ほどの面取りをする。

攪乱層からではあるが中世～近世の瓦が多数出土している。

丸瓦 (55) 凸面は長軸方向にケズリ調整、側面もケズリ調整、玉縁部分はナゲ調整を施す。凹面には吊り紐の痕跡が認められる。

9. 参考

平成 15 年度に本調査に先だって行った試掘調査では、須恵器円面硯 (160)・蓋 (161)・平瓦 (162) が出土している。

須恵器 (160・161) 円面硯は推定底径 222mm、脚部はやや外へ開き、端部は丸くおさめる。方形の透かしを持つ。

平瓦 (162) 狭端面は丁寧なケズリ調整を行う。凸面には斜格子 A・B の 2 種類の叩きの痕跡が見られ、凹面には布の綴じ目が確認できる。

Ⅲ．まとめ

今回の調査では、弥生時代から中世にかけての遺構が検出された。

1. 弥生時代後期～古墳時代初頭

方形周溝墓 SX62, 竪穴住居 ST04, 小柱穴が検出された。注目されるのは方形周溝墓の溝から出土した縄文晩期の石刀である。ほぼ完形で溝の肩に平行し、ほぼ水平な状態で出土している。出土状況から意図的に置かれたものと考えられる。古代、中世の遺構から少量の縄文土器片が出土しているものの、縄文晩期の遺構は検出されていない。何らかの形で入手した石刀を墓に供えたと考えらるべきであろうか。

2. 飛鳥時代～奈良時代

この時期の遺構としては、竪穴住居、掘立柱建物、土坑があげられる。掘立柱建物から出土している遺物は細片が多く、時期を判断するのは難しい。遺構の切り合い関係から確認できる遺構の変遷は、竪穴住居 ST23 → 竪穴住居 ST24, 竪穴住居 ST23 → 掘立柱建物 SB17, 掘立柱建物 SB03 → 掘立柱建物 SB135, 掘立柱建物 SB02 → 掘立柱建物 SB143 である。

竪穴住居群の方位には、あまり統一性はなく、竪穴住居 ST23, ST24, ST54 は近接するが、ST07 はやや離れる。竪穴住居 ST24 は ST23 の建て替えと考えられる。いずれの竪穴住居からも、斜格子叩きの瓦が出土しており、その他の遺物からも時期差のないものと思われ、おおむね 7 世紀後半から 8 世紀前半と考えられる。

掘立柱建物群は、建物の方位から①やや東へ傾く建物群、②やや西へ傾く建物群、③大きく東へ傾く建物群、④その他の 4 つのグループに分類した。

①群：SB01・SB09・SB135・SB21・SB141

四面廂付建物 SB01 と SB9 は同じ方位を示し、亮建物の芯一芯間の距離は約 21m (70 尺), SB01 の北辺と SB09 の南辺の距離は 14.5m (約 48 尺) を測る。また、掘立柱建物 SB09 の西側の梁行は掘立柱建物 SB01 の西側の梁行の 1 尺分東に位置し、計画的に建てられたものと考えられる。一方、掘立柱建物 SB135 は掘立柱建物 SB01 に近い方位を示し、その前面に位置する。距離は 19.65m を測る。掘立

柱建物 SB01 との関係は現時点では不明である。また、調査区による制約から、掘立柱建物 SB01 を中心に官衙跡で見られるような「コ」字型の配置をとるのかは不明である。時期については出土遺物から 8 世紀後半代と考える。

掘立柱建物 SB21・SB141 は N1.5° E を示し、大型掘立柱建物 SB01 より、座標北に近い値をとる。掘立柱建物 SB21 と SB141 の距離は約 42m を測り、掘立柱建物 SB141 の北辺の延長上に掘立柱建物 SB21 の柱穴が位置し、この 2 棟には企画性が認められる。しかし、掘立柱建物 SB01 との関連性は現時点では不明である。

②群：SB16・SB17・SB65・SB78

掘立柱建物 SB16 と SB17 は重複しないものの近接し、方位は 20 ほどずれるが、掘立柱建物 SB16 の柱間のおよそ中間に掘立柱建物 SB17 の柱が位置することから、関連性が高いと考えられる。掘立柱建物 SB78 は建て替えがあり、先行する建物は掘立柱建物 SB17 と方位を揃え、建て替え後は掘立柱建物 SB16 と方位を揃える。このことから掘立柱建物 SB17 から掘立柱建物 SB16 に建て替えられたと推測される。そして掘立柱建物 SB16 に近い方位をとる SB03・SB41・SB65 が SB16 と共に造営されていたものと思われる。

③群：SB90・SB143

掘立柱建物 SB90・SB143 は、ほぼ同様な方位を示し、その距離は約 3 m を測る。2 棟の建物の間には溝 SD85・SD92 が位置する。この溝は建物を区画するものか、掘立柱建物 SB90 の雨落ち溝と考えられる。

④群：SB02・SB31・SB142

2 間×2 間の小型の倉庫である SB02・SB31 は方位によってグループ化することができない。掘立柱建物 SB31 は柱穴から灰粕陶器片が出土しており、時期は平安時代まで下る。掘立柱建物 SB142 は、竪穴住居 ST07 と比較的近い方位をとる。

掘立柱建物群は②群→①群へと変遷するものと考えられ、時期はおおむね 8 世紀代と考えられる。竪穴住居群との関係は竪穴住居 ST23 と掘立柱建物 SB17 の切りあい関係から、竪穴住居群が②群に先行するか、一部並行すると考えられる。③・④群については宅地部分の調査の進展により明らかと

なっていくと思われる。

今回の調査で注目すべきは、四面廂付掘立柱建物である。地方において四面廂付建物は国府政庁や国司の館の主屋などでみられ、格式の高い建物と考えられている。平田遺跡周辺では伊勢国府跡政庁正殿（身舎3間×5間）、伊勢国分寺金堂、講堂など瓦葺礎石建物がみられる。伊勢国府跡ではその他に政庁の100mほど北東において四面廂付掘立柱建物（身舎2間×5間）が検出されている。政庁とは異なる方位を示し、柱穴の規模は0.5～0.6mと小さいが、柱間は梁行11尺、桁行・廟の出が10尺を測り、今回検出した掘立柱建物SB01より規模が大きいと思われる。郡山遺跡群末野B遺跡では平安時代ではあるが身舎2間×3間の四面廂付掘立柱建物が検出されている。松阪市打田遺跡では柱筋が通らないが、重複する2棟が四面廂である可能性が指摘されている。その他伊勢国内において古代の四面廂付掘立柱建物は、知られていない。一面～三面の廂付掘立柱建物が検出されている西ヶ広遺跡、天王山西遺跡、三宅神社遺跡、梅田遺跡、郡山遺跡群、大垣内遺跡、六大B遺跡、雲出島貫遺跡、古里遺跡などでは官衙や官衙関連、居宅などの可能性が指摘されている。

地方官衙遺跡では施設を継続的に使用するため、同一位置で建て替えられていることが多くみられるが、今回見つかった建物群は同一箇所での建て替えが少なく、場所を変えている。①群の掘立柱建物SB01とSB09は並行し、正殿と後殿といった企画性のあるものと考えられる。黒崎直氏が指摘する「平城京の宮周辺で特徴的に見られた並列型配置」は「非農村的色彩の濃い建物配置で」「差が明確な二棟が組み合う主屋タイプを通例としており、さらには多くの建物をともなうという特徴をも」ち、「有力貴族の邸宅と呼ぶにふさわしい内容をもつものなのである。」としている。掘立柱建物SB01を正殿、掘立柱建物SB09を後殿とし、脇殿をとともなう官衙で見られるような「コ」字型配置をとるかは調査区による制約から現時点では不明であるが、黒崎氏が指摘する並列型配置にはあてはまり、かつ主屋タイプにもあてはまる。同一位置での建て替えが認められず、2棟を区画する施設もなく、現時点では官衙というよりは国司・郡司等の居宅と考えるべきであろう。伊勢国内では

四面廂付掘立柱建物の例が少なく、かなりの有力者であると想像される。

福島県いわき市根岸遺跡では磐城郡衙政庁・正倉院・寺院・居宅が調査されている。居宅と想定されている地区では、身舎3間×5間の四面廂付掘立柱建物が検出されている。東に2間×5間の東西棟、西に堅穴住居が1棟伴う。企画性はないが、建物の規模はよく似た規模である。

②群については規模や廟を持つことから掘立柱建物SB16・SB17が主屋と考えられる。掘立柱建物SB78はSB16・SB17に近接し、SB16とは雁行、SB17とは直列に並ぶ。しかし、掘立柱建物SB03・SB41・SB65とは厳密な企画性は認められない。しかし、周辺の堅穴住居や柱穴、土坑から暗文土師器が出土しており、いずれにしても一般的な集落とは考えがたい。

3. 中世

中世の遺構については室町時代の城館・平田城に関連する遺構の検出が期待されたが、今回検出された遺構は出土遺物から主に鎌倉時代が中心と考えられる。遺構は調査区全体に広がり、2区東部において顕著に見られる。掘立柱建物SB29は2・3区で検出した平行する2条の溝SD19・SD20、SD45・SD46、SD55・SD56に囲まれる屋敷地に建つものと思われる。屋敷地の東西の規模は外側の溝の内法で約41mを測り、掘立柱建物SB29は溝SD46から建物の東辺まで約17m、1溝SD19から西辺まで約18mを測り、おおよそその中心に位置する。南辺にあたる溝SD56からは約16mを測る。埋土の状況から並行する2条の溝の間に土塁が存在していた可能性は低いものと思われる。

今回検出した溝SD05・SD06・SD10・SD13・SD15・SD33・SD87・SD91も同様に屋敷を区画する溝と考えられる。

平田城については平田氏が応仁元（1467）年に城を枚田郷平田に移してから、滅亡するまで百年余あるが、該当時期の遺物は溝SD05上層・SD33から羽釜・溝SD11・SD13・土塁から古瀬戸が数点出土している程度である。今回の調査地は城の中心部分の調査ではなく、現在まで残存した土塁は平田城の土塁としても機能していたと考えられるが、遺物の出土量が少なすぎるように思われる。

4. 遺物

今回の調査では、平瓦・丸瓦・暗文土師器が比較的まとまって出土している。

平瓦は粘土板桶巻作りによるもので、凹面に模骨痕や分割突帯・捺糸痕跡、粘土が剥離した痕跡が見られる。凸面は工具による叩き締めの後、横方向にケズリ調整を施す。叩き具の様子は現時点では正格子1種、斜格子3種類、縄目1種(丸瓦1点)が確認できている。また、丁寧に横方向のケズリ調整を施し、斜格子の痕跡を残さないものもある。斜格子A類は格子目が方形で、工具の欠損部分が2箇所見られる。斜格子B類は格子目が細長い菱形である。斜格子C類は格子目が方形でA類に類似しているが一致する箇所がなかったため、別のものとした。正格子は格子目が長方形である。いずれも叩き締めのとケズリ調整を施すため、部分的に残るものである。斜格子は、焼成は良好で、赤褐色ないし禮色を呈し、丁寧にケズリ調整を施すものはやや焼成が悪い。正格子は非常に焼きが悪い。

出土した瓦は破片が多く、全体がわかるものがない。竪穴住居ST24から出土した瓦(19)は長さが36cmを超える。竪穴住居ST54から出土した瓦(27)から推定される桶の直径は39.4cm(広端部)を測る。土坑SK119から出土した瓦(44)から推定される直径は36.8cm(広端部)、試掘坑出土瓦(128)から推定される直径は45.8cm(広端部)を測る。桶は直径35～45cm、高さ40cmほどのものであろう。凹面に模骨痕が明瞭に残るものと残らないもの、模骨痕の幅も4～6cmと幅があり、数種類の桶を使用していたと思われる。

丸瓦は行基式のものや玉縁式のものがあり、行基式は平瓦と同様、赤褐色もしくは橙色を呈し、やや焼成の悪いものもあるが、おおむね良好で、斜格子の叩きした後、短軸方向にケズリ調整する。分割後、長軸もしくは斜め方向にケズリ調整を施すものもある。

玉縁式はやや焼成が悪く、縄叩きした後、横方向にケズリ調整を施す。

今回の調査では寺院に関連すると思われる遺構は検出されておらず、また、瓦以外の寺院に関連する遺物は出土していない。主に瓦は竪穴住居から出土しており、瓦の生産に関連していたか、寺

院の造営に関連していて廃棄された瓦を入手できたものと思われる。

南浦遺跡(大鹿廃寺)で格子叩き痕の残る瓦が少量出土している。B類に比較的類似しているものの焼成が非常に悪く、かすかに痕跡を残す程度であるため、断定はできないが、異なるものと思われる。鈴鹿郡には瓦の散布により古代寺院想定地が数箇所あるが、平田遺跡で出土した瓦が使用されていた寺院については不明である。寺院は官衙や居宅に伴う場合があり、瓦の散布は知られていないが、今回の調査地の近隣に寺院が存在していた可能性もあり、今後の調査の進展に期待したい。

【参考文献】

- 黒崎直 1984 「平城京における宅地の構造」『日本古代の都城と国家』塙書房
- 竹内英昭 1997 「飛鳥・奈良時代の集落遺跡の検討」『研究紀要』第6号
- 山中敏史 1994 『古代地方官衙の研究』塙書房
- 猪狩忠雄ほか 2000 『根岸遺跡磐城郡衙跡の調査』いわき市教育委員会
- 岡田雅幸ほか 『埋蔵文化財発掘調査概報天王山西遺跡・三宅神社遺跡・梅田遺跡』鈴鹿市教育委員会
- 小玉道明ほか 1970 「西ヶ広遺跡『東名阪道路埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会
- 中森成行 1978 『鈴鹿市郡山町末野B遺跡調査概報』鈴鹿市遺跡調査会
- 中森成行 1979 『鈴鹿市郡山町末野C遺跡調査概報』鈴鹿市遺跡調査会
- 新田剛 2001 『伊勢国府跡3』鈴鹿市教育委員会
- 997 『一般国道23号中世道路(9工区)道路建設事業に伴う橋垣内遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター
- 福田哲也 1992 『ヒタキ廃寺・打田遺跡・阿形遺跡ほか』三重県埋蔵文化財センター
- 鈴鹿市 1980 『鈴鹿市史』
- 三重県教育委員会 1977 『三重の中世城館』三重県良書出版会
- 佐原真 1972 「平瓦桶巻き作り1」『考古学雑誌』第58巻第2号
- 瀧本正志 1983 「平瓦桶巻き作りにおける一考察—粘土円筒分割のための指標の種類について7」『考古学雑誌』第69巻第2号
- 瓦の端部調整の分類は、奈良文化財研究所 2003 『気高町文化財報告書第30集上原遺跡群発掘調査報告書—古代因幡国気高郡衙推定地一』鳥取県気高町教育委員会による。

Tab.1 掘立柱建物・柵一覧表

遺構名	規模			柱間寸法		棟方向	柱堀形 [m]	柱痕 [m]	時代	備考
	間数 (桁行×梁行) 形式	桁行 [m]	梁行 [m]	桁行 [m]	梁行 [m]					
SB01	身舎3間以上×3間 四面廂?	6.9以上	10.65	身舎 2.4+2.4+? 西廂出 2.1	身舎 2.1+2.55+1.8 北廂出 南廂出 2.1	N86° 30' W 東西棟	身舎 方形 1.4×1.2 廂 ほぼ正方形 0.8~1.0	0.25~0.3	奈良	
SB02	2間×2間 総柱	南北 2.7~3.15	東西 2.7~3.1	東辺 1.3+1.4 西辺 1.45+1.7	北辺 1.2+1.5 南辺 1.8+1.3	N11° E~N17° 30' E	方形に近い円形 0.4~0.7	0.15~0.2	飛鳥~奈良	
SB03	4間×2間 側柱	6.15	4.5	1.6+1.5+1.5+1.55	2.1+2.4	N2° W 南北棟	隅丸方形 0.5~0.7×0.7~0.8	0.15~0.2	飛鳥~奈良	
SB09	4間以上×3間 側柱	5.8以上	4.8	北辺 ?+?+1.75+? 南辺 1.8+2.1+1.95+?	?+?+1.75	N86° 30' W 東西棟	隅丸方形 0.65~0.7×0.8~0.9	0.2~0.3	奈良	柱の抜き取り痕あり
SB16	5間×2間以上? 側柱?	9.95	2.0以上	2.1+2.25+2.1+1.8+1.7	2.0+?	N86° E 東西棟	方形 0.6~0.8×0.7~0.95	0.2~0.3	飛鳥~奈良	
SB17	身舎4間×2間 一面廂(南)	8.25	5.6 (4.2)	2.1+2.0+1.9+2.25	2.0+2.2 南廂出 1.4~1.45	N84° E 東西棟	身舎 隅丸方形0.5~0.6×0.6~0.9 廂 円形 0.5	0.2~0.3	飛鳥~奈良	
SB21	4間以上×?	5.95	3.85	1.6+1.35+1.65+1.35	—	N1° 30' E 南北棟	円形 0.4~0.5	0.2	—	
SB29	4間×3間 総柱	南北 8.0	東西 6.5	1.85+2.1+2.25+1.8	2.2+2.2+2.1	N0° 30' E~N1° 30' E 南北棟	円形 0.3~0.35	円形・方形 0.15	鎌倉	礎版あり
SB31	2間×2間 総柱	南北 3.25~3.6	東西 3.1~3.2	東辺 1.75+1.85 西辺 1.4+1.85	北辺 1.5+1.6 南辺 1.5+1.7	N26° W~N27° 30' W	隅丸方形 0.5×0.5	0.15~0.2	平安	
SB37	4間×3間以上 総柱	9.05	4.45	2.2+2.3+2.4+2.25	2.3+2.15+?	N75° W 東西棟	円形 0.35~0.45	0.15	鎌倉	1基のみ礎版あり
SB41	3間以上×3間 側柱	4.0以上	3.8	1.5+1.4+1.3+?	1.2+1.1+1.5	N87° E 東西棟	円形 0.4	0.15~0.2	飛鳥~奈良	
SB65	4間×2間以上?	6.6	1.9以上	1.8+1.5+1.6+1.7	1.9+?	N2° 30' W 南北棟	隅丸方形 0.7×0.8	0.15~0.2	飛鳥~奈良	
SB78 古	3間以上×3間 側柱	4.6以上	3.85	2.1+2.5+?	1.4+1.4+1.05	N86° E 東西棟	隅丸方形 0.4×0.6 円形 0.3~0.5	0.15~0.2	飛鳥~奈良	
SB78 新	3間以上×3間 側柱	3.0以上	4.1	1.5+1.5+?	1.15+1.5+1.45	N84° E 東西棟	円形 0.3~0.5	0.15~0.2	飛鳥~奈良	
SB80	3間×2間 総柱	6.65~6.8	4.55~4.65	2.2+2.25+2.2	2.35+2.2	N° 45' E~N° 15' E 南北棟	円形 0.3	0.15	鎌倉	
SB90	5間以上×? 側柱	6.8以上	3.9	東辺 1.55+1.8+1.65+1.9 西辺 1.6+?	—	N37° E 南北棟	円形 0.45~0.5	0.15~0.2	—	
SB135	?×2間 側柱	—	3.9	—	1.9+2.0	N85° W 南北棟?	方形 0.8×0.9	0.2	奈良	
SB141	南北2間以上×東西2間以上 側柱	南北 1.75以上	東西 3.9	1.75+?	1.8+2.1	N1° 30' E 不明	隅丸方形 0.5×0.6 円形 0.35~0.5	0.2	—	
SB142	4間以上×2間 側柱	6.0以上 (4.7)	3.3	1.5+1.6+1.6+1.3	1.7+1.6	N52° E 南北棟	方形・円形 0.25~0.3×0.3~0.35	0.15	—	
SB143	南北2間以上×東西2間以上 側柱	南北 3.0以上	東西 3.35	1.65+?	1.6+1.75?	N39° E 不明	方形に近い円形 0.5	0.2	—	
SA58	2間以上	4.3		2.25+2.05		N78° 30' E	円形 0.5	0.2	—	
SA144	6間以上	12.4		2.0+2.05+2.1+2.0+2.1		N86° 30' E	円形 0.3~0.7 方形0.5×0.6	0.2~0.3	飛鳥~奈良	

Tab. 2 出土遺物観察表

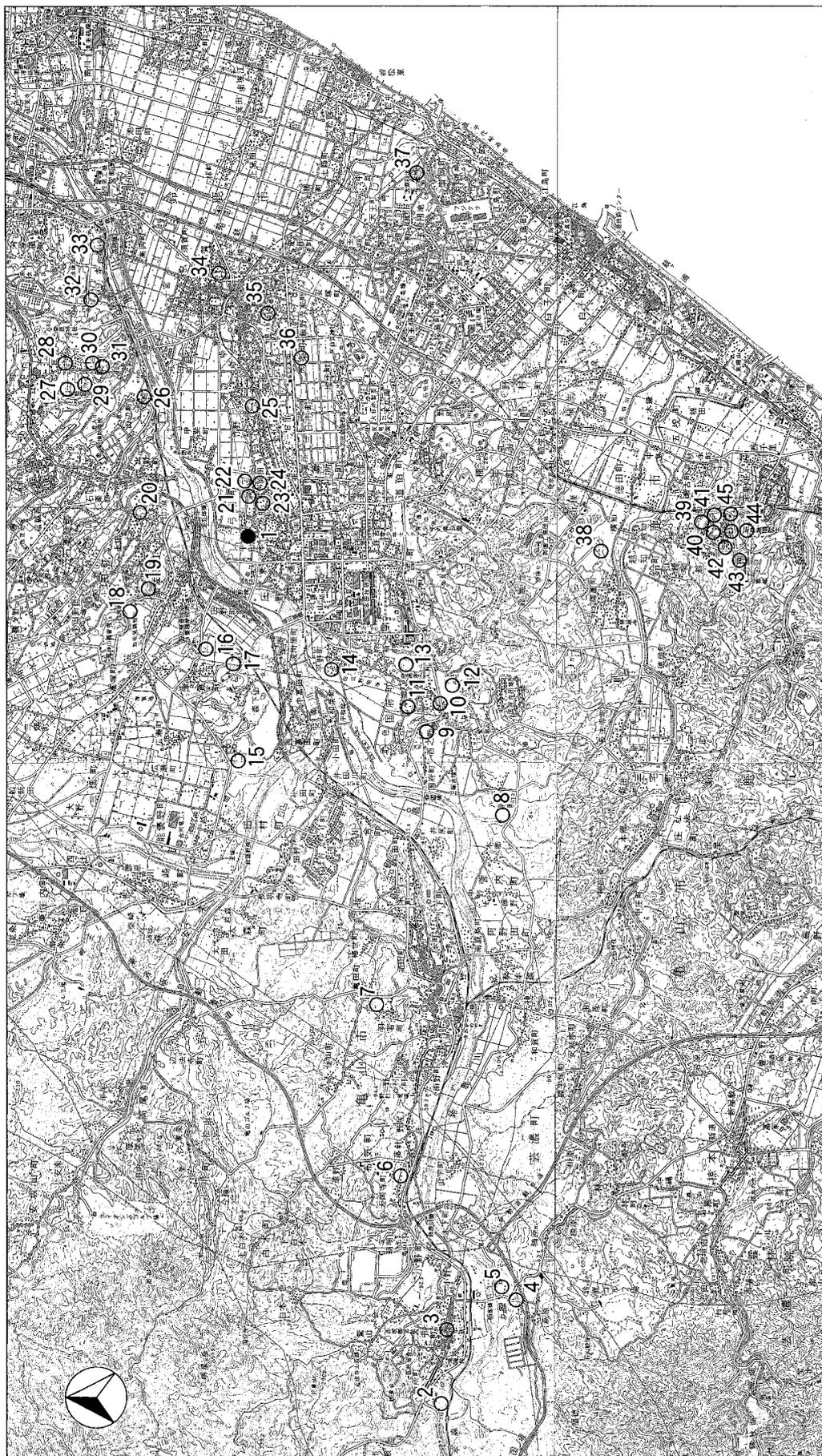
番号	器種など	調査区	遺構名・層位	法量			調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	軸轆	備考	
				口径	底径	器高							
1	石製品	磨製石刀	4区	SK62	39.2	2.5	2.2	柄に斜格子文2帯・短線文1帯が刻まれる	-	-	緑灰色	-	直刀、刀刃はなし
2	弥生土器	手焙り形土器	4区	SK62	(16.1)	4.0	16.8	覆部内面：ケズリ・外面：ハケ 体部内・外面：ハケ 底部：ケズリ	密	良好	赤褐色	-	覆部と体部とは調整方向が異なる
3	弥生土器	壺	4区	SK62 下層	(15.0)	-	[9.9]	肩部：半裁竹管による横線	密	やや甘い	橙色	-	-
4	土師器	壺	5区	ST04 アゼ S	23.7	(7.8)	-	内面：ナデ 外面：横線文・刺突による縦線文・刺突文・赤彩	密	良好	浅黄褐色	-	-
5	土師器	S字甕	5区	ST04 拡張 S	(15.6)	-	[3.9]	口縁はヨコナデ・胴部はハケ	密	概ね良好	浅黄褐色	-	外面口縁下部に刺突文
6	土師器	S字甕	5区	ST04 SE 上層	(16.4)	-	[3.9]	口縁はナデ・胴部はハケ	密	やや甘い	にぶい黄褐色	-	外面口縁下部に煤の付着
7	土師器	台付甕	5区	ST04 SE 上層	-	-	[4.0]	内・外面：ハケ	密	概ね良好	にぶい黄褐色	-	体部と脚部ではハケの工具が異なる
8	弥生土器	壺	2区	7-12Pi+3	-	7.0	[10.7]	ハケ→ミガキ	粗	やや軟	にぶい褐色	-	-
9	須恵器	蓋	1区	ST24 NE	(12.4)	-	(3.5)	天井部：ヘラ切り・指おさえ 体部～内面：ナデ	密	良好	青灰色	-	-
10	須恵器	坏	1区	ST24 NE	(10.3)	-	(3.0)	内面底部：不定方向ナデ 口縁部～外面：ナデ 底部：ヘラ切り	密	良好	青灰色	-	かえり部分に工具痕
11	須恵器	坏	1区	ST24 Eアゼ上層	(13.2)	-	[4.8]	内・外面：ナデ 底部：ケズリ	密	良好	青灰色	-	-
12	土師器	皿(暗文)	1区	ST24 SE	-	-	-	内面：ヨコナデ 外面：ケズリ	密	良好	明赤褐色	-	放射状暗文
13	土師器	坏(暗文)	1区	ST24 SE	(16.6~17.8)	-	[5.2]	内面：ナデ→施文 口縁部：轆轤ナデ 外面：ケズリ	密	良好	明赤褐色	-	放射状暗文、螺旋状暗文
14	土師器	皿(暗文)	1区	ST24 E	(19.6)	-	[1.5]	内面～口縁：ヨコナデ 底部：ケズリ?	密	軟	浅黄褐色	-	赤彩後に施文か?放射状暗文
15	土師器	坏?(暗文)	1区	ST24	-	-	-	内面：ハケ→施文 外面：ミガキ・ケズリ	密	良好	明赤褐色	-	放射状暗文
20	須恵器	蓋	4区	ST54 NE	(16.5)	-	3.8	つまみ部：ナデ 天井部：回転ヘラケズリ 口縁～内面：ナデ	密	良好	黄褐色	右回転	-
21	須恵器	蓋	4区	ST54 SE	(12.3)	-	2.5	天井部：回転ヘラケズリ 口縁～内面：ナデ	密	良好	青灰色	-	-
22	須恵器	蓋	4区	ST54 SE	(13.1)	-	[2.3]	天井部：回転ヘラケズリ 口縁～内面：ナデ	密	良好	黄褐色	-	-
23	須恵器	坏	4区	ST54 SE	(20.3)	-	[4.3]	内面：ナデ 外面：ケズリ	密	良好	灰褐色	-	-
24	須恵器	皿	4区	ST54 SE	(19.1)	1.7	-	内面～外面体部：ナデ 底部：回転ヘラケズリ	密	良好	灰褐色	右回転	-
25	土師器	?(暗文)	4区	ST54 SE	-	-	-	内面：ミガキ	密	良好	褐色	-	放射状暗文
26	土師器	?(暗文)	4区	ST54 SE	-	-	-	内面：ミガキ	密	良好	明赤褐色	-	放射状暗文
28	土師器	碗?(暗文)	5区	SK08 アゼ N上層	-	-	-	-	密	良好	赤褐色	-	放射状暗文
29	土師器	高坏(暗文)	5区	SK08 アゼ N上層	(19.8)	-	[1.9]	内面：ヨコナデ 外面：ミガキ	密	良好	褐色	-	螺旋状暗文
31	土師器	皿(暗文)	4区	SK70 N	-	-	-	内面：ヨコナデ 外面：ミガキ	密	やや甘い	にぶい褐色	-	放射状暗文、螺旋状暗文
32	土師器	坏(暗文)	4区	SK70 アゼ	-	-	[2.9]	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ→ミガキ	密	良好	明赤褐色	-	螺旋状暗文
33	土師器	坏(暗文)	4区	SK70 アゼ	-	-	-	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ→ミガキ	密	良好	明赤褐色	-	螺旋状暗文
34	土師器	坏(暗文)	4区	SK70 アゼ	-	-	-	内面：ヨコナデ 外面：ミガキ	密	良好	明赤褐色	-	螺旋状暗文
35	土師器	皿(暗文)	4区	SK72	(20.5)	-	2.2	内面～口縁：ヨコナデ 体部：ケズリ	密	やや甘い	褐色	-	螺旋状暗文
36	須恵器	蓋	4区	SK70 S	(16.2)	-	3.5	天井部：ヘラケズリ 口縁～内面：ヨコナデ	密	良好	灰褐色	-	天井部内面に当て具痕
37	土師器	坏	5区	SB01 P-8 SE	(20.4)	-	[4.1]	内面：ミガキ 外面：ハケ+ミガキ	密	良好	明赤褐色	-	-
38	土師器	坏	5区	SB09 P-5 N	(12.6)	-	[3.1]	内面：ナデ 外面：不明	密	悪	褐色	-	-
39	土師器	坏	4区	SK75	-	-	[3.7]	口縁部：ナデ 外面：ミガキ	密	良好	赤褐色	-	内面に煤の付着
40	土師器	皿	4区	SK75 N	(13.6)	-	2.1	口縁部付近：ナデ	密	甘い	褐色	-	-
41	須恵器	坏(暗文)	4区	北検出	-	(11.0)	[1.15]	内面～高台：ナデ 底部：ケズリ	密	良好	灰褐色	右回転	底部内面に当て具痕
42	土師器	坏?(暗文)	2区	SB17 P-3	-	-	-	内面：ケズリ	密	良好	褐色	-	放射状暗文、螺旋状暗文
43	石製品	玉?	2区	SB16 P-6	直径2.2	-	-	-	密	良好	にぶい褐色	-	棒状工具による刺突痕
45	須恵器	蓋	4区	SK119	(11.5)	-	3.3	天井部：回転ヘラケズリ 口縁～内面：ナデ	密	良好	青灰色	右回転	-
51	土師器	小皿	3区南	表土除去	7.4	-	1.5	内・外面：磨削の不明	密	良好	にぶい黄褐色	-	-
52	緑釉陶器	段皿?	5区	包含層(西地部)	-	-	[1.2]	体部：轆轤ナデ 底部：ケズリ	密	良好	黄褐色 釉:緑色	-	-
53	灰釉陶器	小碗	4区	北検出	-	(7.0)	[2.0]	外面：轆轤ナデ 底部：ケズリ	密	良好	灰白色	左回転	内面に三叉トチン痕
54	灰釉陶器	小碗	排土	-	(10.7)	5.4	3.4	口縁部：轆轤ナデ 底部：ナデ	密	良好	灰白色	左回転	-
58	陶器	山皿	3区	SD11 上層	(8.9)	(4.3)	2.5	内・外面：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰黄色	-	-
59	陶器	山茶碗	3区	SD11 上層	-	(7.0)	[2.5]	内・外面：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰白色	右回転	-
60	陶器	山茶碗	3区	SD11 中層	-	(7.7)	[1.65]	底部：糸切り	密	良好	灰白色	右回転	-
61	陶器	常滑焼	3区	SD11 下層	-	-	[4.9]	内面：ナデ	密	良好	黄褐色 釉:灰白色 赤地:にぶい褐色	-	口縁外面には軸がかかる
62	陶器	山茶碗	3区	SD13 下層	-	(6.2)	[1.4]	高台部：ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰白色	右回転	-
63	陶器	山茶碗	3区	SD12 中層	(14.2)	6.4	5.3	内面～外面：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰褐色	-	-
64	古瀬戸	折縁深皿	3区	SD12 中層	(19.3)	-	[4.4]	体部：不明 底部：ケズリ	密	良好	灰白色	-	体部に軸がかかる
65	古瀬戸	折縁深皿	3区	SD12 上層	-	-	-	内・外面：軸の不明	密	良好	軸:浅黄色 素地:淡黄色	-	-
66	陶器	山茶碗	2区	SD46 上層	(14.9)	(6.8)	4.5	体部：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰白色	右回転	-
67	陶器	山茶碗	2区	SD46 中層	(15.2)	7.0	5.0	外面：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰白色	左回転	-
68	陶器	山茶碗	2区	SD46 中層	(15.5)	6.4	5.4	体部：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰白色	-	-
69	青磁	碗	2区	SD46 上層	-	-	-	内・外面：軸の不明	密	良好	オリーブ灰色	-	内面に飛雲状の文様
70	陶器	山茶碗鉢	2区	SD46 中層	-	(13.4)	[5.8]	高台付近：回転ヘラケズリ	密	良好	灰白色	右回転	-
71	灰釉陶器	短頸壺	3区	SD56 上層	(14.3)	-	[6.4]	口縁部：轆轤ナデ	密	良好	釉:灰白色 赤地:灰白色	-	-
72	陶器	山茶碗	3区	SD55	-	(7.2)	[3.3]	内・外面：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	やや悪い	灰黄色	-	右回転?
73	陶器	山茶碗	3区	SD55	-	(5.7)	[2.35]	底部：糸切り後ケズリ	密	良好	浅黄色	左回転	-
74	土師器	小皿	5区	SD05	7.0	3.5	1.7	口縁部：ヨコナデ	密	良好	にぶい黄褐色	-	-
75	土師器	羽釜	5区	SD05	-	-	-	口縁部：ヨコナデ	密	良好	明赤褐色	-	背から胴部にかけて煤の付着
76	白磁	-	5区	SD05	-	-	-	口縁部：ヨコナデ	密	良好	灰白色	-	-
77	陶器	灰釉陶器	5区	SD05	(16.0)	7.0	6.1	内面～外面：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰黄色	右回転	体部に灰釉?
78	陶器	山茶碗	5区	SD05	(13.7)	(6.0)	[5.0]	底部：糸切り	密	良好	灰白色	-	-
79	陶器	山茶碗	7区	SD87 中層	(13.4)	(6.0)	4.3	体部：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰褐色	右回転	-
80	陶器	山茶碗	7区	SD87 下層	(14.3)	(5.3)	5.5	体部：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰褐色	右回転	-
81	土師器	小皿	2区	SK26 SW	(8.7)	-	1.5	口縁部付近：ナデ 体部：ナデ?	密	やや軟	にぶい黄褐色	-	-
82	灰釉陶器	(山茶碗)	4区	SK35 SE	(10.0)	5.8	3.2	内・外面：轆轤ナデ	密	良好	釉:緑褐色 赤地:灰白色	右回転	-
83	土師器	小皿	4区	SK36 SE	9.3	-	2.3	体部：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	やや軟	褐色	右回転	-
84	灰釉陶器	(山茶碗)	4区	SK36 S	-	(5.2)	[1.9]	体部：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	褐灰色	左回転	-
85	土師器	碗	4区	SK36	(16.4)	-	[3.5]	口縁部付近：轆轤ナデ	密	良好	褐色	右回転	内面に工具痕
86	土師器	碗	4区	SK36 S	-	(7.4)	[3.2]	内面：轆轤ナデ 外面：轆轤ナデ? 底部：糸切り	密	やや軟	褐色	右回転	-
87	土師器	皿(暗文)	4区	SK36 S	(24.9)	-	2.1	口縁部付近：轆轤ナデ 底部：ナデ	密	良好	褐色	-	放射状暗文
88	土師器	小皿	2区	SK42 SW	8.0	-	1.7	口縁部付近：ヨコナデ	密	やや甘い	浅黄褐色	-	-
89	陶器	山茶碗	2区	SK42 SW	-	(7.1)	3.5	体部：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	青灰色	右回転	-
90	土師器	伊勢型鍋	2区	SK42 SW	(29.0)	-	[5.2]	口縁部：ヨコナデ 内面：ナデ?	密	やや甘い	にぶい黄褐色	-	-
91	青磁	碗	2区	SK42 SW	-	(6.4)	[2.7]	高台部：ケズリ・ナデ	密	良好	軸:明緑灰色 赤地:灰白色	-	-
92	陶器	山皿	2区	SK43 NE 上層	8.2	2.7	4.6	内・外面：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	褐灰色	右回転	-
93	陶器	山茶碗	2区	SK43 下層	(16.0)	(7.5)	5.0	内・外面：轆轤ナデ 口縁部：強い轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰白色	右回転	-
94	石製品	砥石	2区	SK43 NE 下層	5.8~6.6	2.1~2.6	1.0~1.9	左上に径約0.4cmの穿孔	-	-	灰白色	-	表・裏ともに縦方向の研削痕
95	ふいごの羽口	2区	SK42	-	-	-	-	-	密	良好	黒褐色にぶい黄褐色	-	-
96	土師器	坏	2区	SK60	(16.7)	(9.3)	[4.2]	内面：ミガキ 外面：ヨコナデ・ケズリ	密	良好	内面:黒褐色 外面:にぶい褐色	-	-
97	土師器	坏	4区	SK76 アゼ	15.0	-	[4.2]	内面～口縁：ヨコナデ 外面：ミガキ	密	良好	赤褐色	-	螺旋状暗文

Tab. 2 出土瓦観察表

番号	器種など	調査区	遺構名・層位	法量			調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	軸轆	備考
				口径	底径	器高						
98	土師器 小皿	6区土壘	下段南斜面	8.0	-	1.7	口縁部：ヨコナデ 体部：ケズリ・指おさえ	密	良好	橙色	-	
99	土師器 小皿	6区土壘	下段南斜面	8.2	-	1.9	口縁部：ヨコナデ 内面：不定方向ナデ	密	良好	橙色	-	
100	土師器 小皿	6区土壘	下段南斜面	8.0	-	1.5	内面：不定方向ナデ 底部：ケズリ	密	良好	橙～浅黄褐色	-	
101	陶器 山皿	6区土壘	下段南斜面	8.2	5.1	1.8	内・外面：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰白色	右回転	
102	土師器 皿	6区土壘	下段南斜面	13.1	-	(2.9)	口縁部：ヨコナデ 内面：不定方向ナデ 外面：ケズリ・指おさえ	密	良好	浅黄褐色	-	
103	土師器 皿	6区土壘	下段南斜面	(12.4)	-	3.2	口縁部：ヨコナデ 内面：不定方向ナデ	密	概ね良好	橙色	-	
104	土師器 皿	6区土壘	下段表土南斜面	(12.4)	-	[3.1]	内面：タテナデ 口縁部：ヨコナデ	密	良好	にぶい黄褐色	-	
105	陶器 山茶碗	6区土壘	下段南斜面中腹	(14.7)	(6.3)	5.4	体部：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰褐色	右回転	
106	土師器 高坏	6区土壘	西断面⑥層	-	(10.5)	[10.6]	外面：ミガキ?	密	やや甘い	黄橙～にぶい黄褐色	-	外面に赤彩?
107	土師器 ? (暗文)	6区土壘	下段 下層黒色土	-	-	-	内面：ナデ 外面：ミガキ	密	良好	橙色	-	放射状暗文
108	古瀬戸 折縁深皿	6区土壘	上段 南斜面SE	-	-	-	内・外面：軸の不明	密	良好	黄：オリーブ黄 黒地：にぶい黄褐色	-	
109	陶器 山茶碗鉢	6区土壘	下段表土南斜面	-	(16.6)	[4.3]	高台部：ヨコナデ 底部：不定方向ケズリ	密	良好	灰黄色	-	
130	土師器 小皿	4区	SE121	8.3	4.7	1.5	口縁部～外面：ヨコナデ	密	やや軟	橙色	-	
131	土師器 小皿	4区	SE121	7.8	[4.6]	(1.7)	口縁部～外面：ヨコナデ	密	軟	淡黄褐色	-	
132	土師器 小皿	4区	SE121	(8.0)	[4.1]	1.6	口縁部～外面：ヨコナデ2段	密	やや軟	にぶい褐色	-	
133	土師器 皿	4区	SE121	12.8	[6.5]	2.9	外面：ヨコナデ 底部：指おさえ?	密	やや軟	にぶい黄褐色	-	粘土紐の巻き上げ
134	土師器 小皿	4区	SE121	7.5	3.9	1.3	口縁部～外面：ヨコナデ 底部：不定方向ナデ	密	軟	明黄褐色	-	
135	陶器 山皿	4区	SE121	7.8	4.4	1.7	口縁部から外面：轆轤ナデ 底部：ケズリ	密	良好	青灰色	-	内面に煤付着、灯明皿?
136	陶器 山皿	4区	SE121	(8.0)	4.5	1.8	内面：轆轤ナデ 外面：ヨコナデ 底部：糸切り	密	良好	青灰色	右回転	内面底部に墨書による記号あり
137	土師器 皿	4区	SE121	(13.4)	9.5	[2.4]	口縁部付近：ヨコナデ	密	良好	にぶい黄褐色	-	
138	陶器 山皿	4区	SE121	7.5	4.5	1.5	内・外面：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰白色	右回転	
139	陶器 山皿	4区	SE121	8.3	4.3	1.7	内・外面：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	青灰色	右回転	
140	陶器 山茶碗	4区	SE121	(15.3)	6.9	5.1	内面～口縁部：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰白色	右回転	底部に粉痕
141	陶器 山皿	4区	SE121	8.9	5.0	2.0	内・外面：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	青みを帯びた灰白色	右回転	
142	青磁 小皿	4区	SE121	9.6	5.1	2.2	内・外面：轆轤ナデ? 底部：回転ヘラケズリ・無軸	密	良好	黄：明赤黄 黒地：灰～黄褐色	左回転	
143	土師器 ? (暗文)	4区	SE121	-	-	-	内面：ナデ 外面：ケズリ	密	良好	塗り：明赤褐色 素地：橙色	-	赤彩後に施文?放射状暗文
144	陶器 山茶碗	4区	SE121	15.4	7.2	5.2	内・外面：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰白色	右回転	
145	土師器 伊勢型鍋	4区	SE121	(19.8)	-	[3.8]	内・外面：ヨコナデ 口縁上部：ケズリ	密	良好	にぶい黄褐色	-	外面に煤が付着
146	陶器 山茶碗	4区	SE121	-	6.4	[4.0]	内・外面：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰白色	右回転	
147	石製品 砥石	4区	SE121	[15~15]	[7~2]	[8.5~2]	-	-	-	橙～にぶい黄褐色	-	表・裏に研磨痕
148	陶器 山茶碗	4区	SE121	15.8	6.3	5.1	内面底部：不定方向ナデ 体部：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	灰白色	右回転	
149	土師器 伊勢型鍋	4区	SE121	(27.4)	-	[14.3]	内面：ナデ? 口縁部付近：ナデ	密	良好	にぶい褐色	-	体部外面に煤が付着
150	陶器 山茶碗鉢	4区	SE121	-	(13.3)	[7.7]	外面：ケズリ 高台部：ヨコナデ	密	良好	灰白色	-	
151	陶器 山皿	4区	SE116	7.7	4.9	2.0	底部：糸切り	密	良好	灰白色	右回転	
152	陶器 山皿	4区	SE116 S	7.4	4.3	1.7	口縁部：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	黄：オリーブ黄 黒地：灰～黄褐色	右回転	
153	陶器 山皿	4区	SK116 N	7.7	4.4	1.7	底部：糸切り	密	良好	灰白色	右回転	内面に薄く軸がかかる
154	陶器 山茶碗	4区	SK116 N	-	6.0	[3.4]	高台部：ヨコナデ 底部：糸切り	密	良好	灰白色	右回転	
155	土師器 小皿	2区?1	7-11Pit3	(9.8)	5.0	2.1	底部：糸切り	密	やや甘い	にぶい黄褐色	右回転	
156	土師器 碗?	5区?3	7-3Pit3	-	(7.7)	[2.9]	底部内面・高台部：轆轤ナデ 底部：糸切り	密	良好	にぶい褐色	右回転	高台部付近に若干煤が付着
157	土師器 甕	5区?10	7-10Pit1	(13.8)	-	[8.0]	内面：縦方向のハケ 口縁部：縦方向のハケ+ヨコナデ 外面：縦方向のハケ	密	良好	内面：にぶい黄褐色 外面：にぶい褐色	-	
158	土師器 甕	1区?10	7-10Pit1	(14.8)	-	[10.4]	内面：横方向のハケ 外面：縦方向のハケ	密	良好	内面：にぶい黄褐色 外面：にぶい褐色	-	
159	土師器 高坏	1区?7	7-7Pit2	-	-	-	内面：ケズリ・ナデ 外面：ケズリ	密	良好	やや暗い褐色	-	
160	須恵器 円面碗	試掘	-	-	22.2	[4.45]	内面：ナデ 外面：轆轤ナデ	密	良好	灰白色	-	方形の透かし窓あり
161	須恵器 蓋	試掘	-	-	-	[3.25]	内面：轆轤ナデ つまみ部：ナデ 天井部：ケズリ	密	良好	青灰色	-	

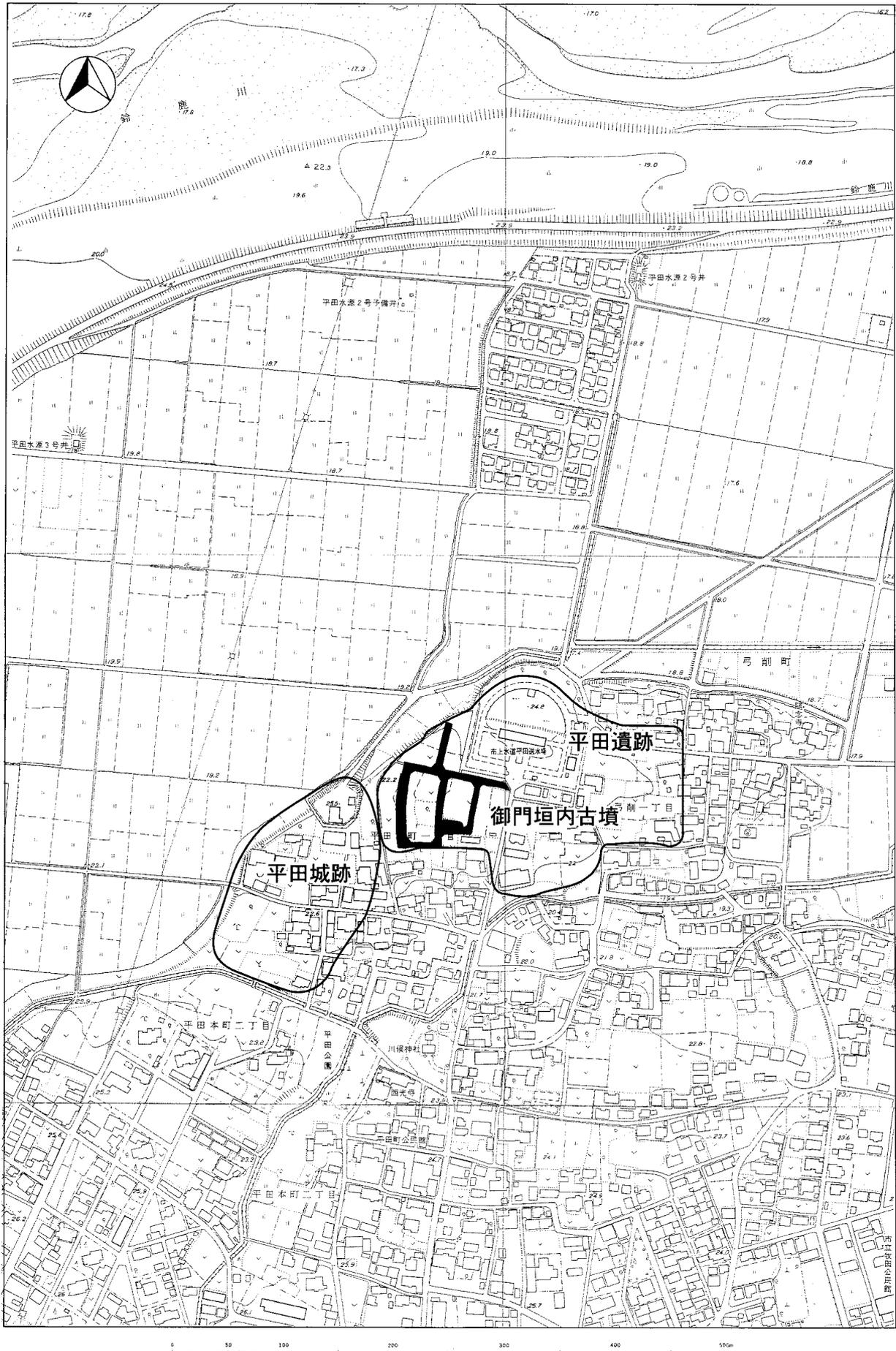
Tab. 3 出土瓦観察表

番号	種類	調査区	遺構名・層位	凸面調整	凹面調整	側面調整	端面調整	焼成	色調	胎土	備考
16	平瓦	1区	ST24 N	斜格子B+丁寧なヨコケズリ	布目痕+ヨコケズリ	C	広端面：B	やや軟	橙色	密	
17	平瓦	1区	ST24 断面⑦層	斜格子B+ヨコケズリ	布目痕+タテケズリ	C	広端面：A	やや軟	黒褐色	密	側面は分割したまま、一部ケズリ
18	平瓦	1区	ST24 E	斜格子B	布目痕	-	-	良好	褐色	密	凹面：模骨痕?
19	平瓦	1区	ST24 W	斜格子A+ヨコケズリ	布目痕+糸切り痕	C	広端面：B	良好	にぶい褐～にぶい褐色	密	凹面：かすかに模骨痕
27	平瓦	4区	ST54	斜格子A?+ヨコケズリ	糸切り痕	B	広端面：B	やや甘い	褐色	密	凸面：工具痕?あり 凹面：かすかに模骨痕
30	平瓦	4区	ST54 カマド内	斜格子A+ヨコケズリ	布目痕	-	広端面：B	軟	凸面：灰白色 凹面：一部浅黄褐色	密	広端面：工具痕? 凹面：模骨痕 (幅約5cm)
44	平瓦	4区	SK119	斜格子C+ヨコケズリ	布目痕	E	広端面：D	良好 (やや軟)	浅黄褐色	密	凹面：模骨痕 (幅約4cm)・分割突帯 捺紐痕跡
46	平瓦	1区	SD61 断面	斜格子A+ケズリ	布目痕+弱いケズリ	A	広端面：A・B	軟	凸面：にぶい黄褐色 凹面：黒褐色	密	凹面：側面際に分割突帯、捺紐痕跡
47	平瓦	2区	試掘坑	斜格子B	布目痕	B	-	良好	にぶい褐色	密	凹面：分割突帯 捺紐痕跡
48	丸瓦	4区	SD10 下層	斜格子 (不明) +ヨコケズリ	布目痕	D	-	やや軟	にぶい黄褐色	密	凹面：布のとじ合わせ目あり
49	平瓦	-	-	正格子	布目痕	(A・B)	-	悪	灰色	密	
50	平瓦	1区	試掘坑	斜格子A+ヨコケズリ	布目痕+糸切り痕	C	広端面：B	やや甘い	浅黄褐色	密	凹面：模骨痕 (幅不明)
55	丸瓦	7区	攪乱	ヨコケズリ+タテケズリ	布目痕+糸切り痕	D	-	良好	灰白色	密	凹面：紐の痕跡が残る 時期は中世
56	丸瓦	5区?2	検出	丁寧なヨコケズリ+斜格子A?	布目痕	D	-	良好	やや暗い褐色	密	凹面：布のとじ合わせ痕あり
57	丸瓦	5区	SK133	不定方向のケズリ	布目痕	B	-	良好	褐色	密	
110	平瓦	6区土壘	下段 上層	丁寧なヨコケズリ	布目痕+ケズリ	C	広端面：D	良好	灰黄褐色	密	凹面：布目痕がとんでいる箇所あり
111	平瓦	6区土壘	下段 下層 黒色土	斜格子A+ヨコケズリ	布目痕	C	狭端面：B	良好	浅黄色	密	凹面：側面際に分割断面?
112	平瓦	6区土壘	西断面①層下層	斜格子B+ケズリ	布目痕	C	狭端面：B	良好	にぶい褐色	密	凹面：布のとじ合わせ目あり・ダーツ状?
113	平瓦	6区土壘	上段 検出NW	斜格子B+丁寧なヨコケズリ	布目痕	C	広端面：B	良好	にぶい褐色	密	凸面：広端面付近に斜格子 凹面：模骨痕 (幅約6cm)
114	平瓦	6区土壘	上段 検出NW	斜格子A+B	布目痕+捺紐痕跡に煤 (黒)	-	広端面：B	良好	褐色	密	凸面：分割時のためいきずあり
115	平瓦	6区土壘	西断面①層下層	斜格子B+丁寧なヨコケズリ	布目痕	-	狭端面：A	やや軟	にぶい褐～灰黄褐色	密	側面：ケズリ、広端面～狭端面 凹面：粘土の継ぎ目あり
116	平瓦	6区土壘	上段 NE	斜格子B+丁寧なヨコケズリ、タテケズリ	布目痕+布目痕+ヨコケズリ	C	-	やや甘い	黄橙～にぶい黄褐色	密	凸面：側面際に分割突帯、捺紐痕跡
117	平瓦	6区土壘	上段 南斜面SE	斜格子B+ヨコケズリ	布目痕+糸切り痕	-	-	良好	にぶい褐色	密	
118	平瓦	6区土壘	下段 上面	斜格子B	布目痕	(C)	-	良好	にぶい褐色	密	
119	丸瓦	6区土壘	西断面①層	ヨコケズリ、分割後タテケズリ	布目痕	B	-	良好	褐色	密	側面：内側・外側から刀子が入るか?
120	丸瓦	6区土壘	上段 NW	斜格子B+ヨコケズリ	布目痕	D	-	良好	にぶい黄褐色	密	
121	丸瓦	6区土壘	ピット2	丁寧なヨコケズリ	布目痕	B	-	良好	にぶい褐色	密	凹面：分割突帯 捺紐痕跡・粘土の継ぎ目
122	丸瓦	6区土壘	SK105 N	斜格子B+比較的丁寧なヨコケズリ	布目痕 (たるみあり)	A・B	広端面：A・B	軟	灰黄色	密	格子叩き痕は端部のみ残る
123	平瓦	6区土壘	SK105 N	斜格子 (不明) +丁寧なヨコケズリ	布目痕 (たるみあり)	-	-	良好	褐色	密	凹面：模骨痕 (幅不明) 粘土接合部に剥離あり
124	平瓦	6区土壘	SK107	正格子	布目痕+一部タテナデ	-	-	悪	灰色	密	凹面：模骨痕 (幅不明)
125	丸瓦	5区	表土除去	斜格子A・丁寧なヨコケズリ	布目痕	A・B	-	良好	にぶい褐色	密	凹面：布のとじ合わせ目あり・ダーツ状
126	平瓦	5区	7-2 検出	斜格子B+ヨコケズリ	布目痕+ケズリ	C	広端面：B	良好	にぶい褐色	密	側面から7~8cmのところに縦方向の板ナデ、粘土接合部あり 凹面：模骨痕 (幅不明)
127	平瓦	5区	7-2 検出	斜格子A?+B	布目痕+粘土板の糸切り痕	-	広端面：A	良好	にぶい褐色	密	凸面：叩き2種

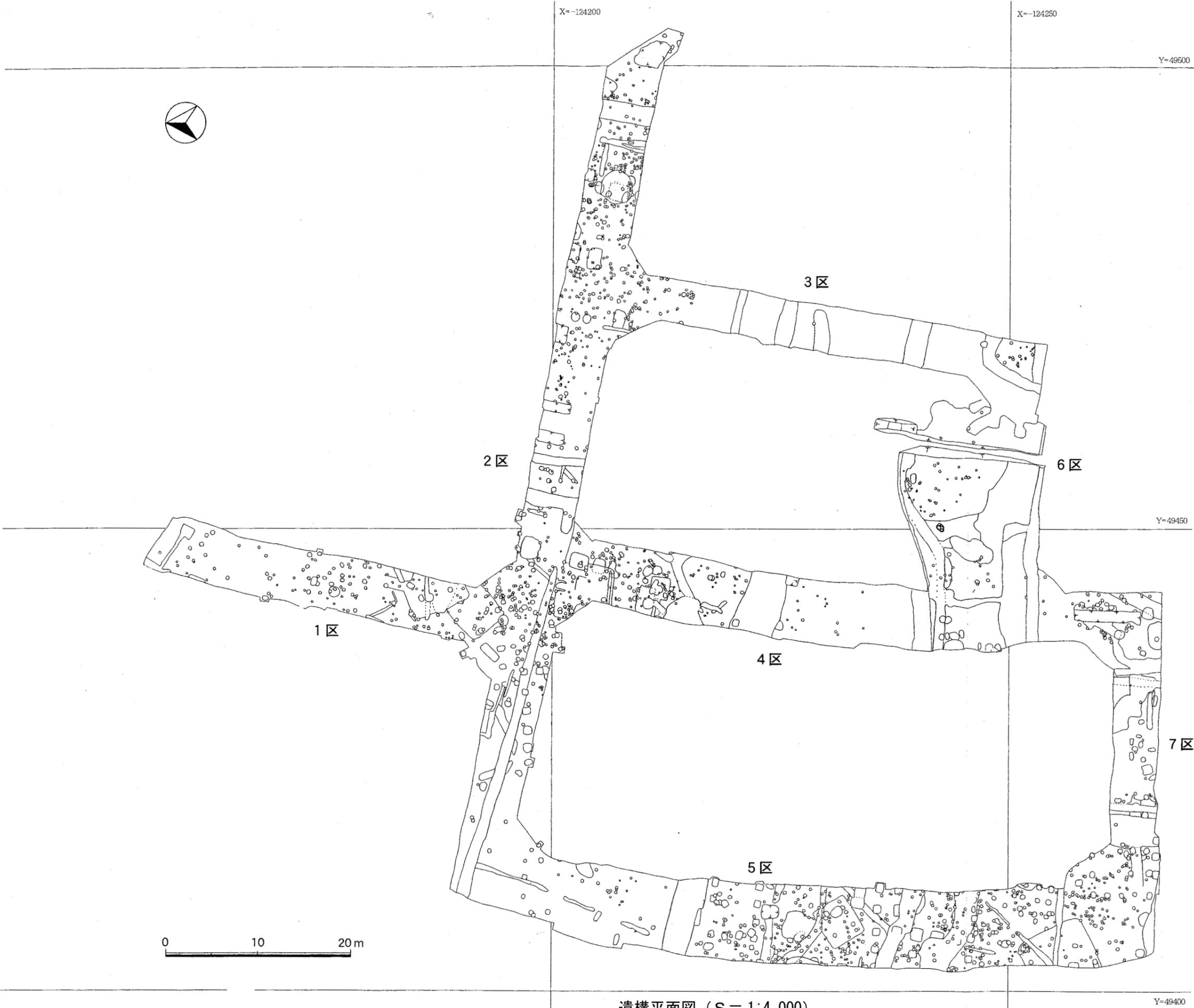


- 1. 平田遺跡 2. 観音沖遺跡 3. 指定鈴鹿閑跡 4. 切山瓦窯跡 5. 古厩遺跡 6. 大鼻遺跡 7. 大森遺跡 8. 八野遺跡・八野瓦窯跡 9. 国府A遺跡 10. 三宅神社遺跡
- 11. 国府城跡 12. 天玉山西遺跡 13. 梅田遺跡 14. 平野城跡 15. 伊勢国府跡(長者屋敷遺跡) 16. 津賀平遺跡 17. 居敷遺跡 18. 椎山中世墓 19. 川原井瓦窯跡 20. 山の原遺跡
- 21. 天神遺跡 22. 岡田遺跡 23. 岡田神社遺跡 24. 岡田南遺跡 25. 竹野一丁目遺跡 26. 山辺瓦窯跡 27. 伊勢国分寺跡(推定僧寺跡) 28. 狐塚遺跡(河曲郡衙跡) 29. 国分遺跡(推定尼寺跡)
- 30. 南浦遺跡(大鹿庵寺) 31. 木田坂上遺跡 32. 寺山遺跡 33. 高岡城跡 34. 須賀遺跡 35. 神戸城跡 36. 沢城跡 37. 天王遺跡 38. 高井A遺跡 39. 末野C遺跡 40. 末野A遺跡
- 41. 末野B遺跡 42. 西高山C遺跡 43. 追谷遺跡 44. 西高山A遺跡 45. 西高山B遺跡 46. 徳居31・32号窯跡

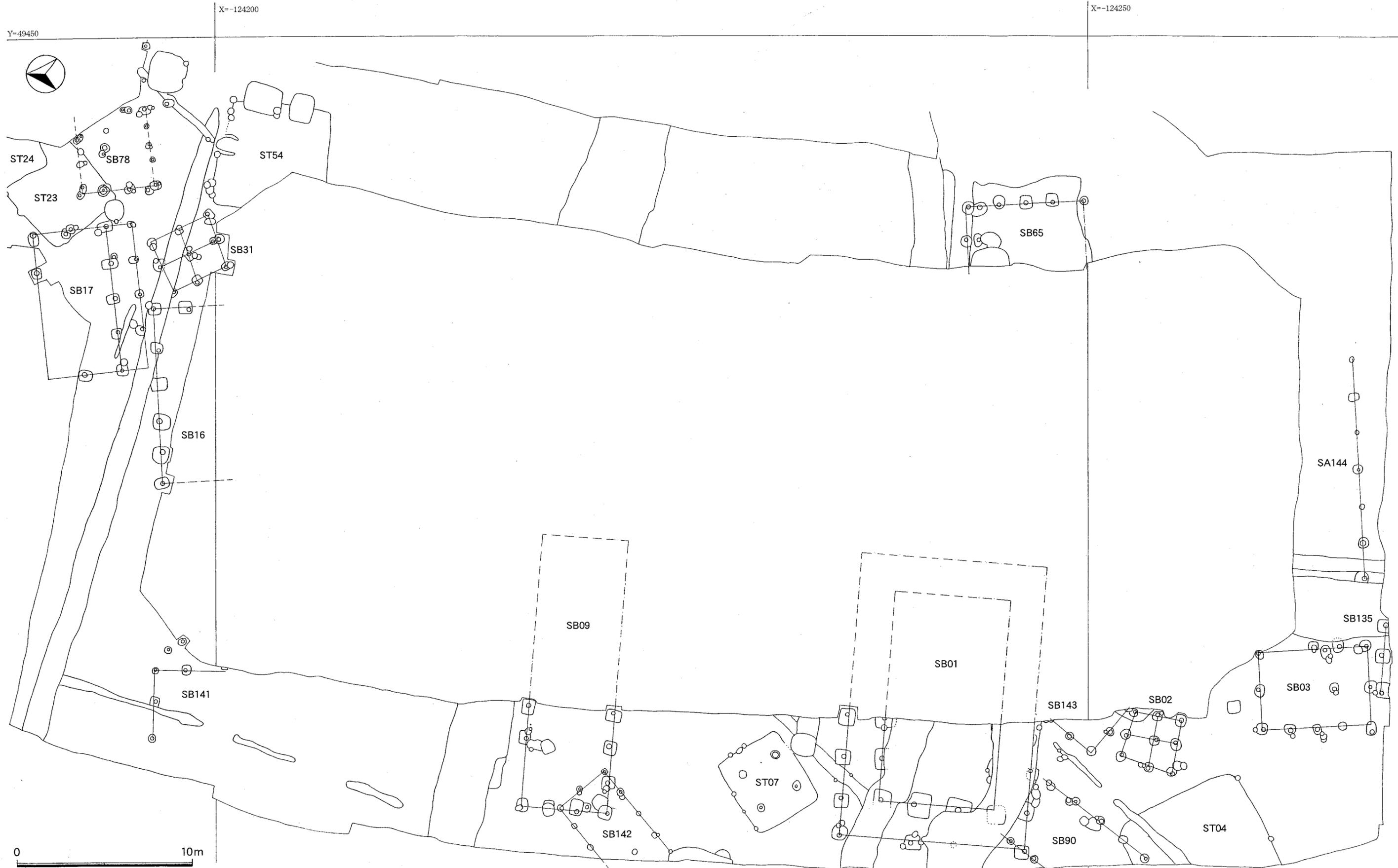
周辺の遺跡 (1 : 100,000)



調査区位置図 (1 : 5,000)



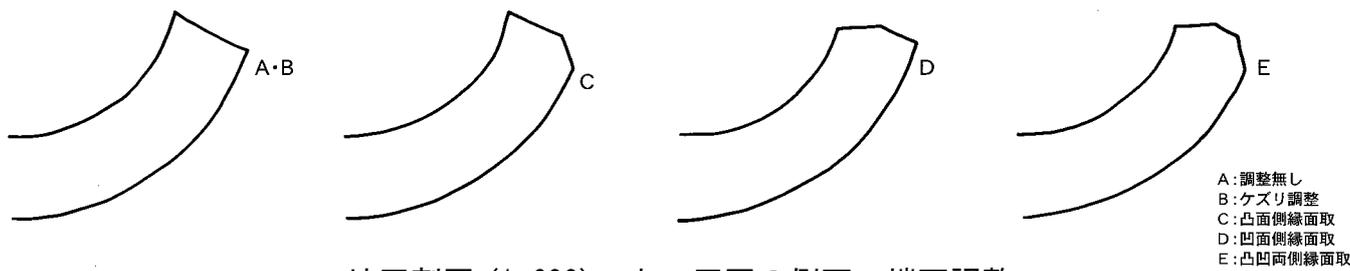
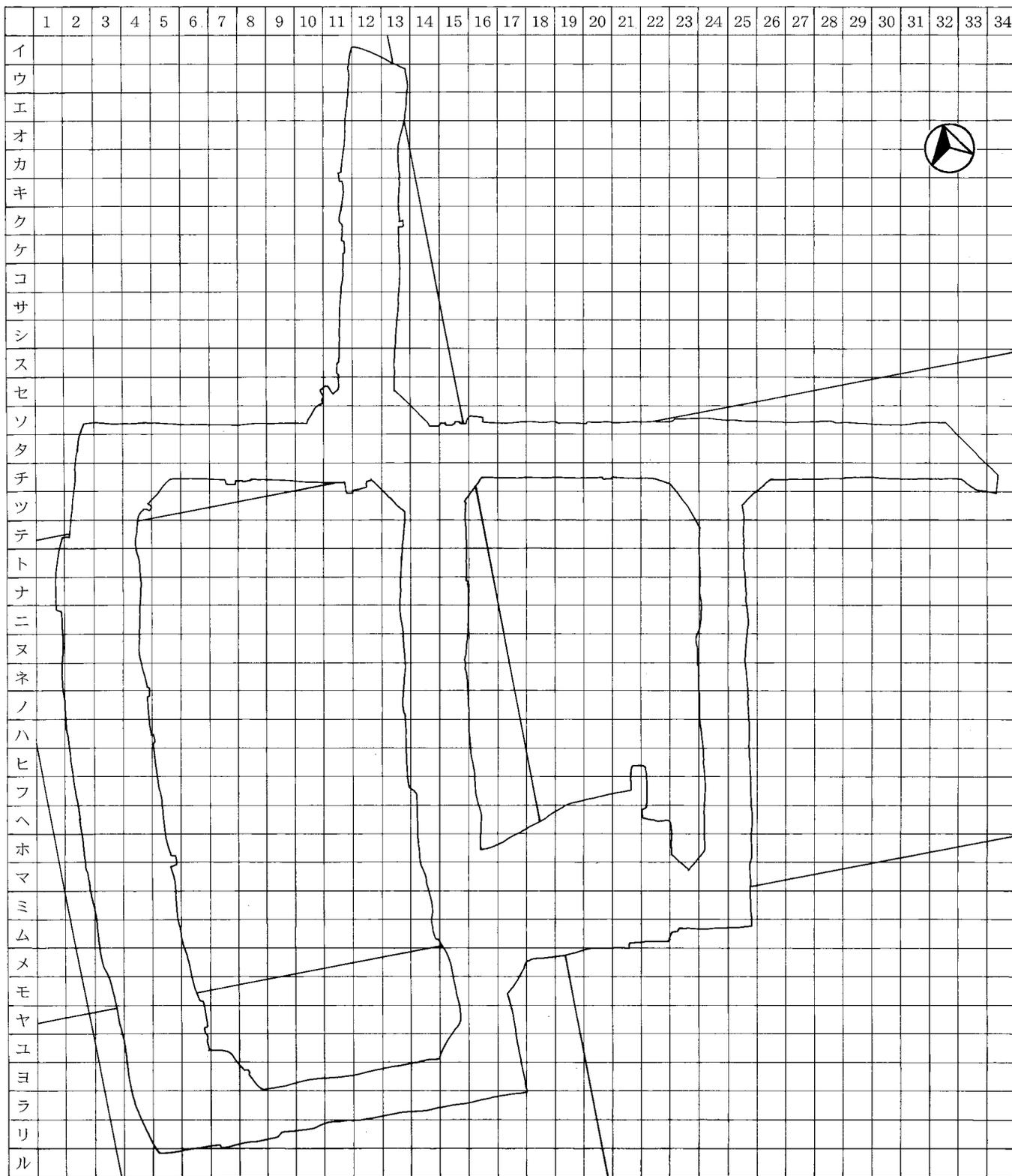
遺構平面図 (S = 1:4,000)



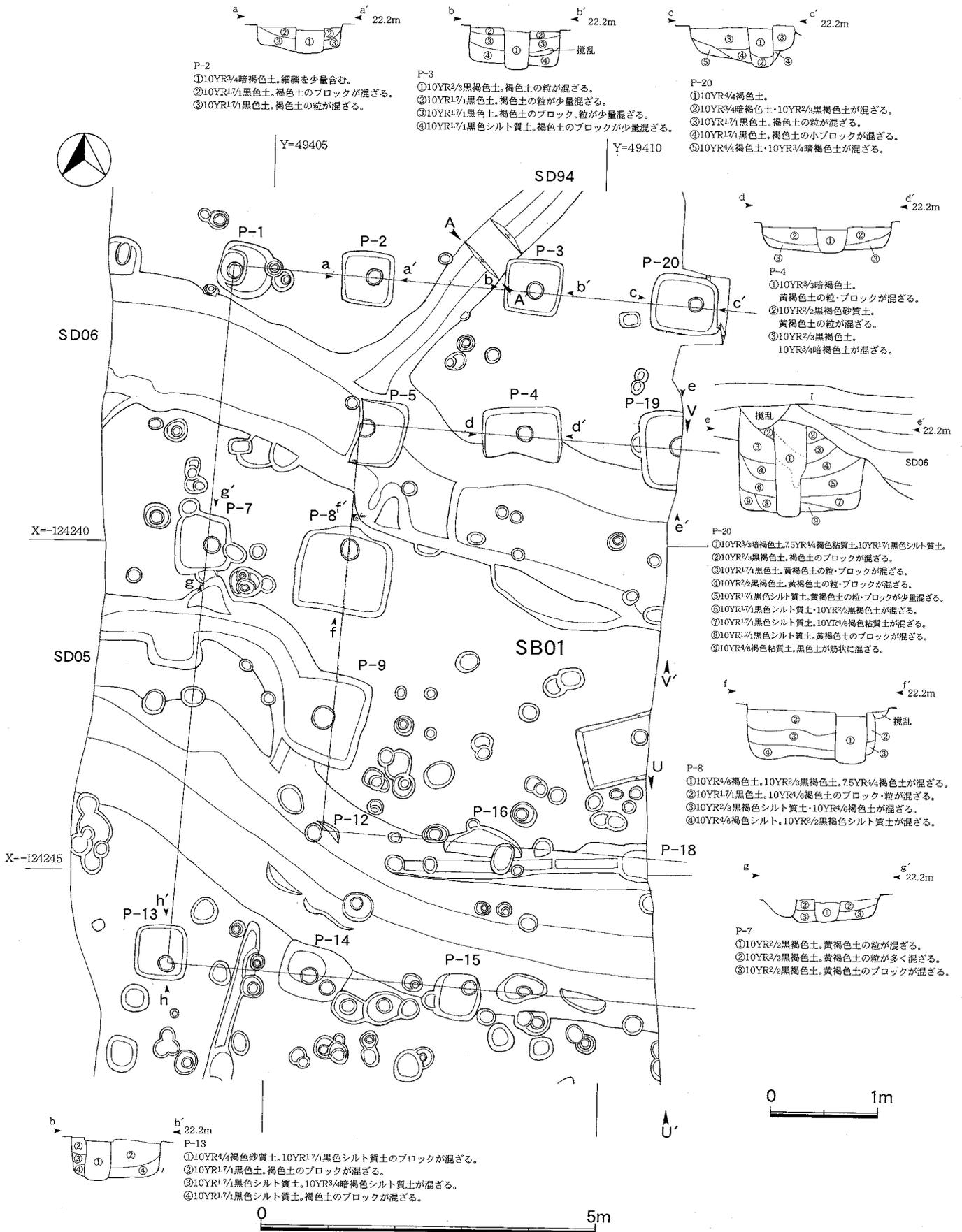
掘立柱建物 SB29 溝 SD19・SD20・SD45・SD46・SD55・SD56 遺構平面図 (S = 1:150)



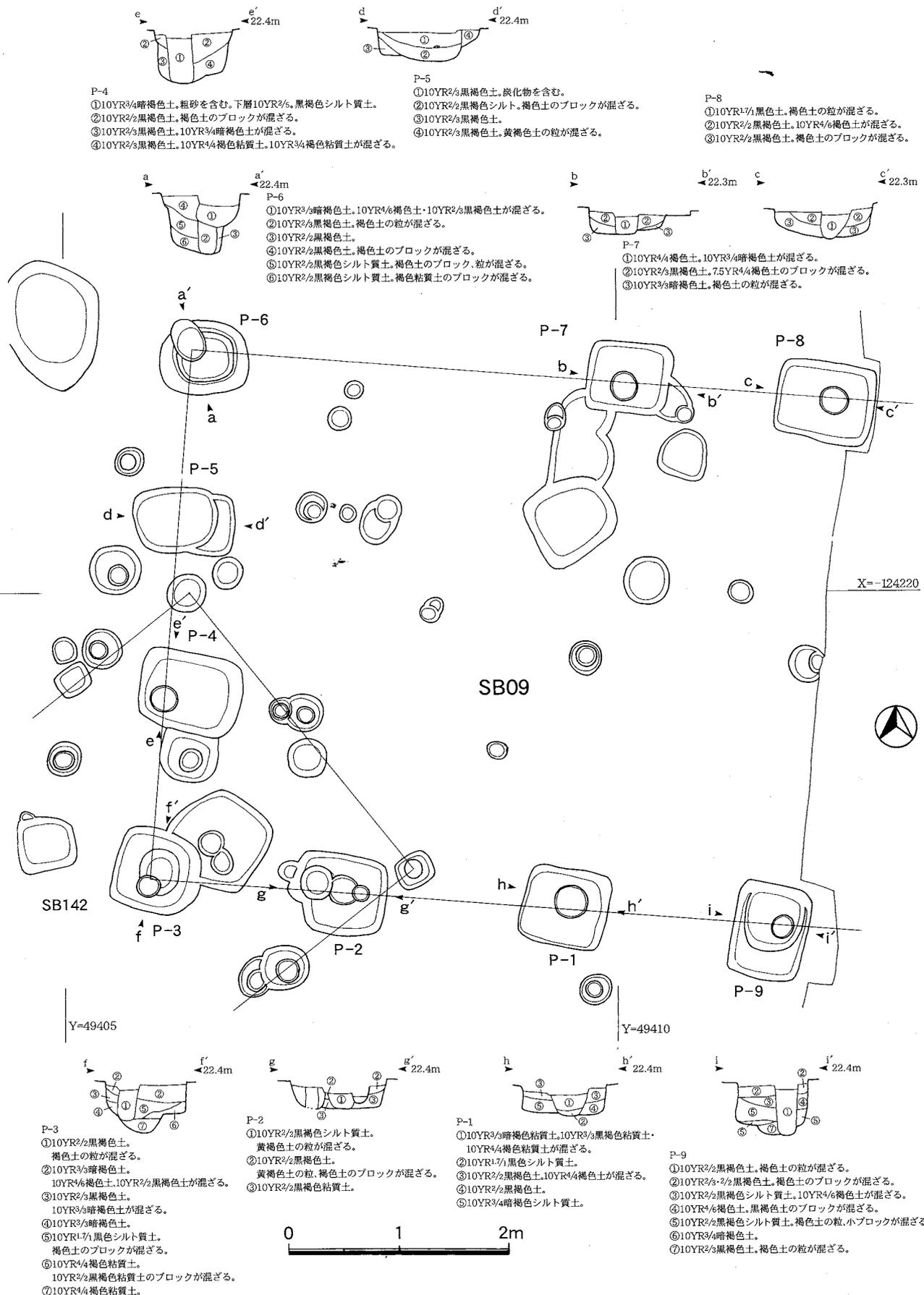
掘立柱建物 SB29 溝 SD19・SD20・SD45・SD46・SD55・SD56 遺構平面図 (S = 1:150)



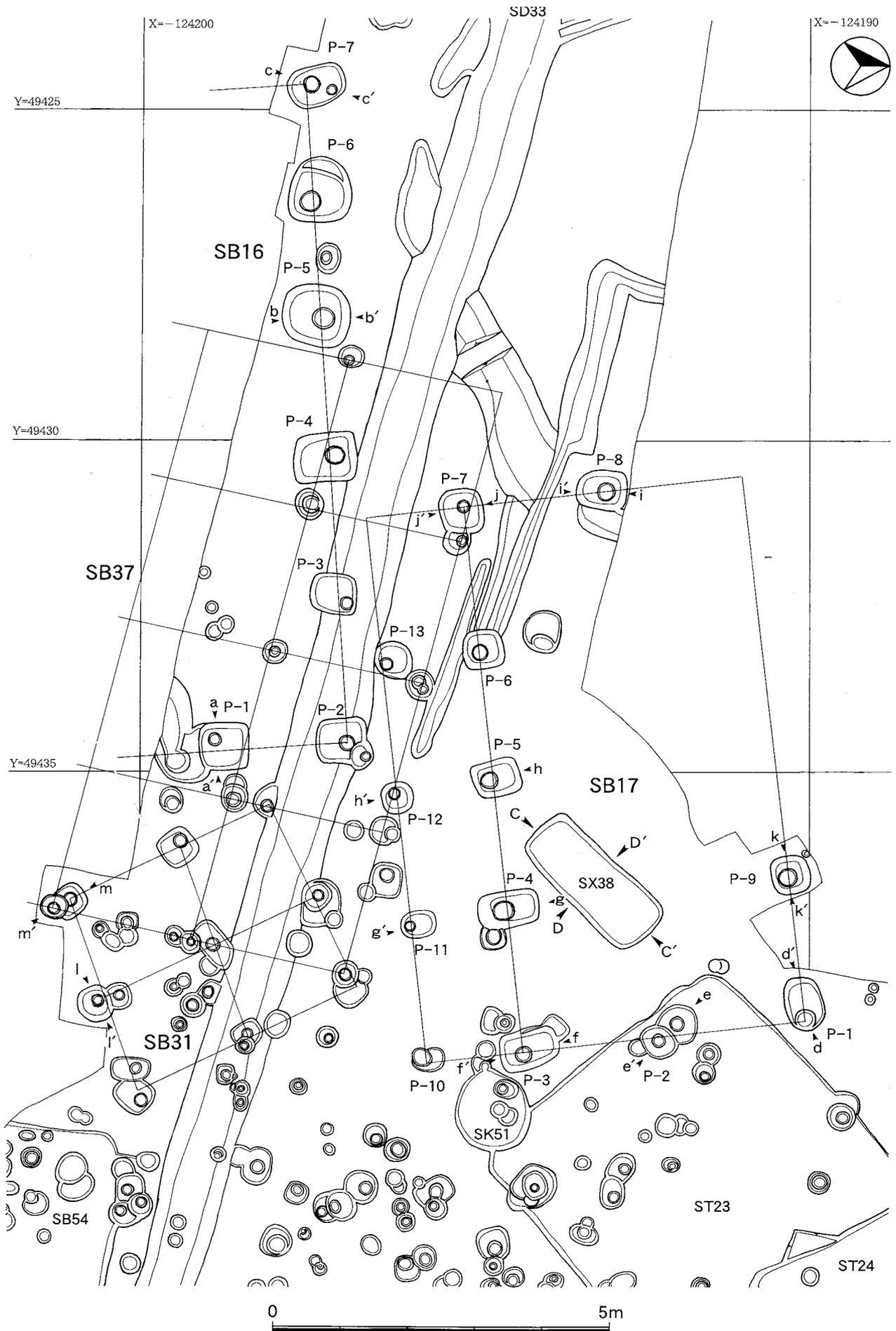
地区割図 (1:600) 丸・平瓦の側面・端面調整



掘立柱建物 SB01 平面図 (1:80)・断面図 (1:50)

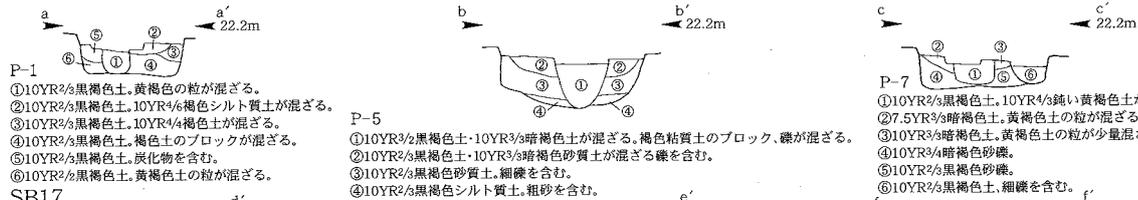


掘立柱建物 SB09・SB142 平面図・断面図 (1:50)

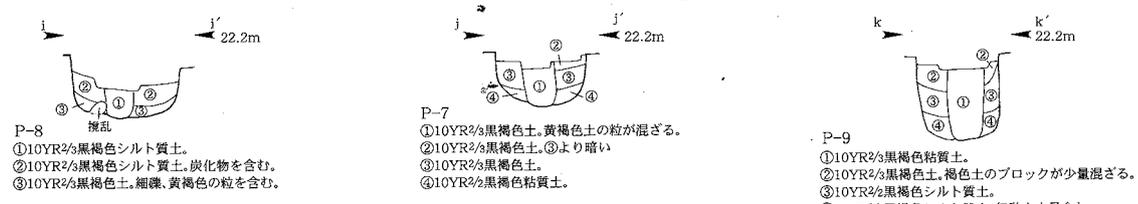
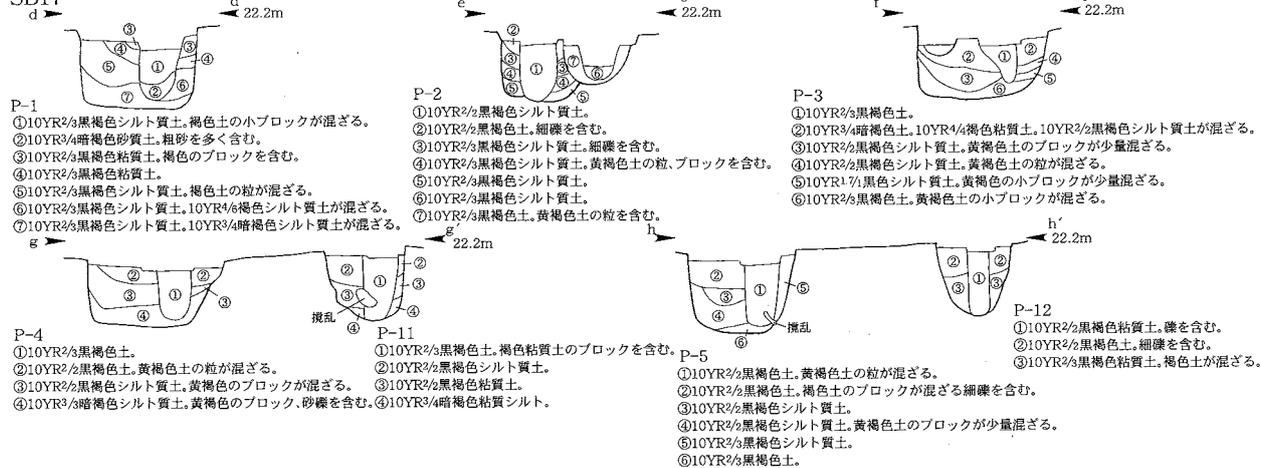


掘立柱建物 SB16・SB17・SB31・SB37 平面図 (1:80)

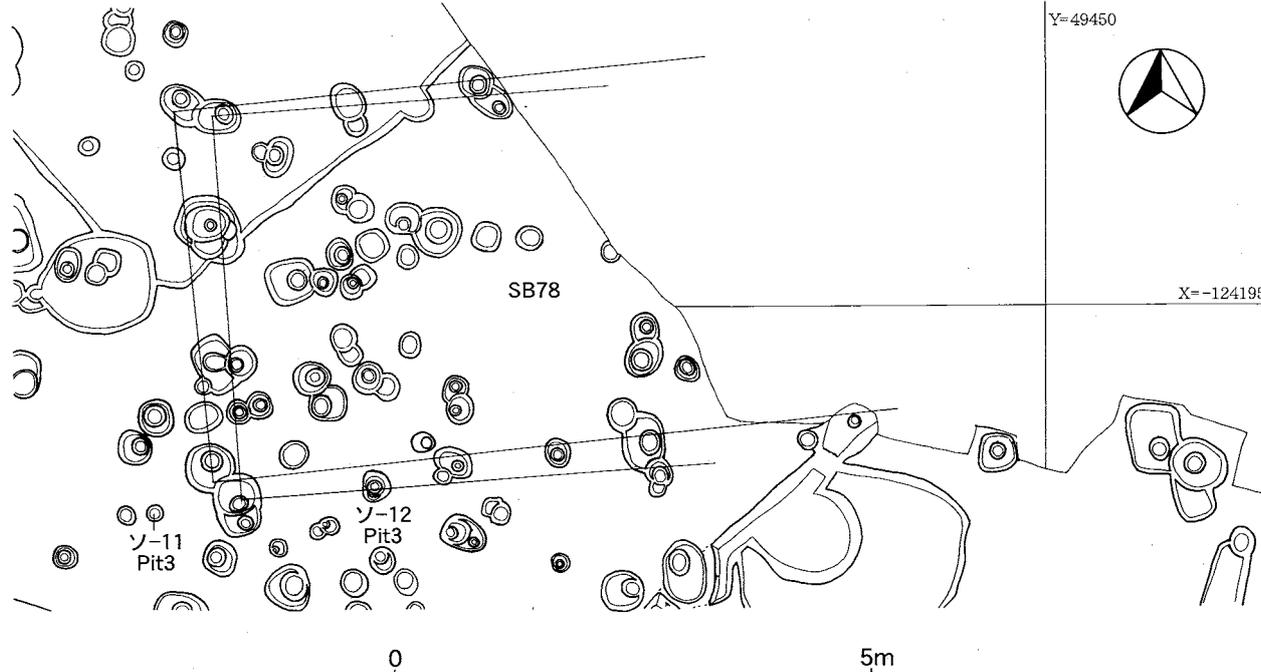
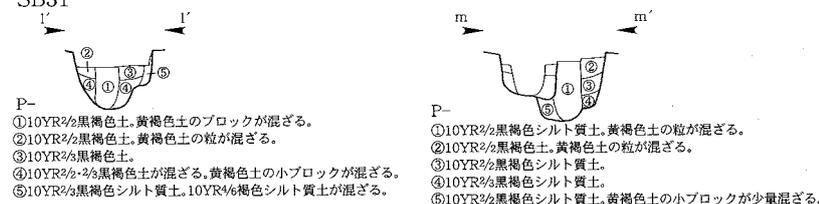
SB16



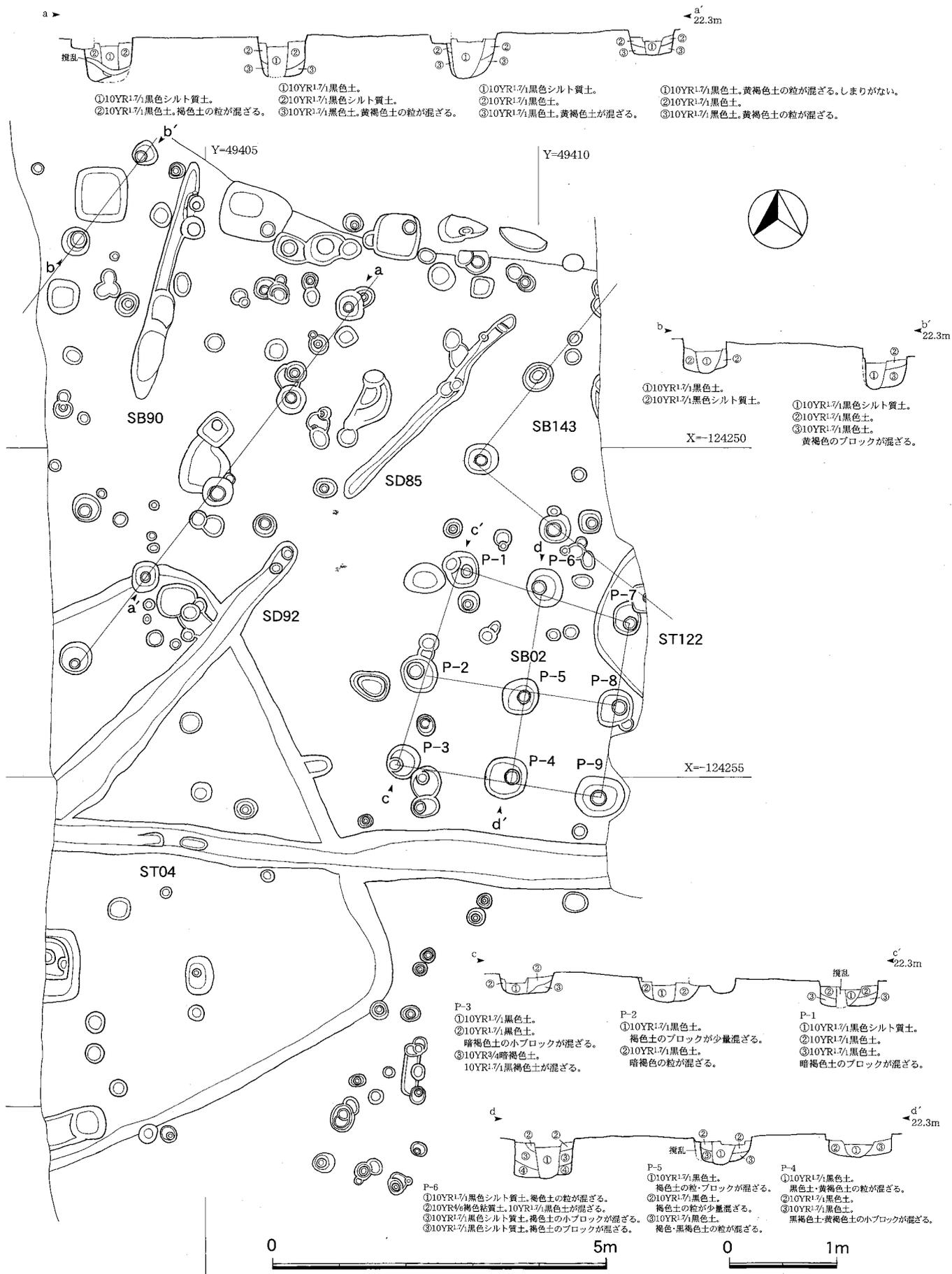
SB17



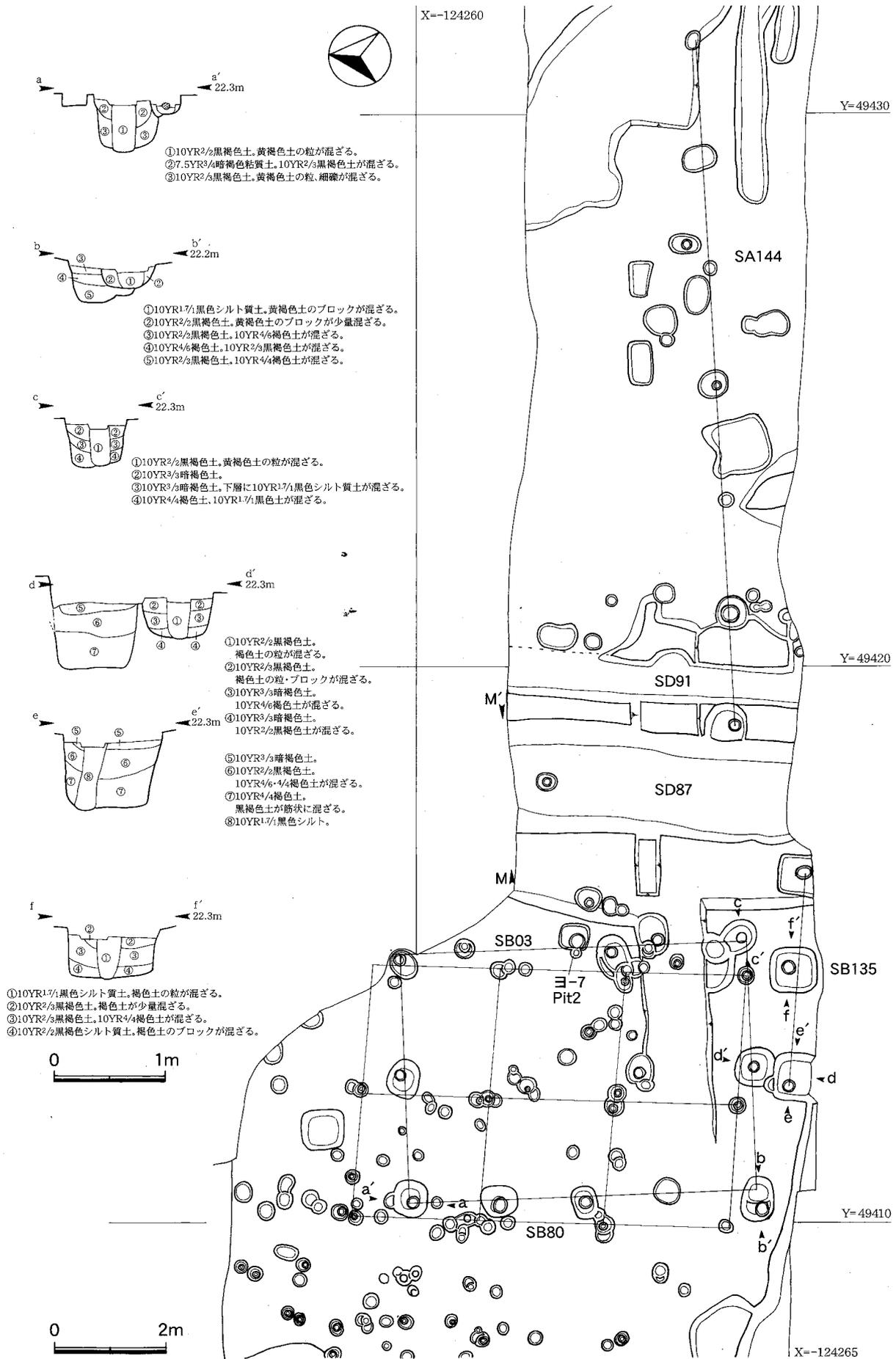
SB31



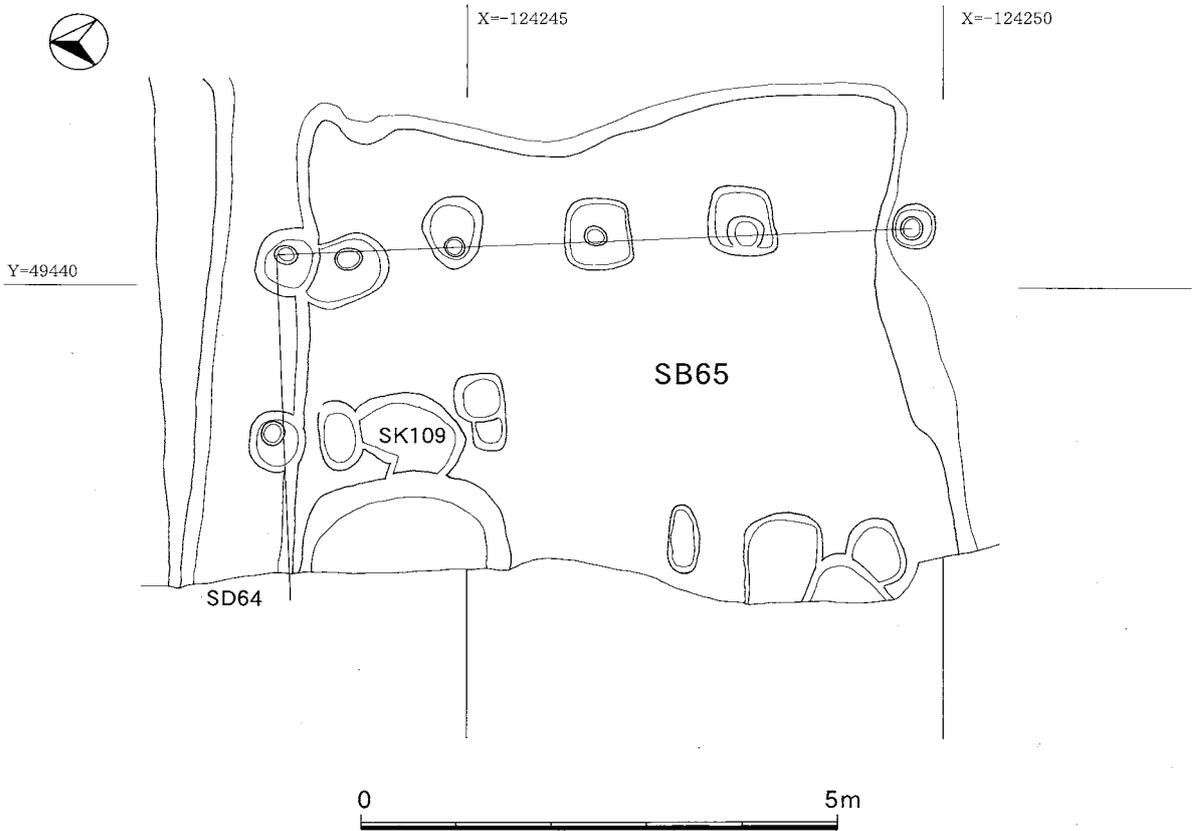
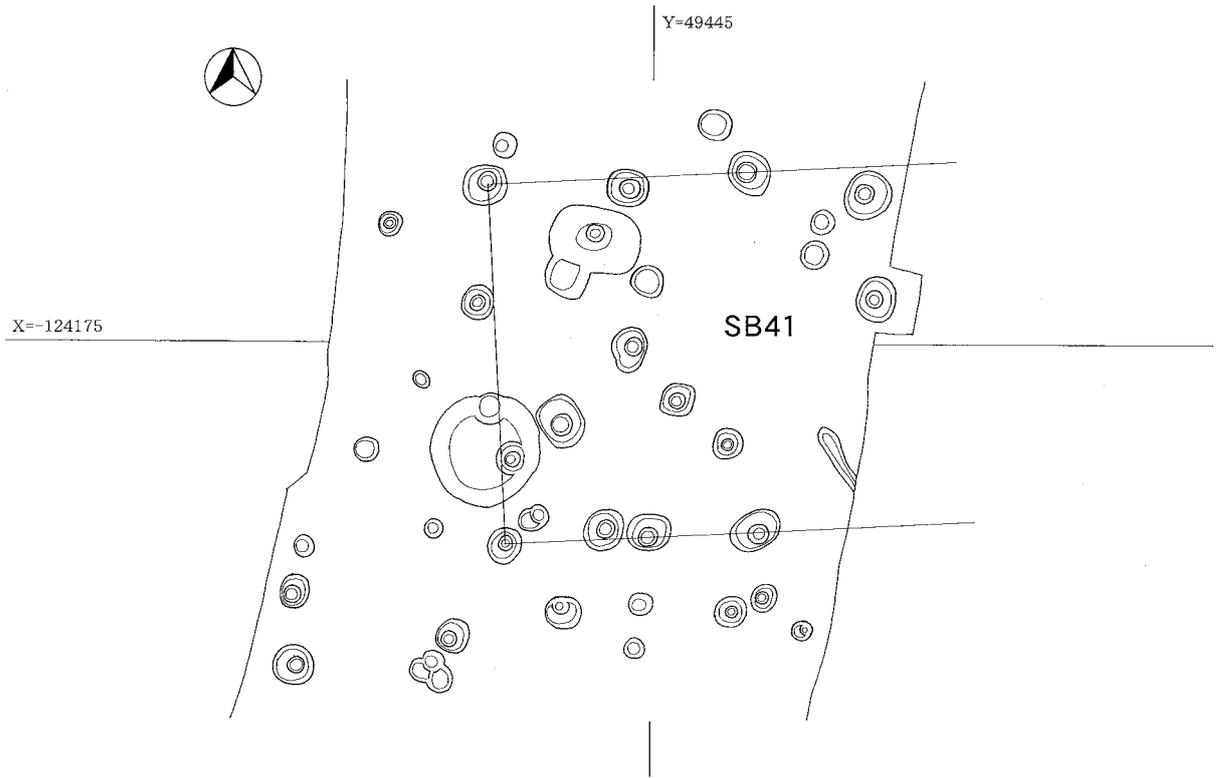
掘立柱建物 SB16・SB17・SB31 断面図 (1:50)・掘立柱建物 SB78 平面図 (1:80)



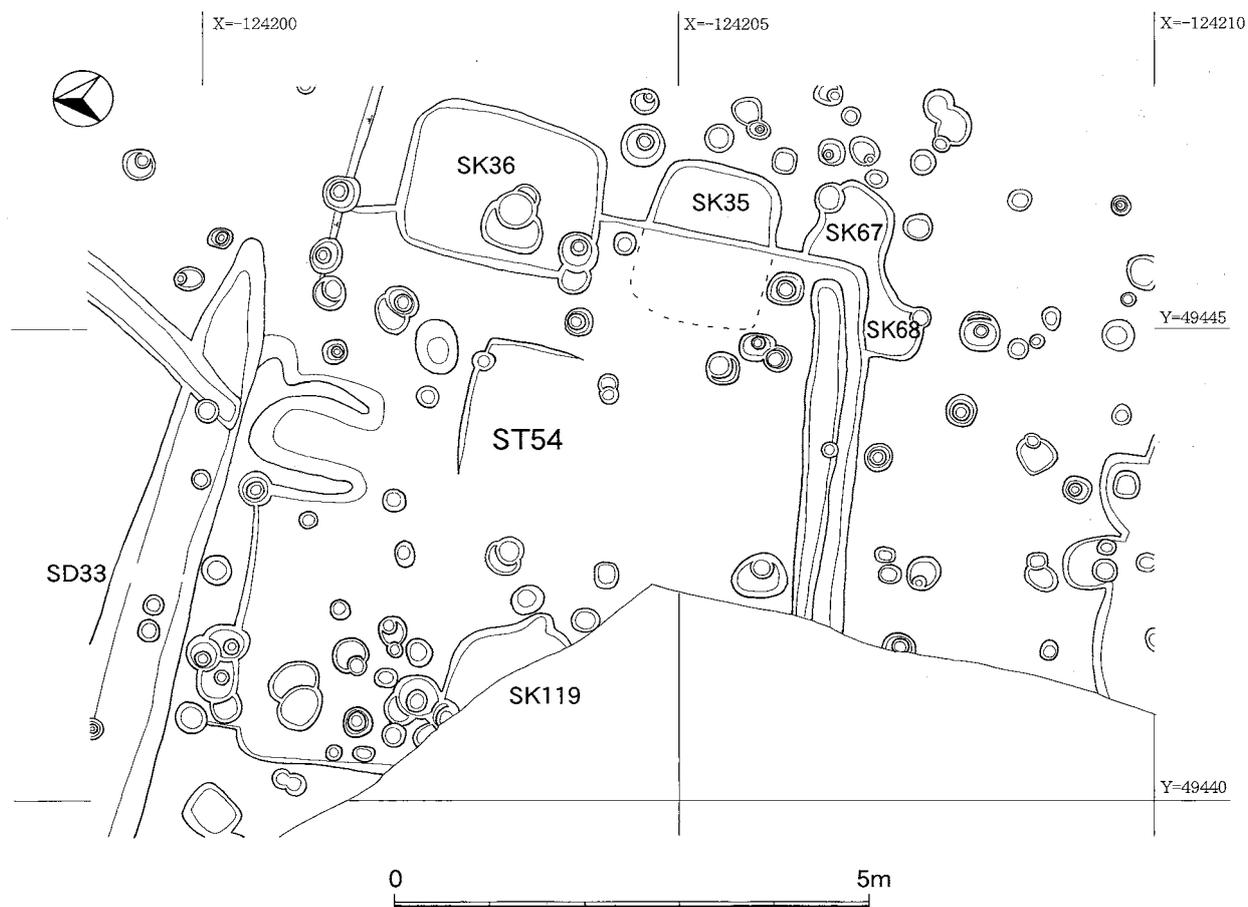
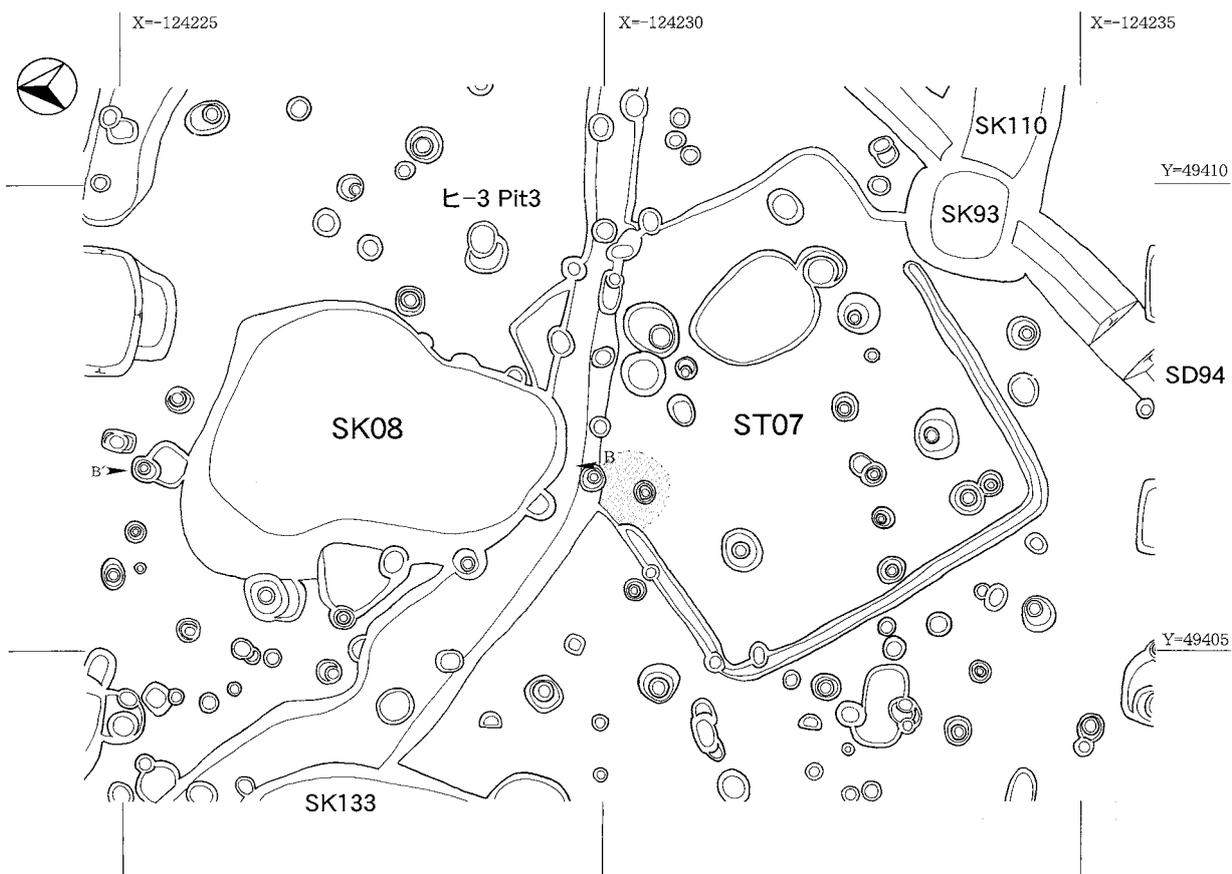
掘立柱建物 SB02・SB90・SB143・竪穴住居 ST04 平面図 (1:80)・断面図 (1:50)



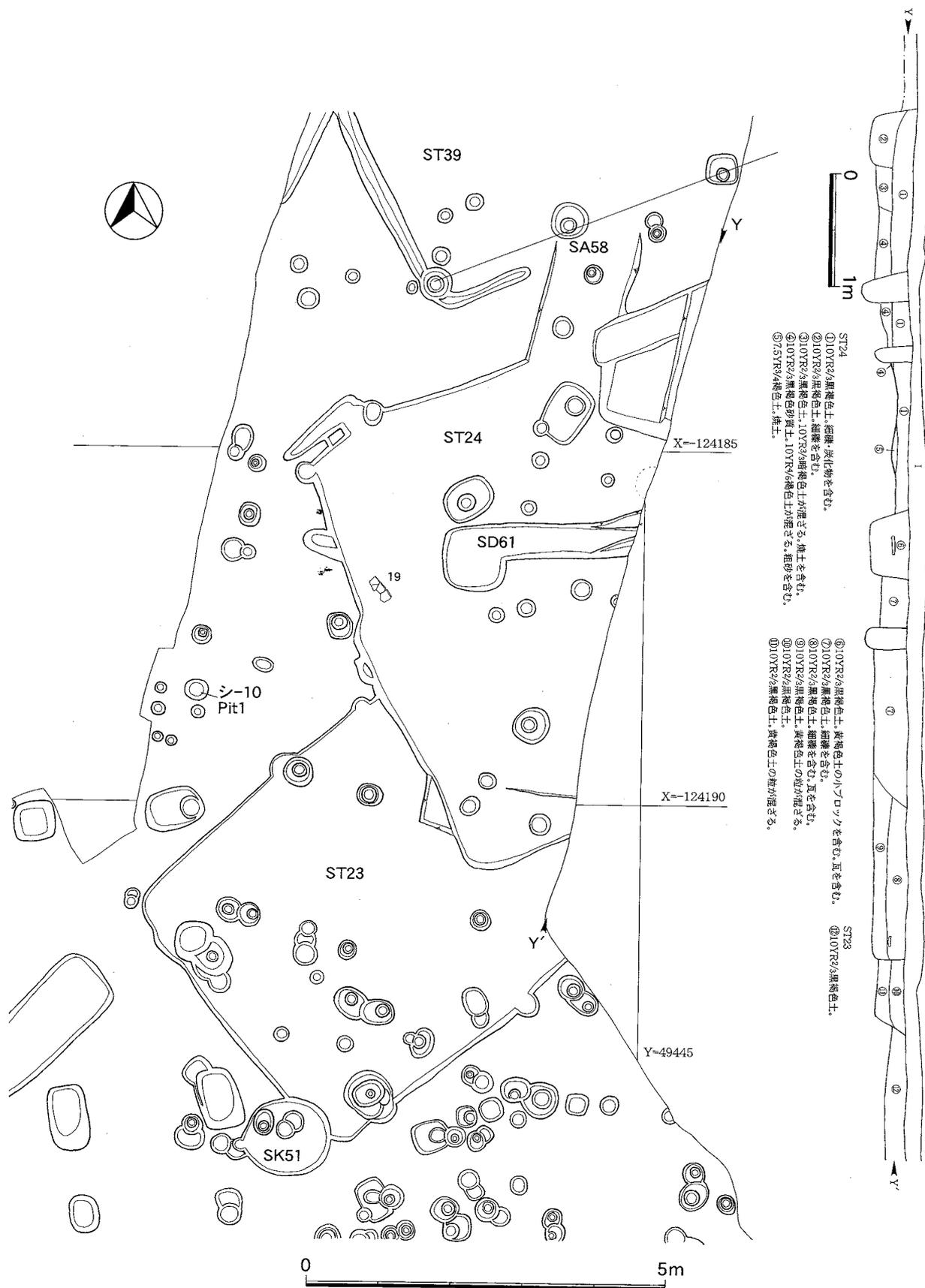
掘立柱建物 SB03・SB80・SB135・柵 SA144 平面図 (1:100)・断面図 (1:50)



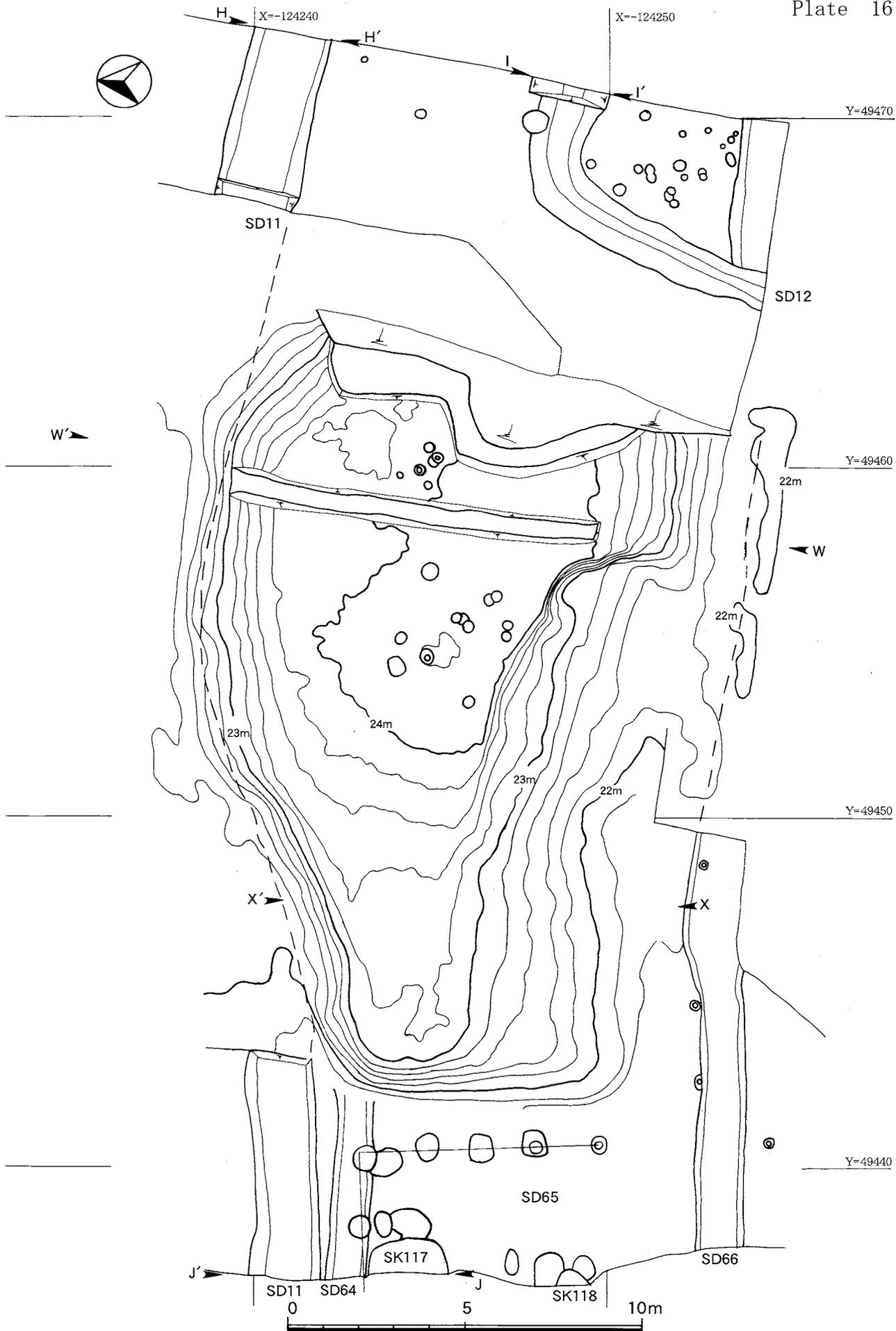
掘立柱建物 SB41・SB65 平面図 (1:80)



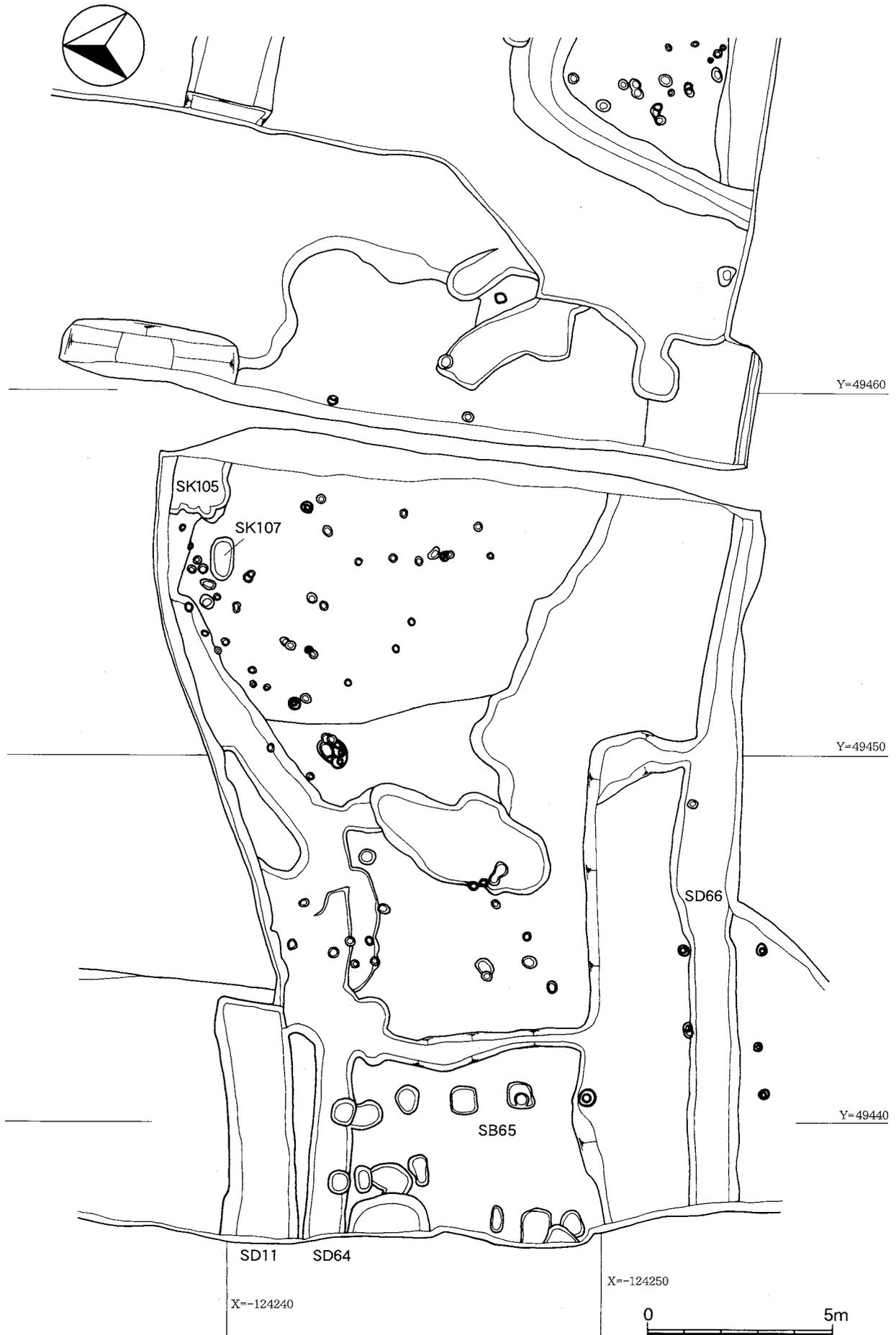
竖穴住居 ST07・土坑 SK08・竖穴住居 ST54 平面图 (1:80)



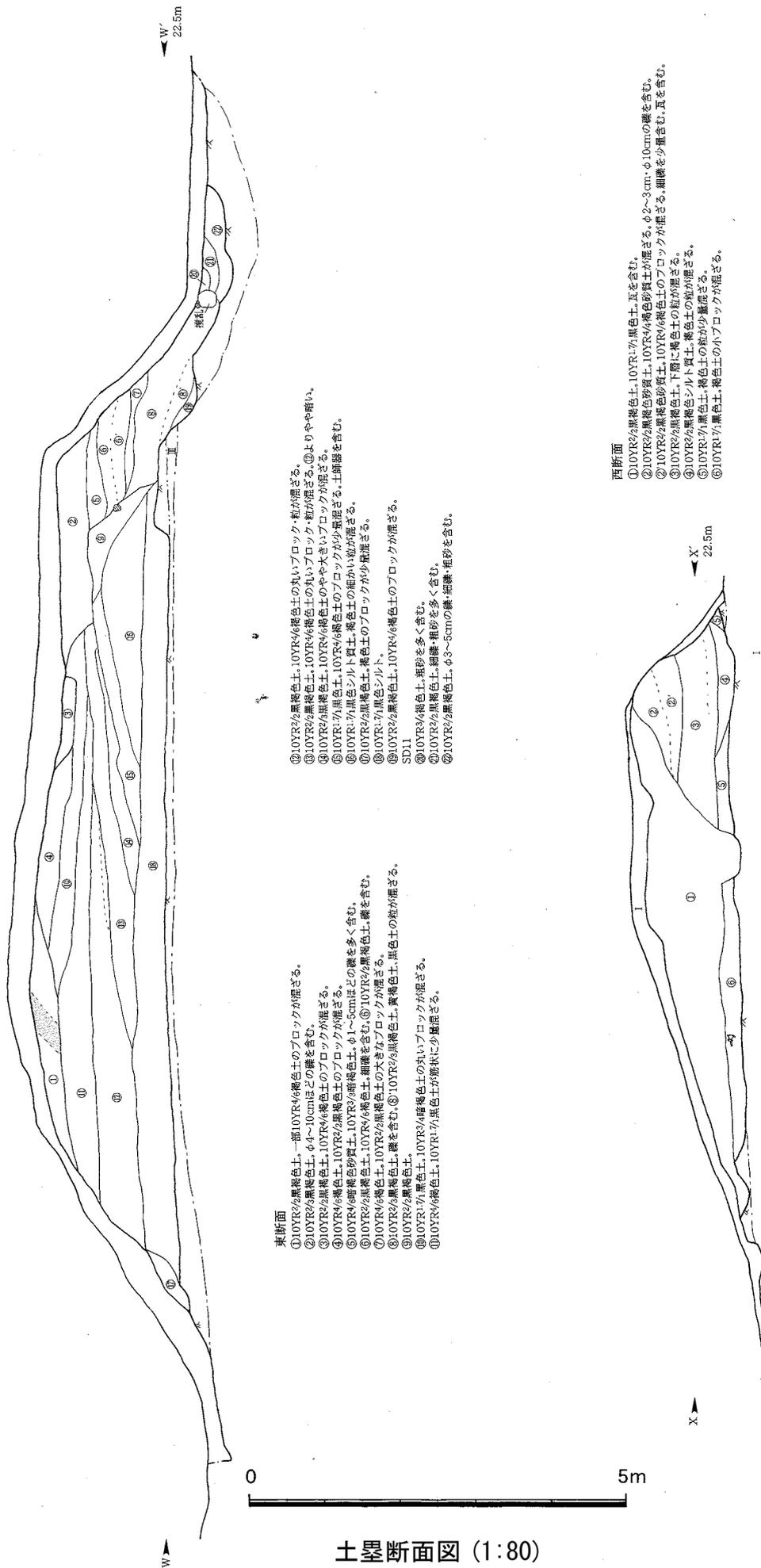
竪穴住居 ST23・ST24 平面図 (1:80)・断面図 (1:50)

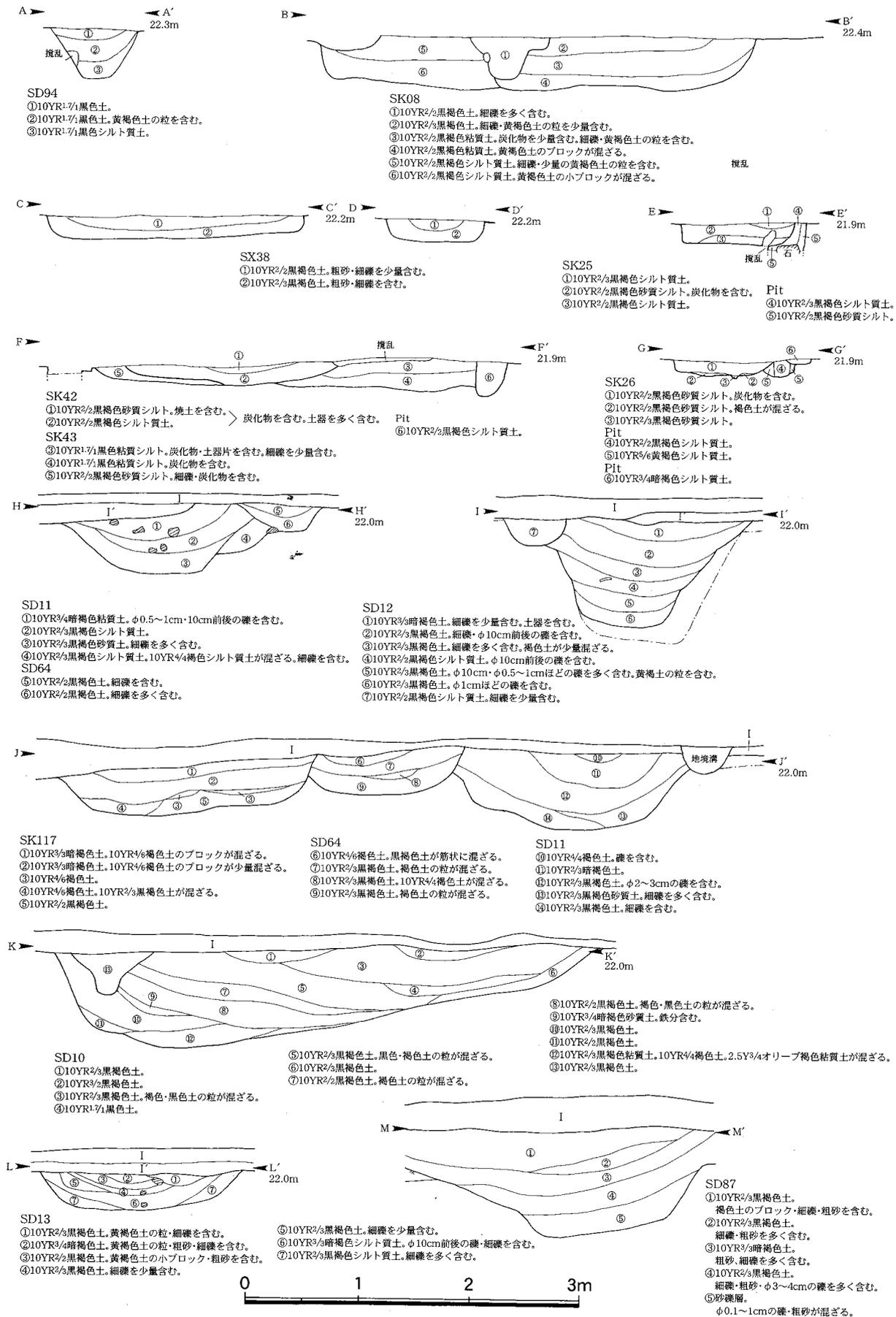


土墨平面图 (1:150)

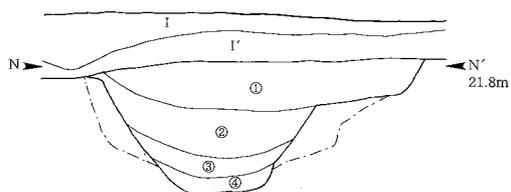


土壘下層遺構平面図 (1:150)

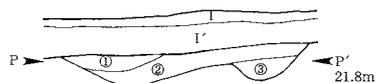




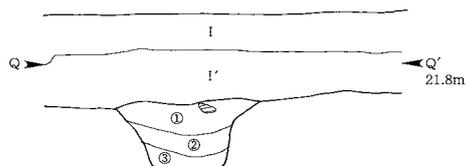
溝・土坑断面図 (1:50)



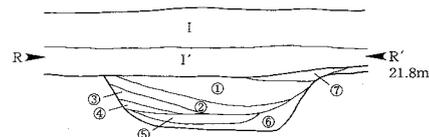
SD46
 ①10YR2/3黒褐色土。細礫、土器片を含む。
 ②10YR2/3黒褐色土。細礫、土器片、炭化物、黄褐色土の粒を含む。
 ③10YR2/2黒褐色土。細礫、土器片、炭化物、黄褐色土の粒を含む。
 ④10YR2/3黒褐色シルト質土。10YR4/4褐色砂質シルトが混ざる。



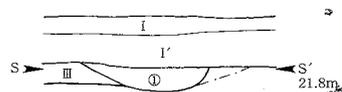
SD45
 ①10YR2/2黒褐色シルト質土。褐色土の粒、細礫を含む。
 ②10YR2/3黒褐色土。黄褐色土のブロック、粒、粗砂、細礫を含む。
 ③10YR2/2黒褐色土。黄褐色土のブロック、粗砂、細礫を含む。



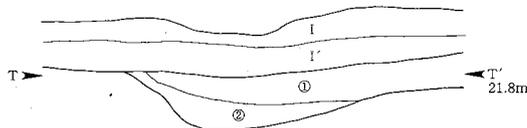
SD55
 ①10YR2/3・10YR2/2黒褐色土。
 ②10YR2/3黒褐色シルト質土。
 ③10YR2/2黒褐色粘質土。



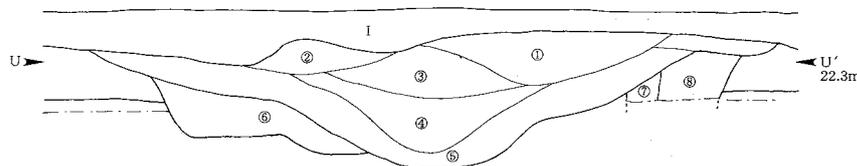
SD56
 ①10YR2/2黒褐色シルト質土。褐色、黄褐色土の粒が混ざる。
 ②10YR2/3黒褐色土。褐色土の小ブロックが混ざる。
 ③10YR2/3黒褐色土。
 ④10YR2/3黒褐色土。褐色土の小ブロックが混ざる。
 ⑤10YR4/6褐色砂質土。粗砂を含む。
 ⑥10YR4/4褐色土。
 ⑦10YR2/3黒褐色土。褐色土のブロックを含む。



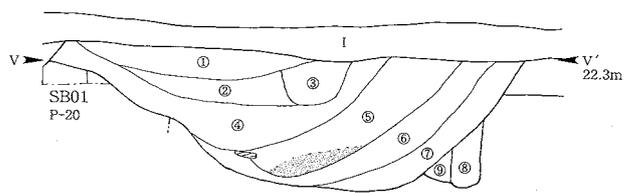
SD20
 ①10YR2/3黒褐色土。10YR5/6黄褐色シルトのブロックを含む。



SD19
 ①10YR2/2黒褐色土。黄褐色土の粒を含む。
 ②10YR2/3黒褐色土。やや粘質、黄褐色土の粒を含む。



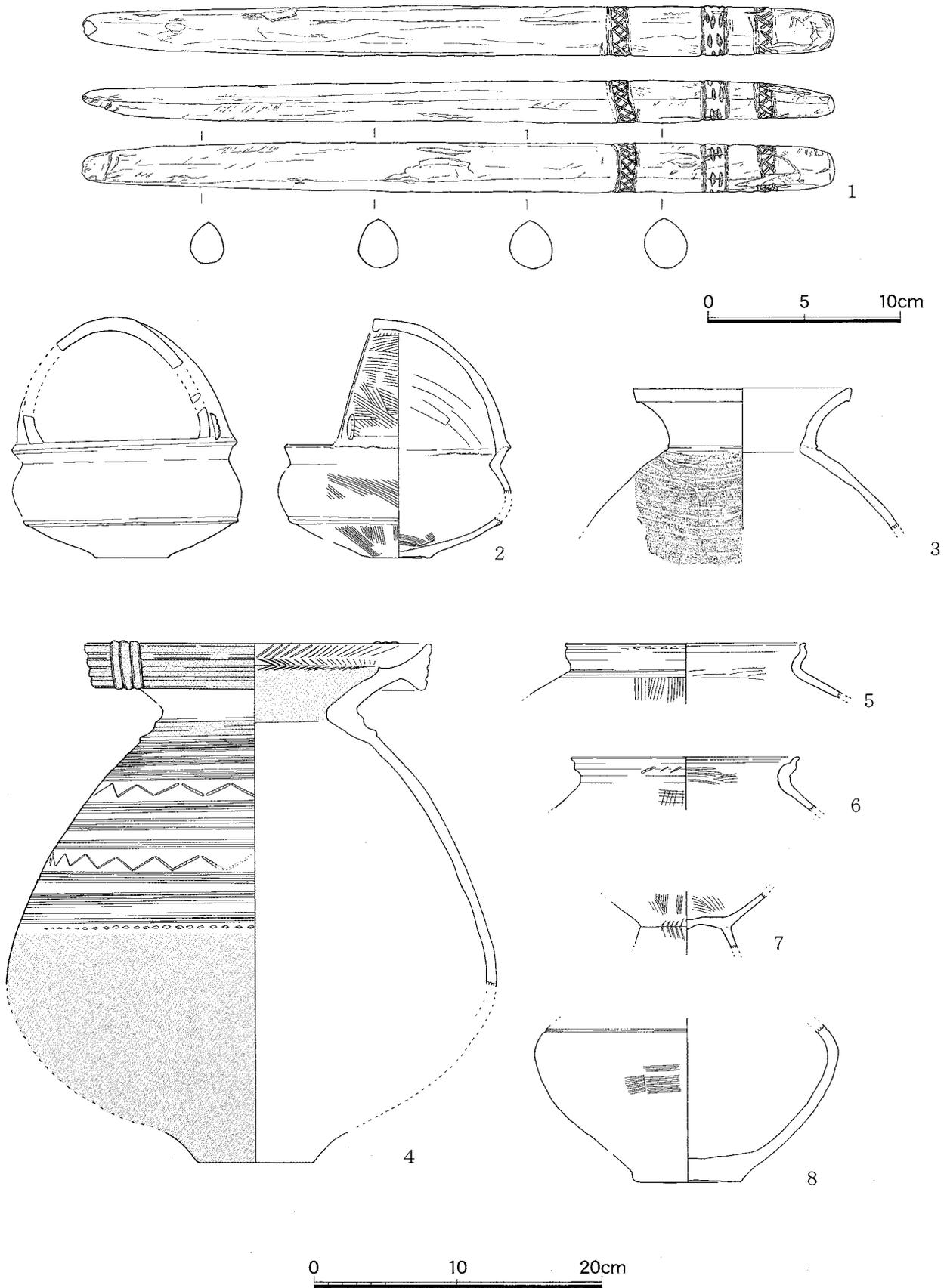
SD05
 ①10YR2/3黒褐色砂質土。10YR2/2黒褐色砂質土が混ざる。土器片、細礫を含む。
 ②10YR2/3黒褐色砂質土。10YR2/2黒褐色砂質土が混ざる。
 ③10YR3/3暗褐色砂質土。粗砂を含む。
 ④10YR2/3黒褐色粘質シルト。細礫を含む。
 ⑤10YR2/2黒褐色粘質土。細礫を含む。
 ⑥10YR2/2黒褐色土。褐色土の粒が混ざる。
 Pit
 ⑦10YR2/3黒褐色土。
 ⑧10YR1/7黒色土。



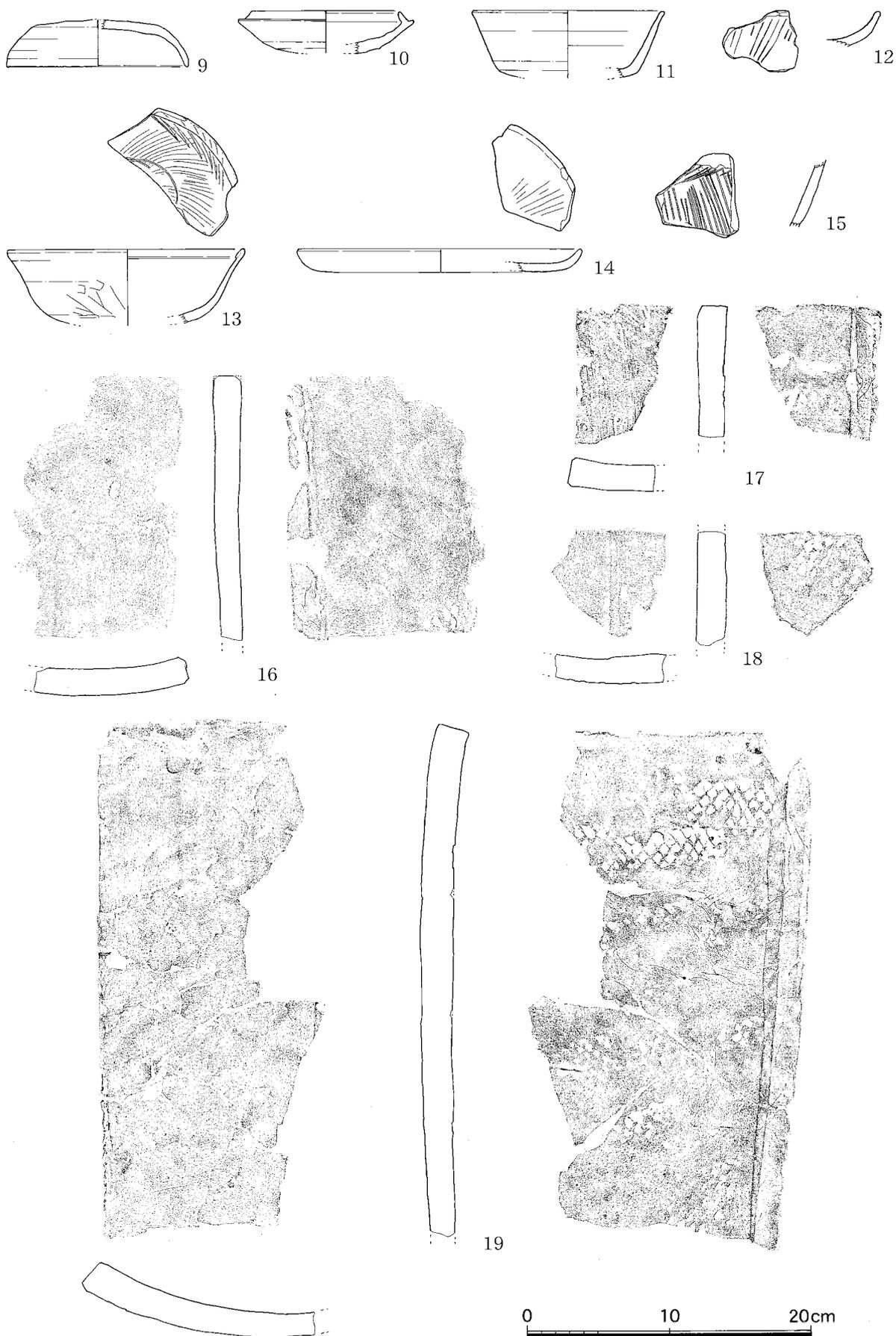
SD06
 ①10YR5/6黄褐色粗砂。10YR2/2黒褐色砂質土が筋状に少量混ざる。
 ②10YR2/3黒褐色シルト質土。
 ③10YR2/3黒褐色土。10YR3/4暗褐色土。粗砂を多く含む。
 ④7.5YR2/2黒褐色土。細礫を含む。
 ⑤10YR2/3黒褐色土。細礫を少量含む。
 下層10YR5/6黄褐色。10YR3/3暗褐色シルト質土が混ざる。
 ⑥10YR2/2黒褐色シルト質土。細礫を少量含む。
 ⑦10YR1/7黒色シルト質土。
 Pit
 ⑧10YR1/7黒色シルト質土。黄褐色の粒が混ざる。
 ⑨10YR2/2黒褐色土。褐色土の粒が混ざる。



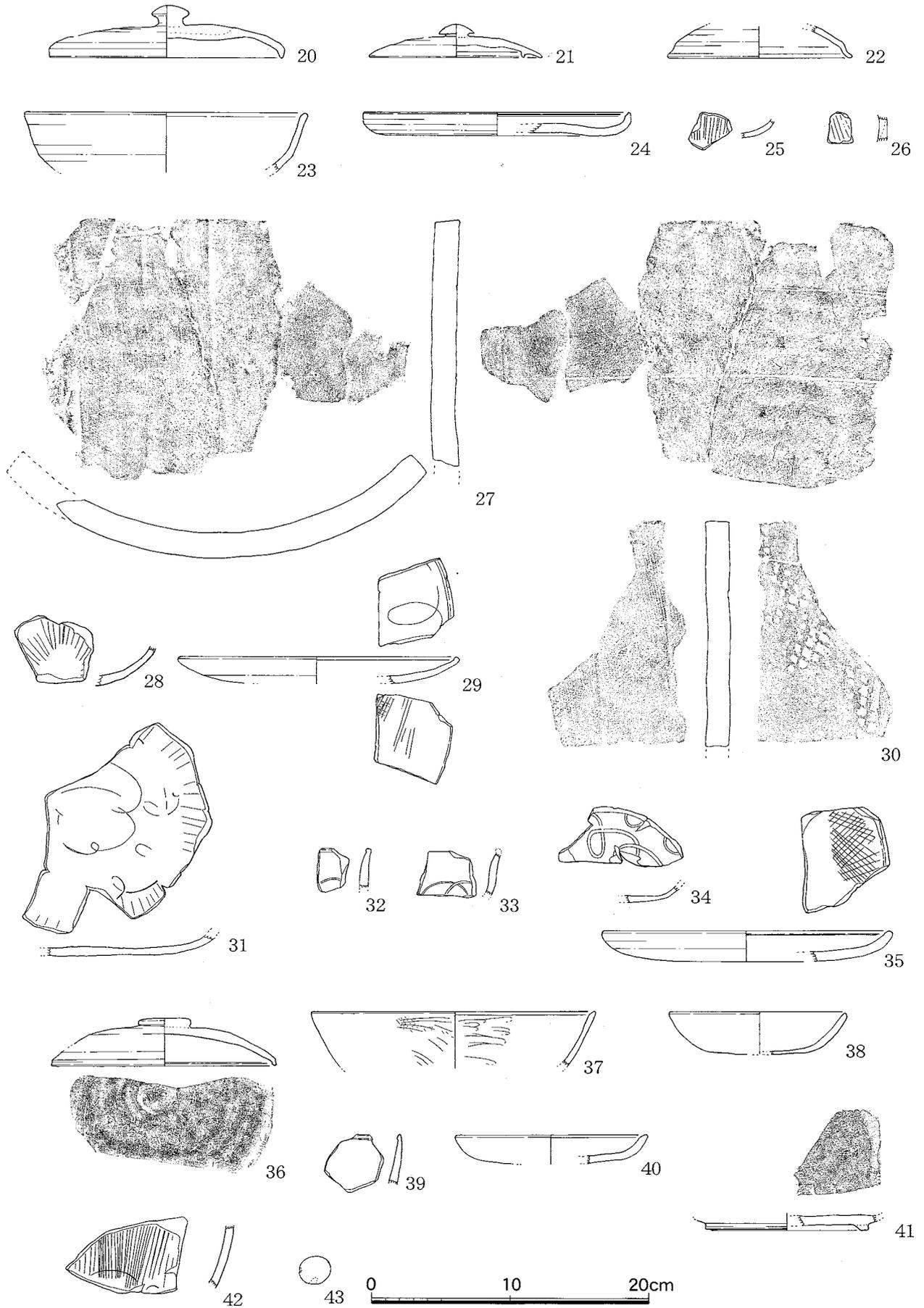
溝断面図 (1:50)



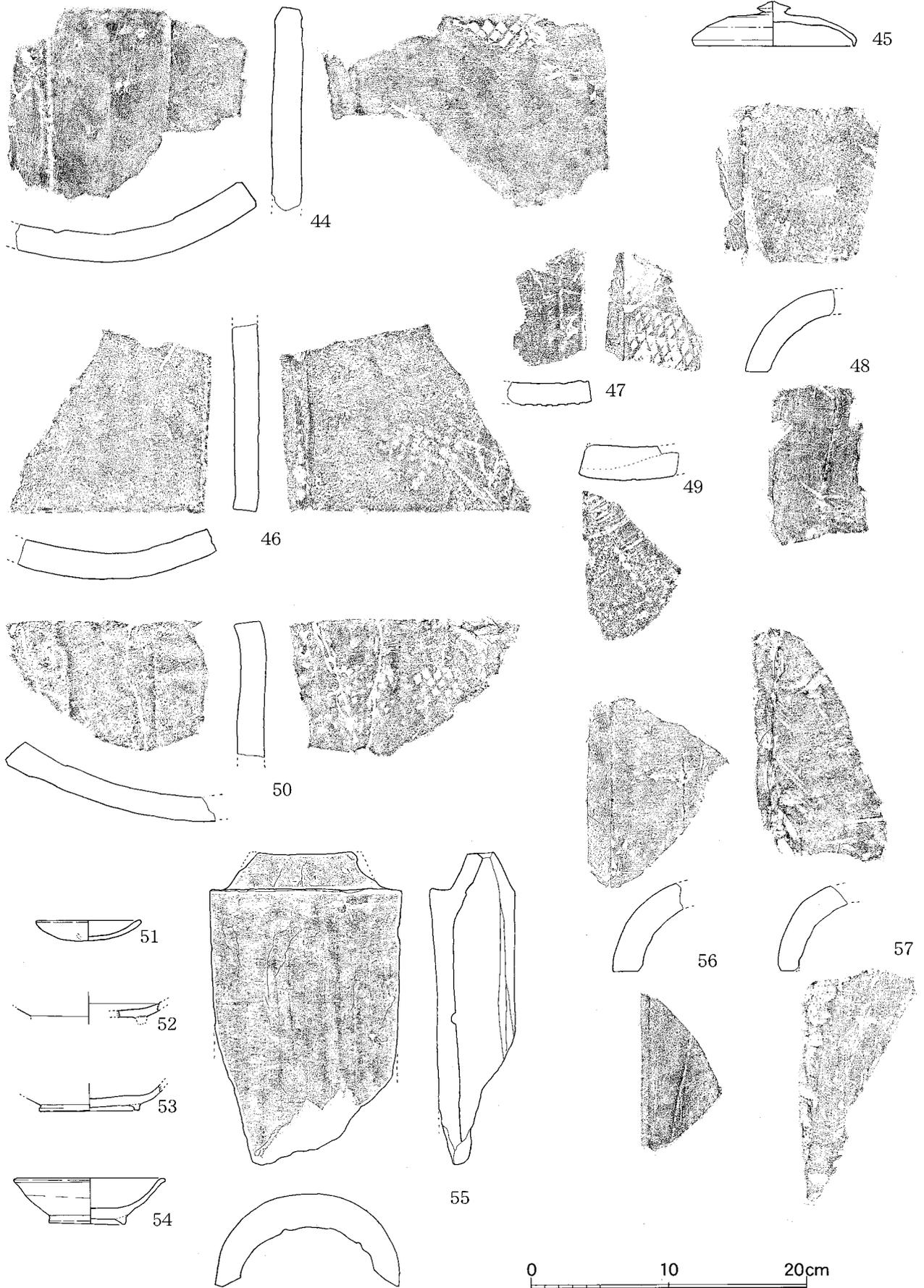
出土遺物 (1:4 石刀 1:3)



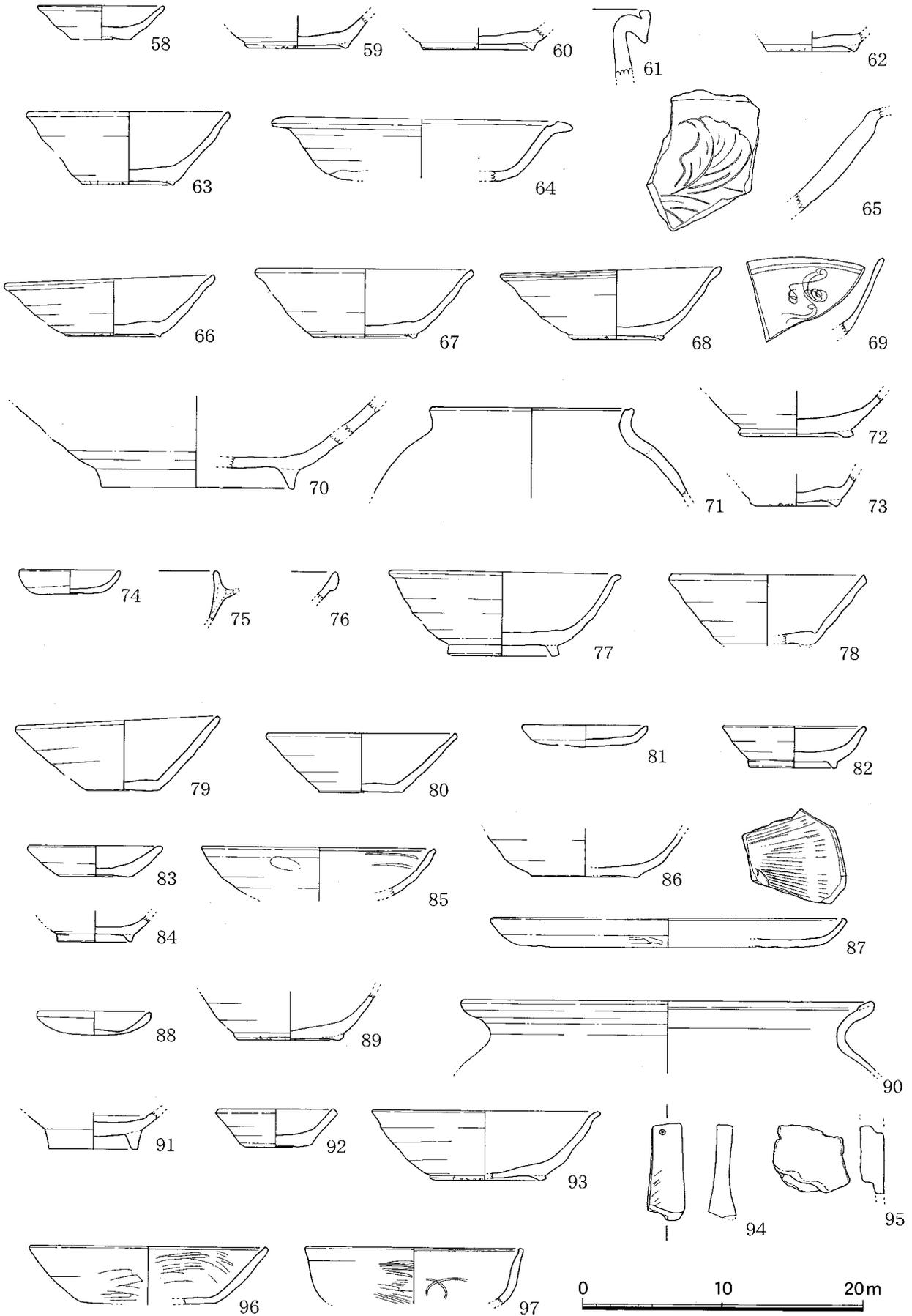
出土遺物 (1:4)



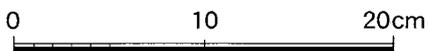
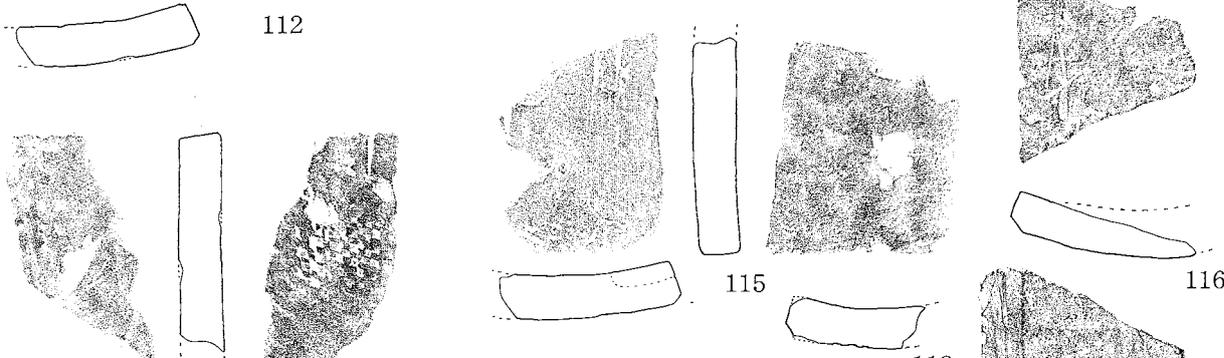
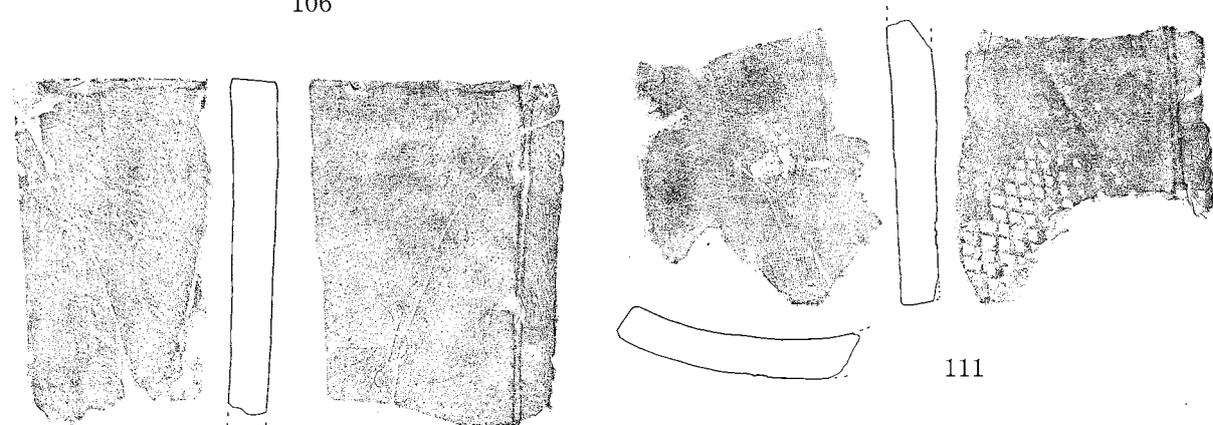
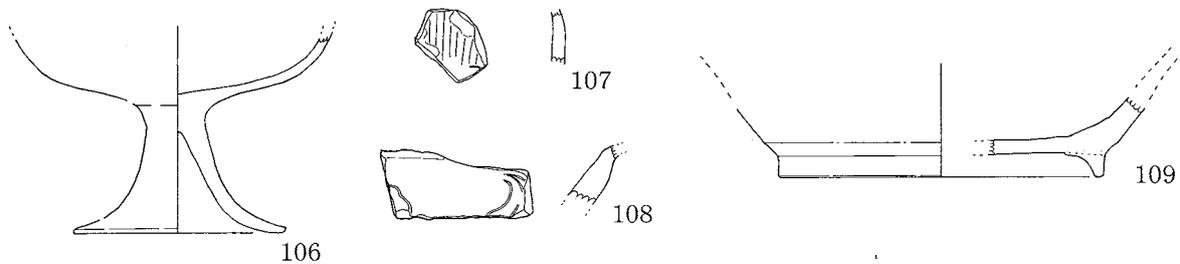
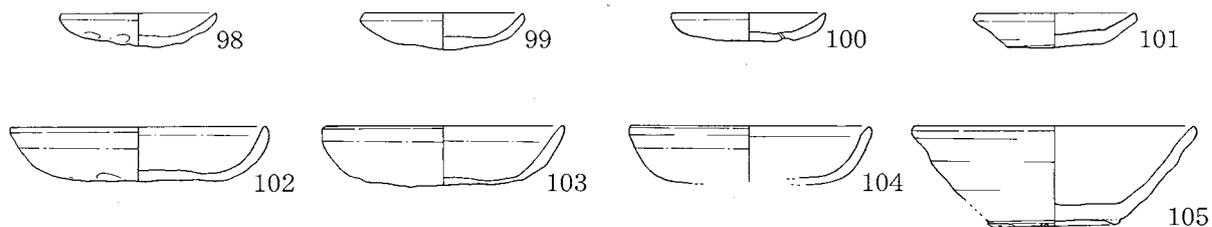
出土遺物 (1:4)



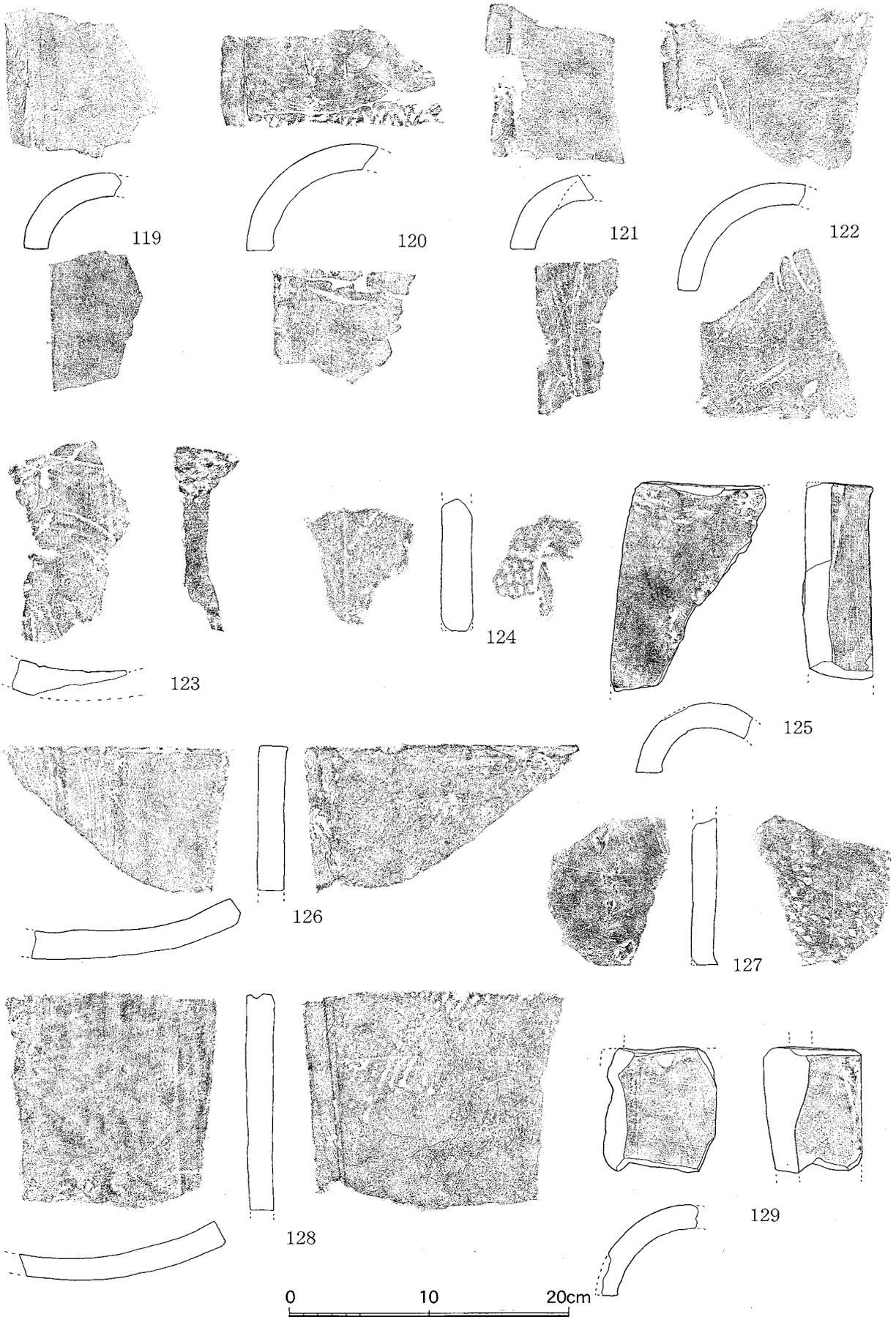
出土遺物 (1:4)



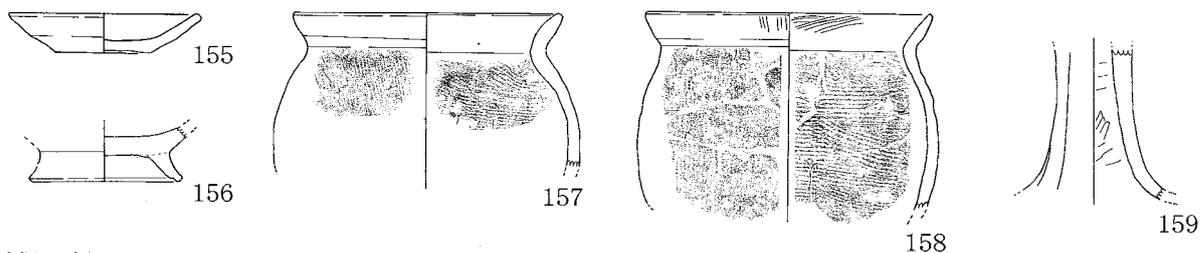
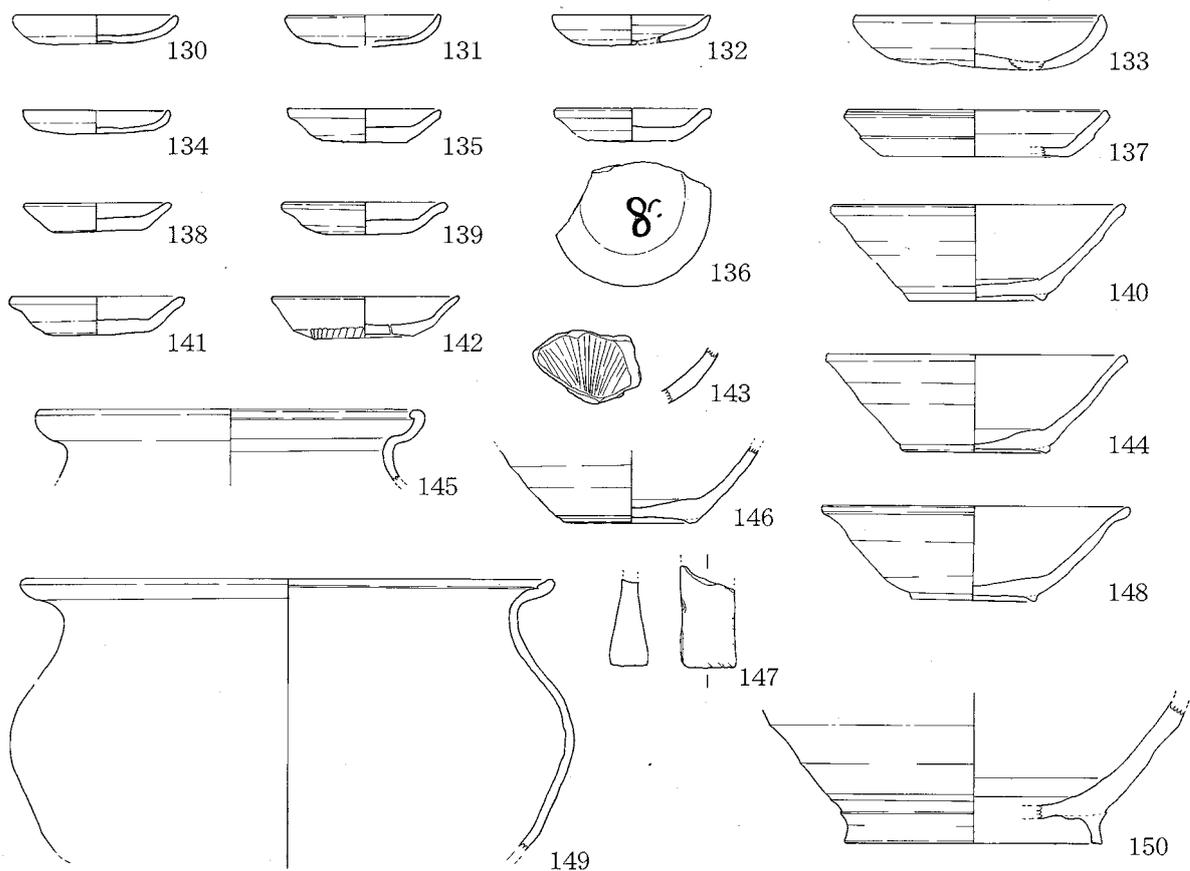
出土遺物 (1:4)



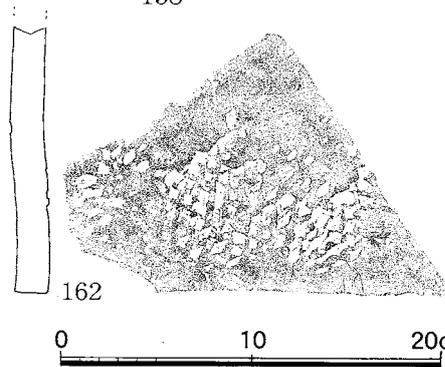
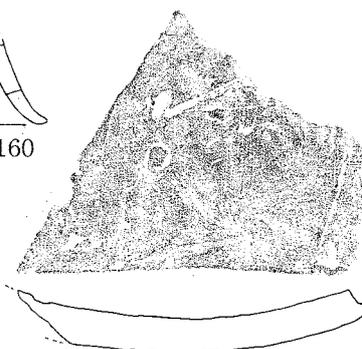
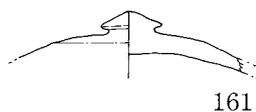
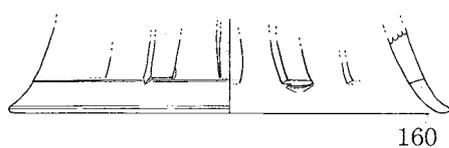
出土遺物 (1:4)



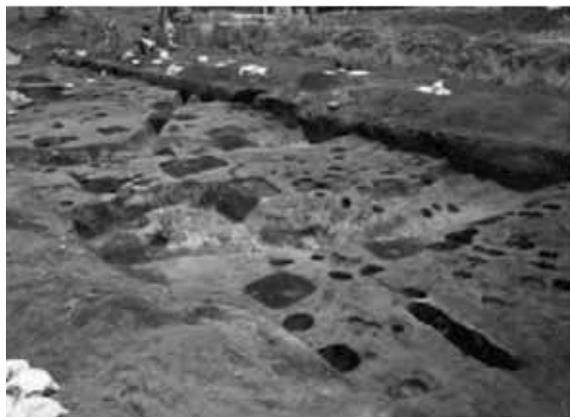
出土遺物 (1:4)



参考(試掘調査)



出土遺物 (1:4)



掘立柱建物 SB01 (南西から)



掘立柱建物 SB01 (南西から)



掘立柱建物 SB01 P-19 断面 (西から)



掘立柱建物 SB01 P-20 断面 (南から)



掘立柱建物 SB09 (西から)



掘立柱建物 SB09 P-4 断面 (南から)



掘立柱建物 SB02 (南から)



掘立柱建物 SB03 (西から)



掘立柱建物 SB16 (東から)



掘立柱建物 SB17 (南東から)



掘立柱建物 SB31 (北東から)



掘立柱建物 SB41 (北西から)



掘立柱建物 SB65 (北西から)



掘立柱建物 SB90 (北東から)



掘立柱建物 SB135 (北から)



掘立柱建物 SB29 礎板 (南から)



竪穴住居 ST04 (南から)



竪穴住居 ST07 (西から)



竪穴住居 ST23・ST24 (南から)



竪穴住居 ST54 (東から)



土壙墓 SX38 (南東から)



井戸 SE121 (北西から)



土壙東断面 (東から)



土壙西断面 (西から)



溝 SD05・SD06 (西から)



溝 SD05 断面 (西から)



溝 SD06 断面 (西から)



溝 SD10 (北西から)



溝 SD11・12 (北東から)



溝 SD11 断面 (西から)



溝 SD12 断面 (西から)



溝 SD13 断面 (東から)



溝 SD15 (北東から)



溝 SD15 断面 (東から)



溝 SD19 断面 (北から)



溝 SD20・掘立柱建物 SB21 (北東から)



溝 SD45 断面 (北から)



溝 SD46 断面 (北から)



溝 SD55・SD56 (西から)



溝 SD55 断面 (西から)



溝 SD56 断面（西から）



方形周溝墓 SX62（北東から）



方形周溝墓 SX62 石刀出土状況（南西から）



溝 SD11・SD64 断面（東から）



溝 SD87・SD91（北東から）



溝 SD87 断面（南から）



溝 SD94（南西から）



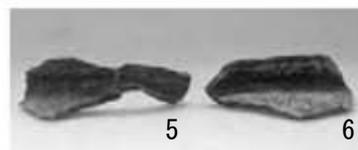
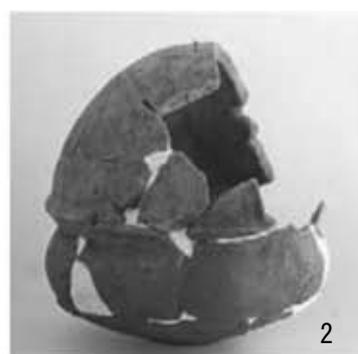
溝 SD94 断面（南西から）

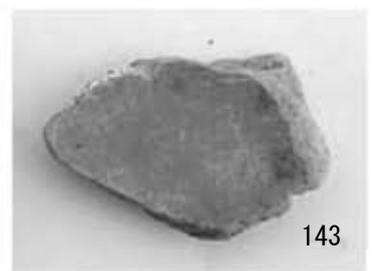
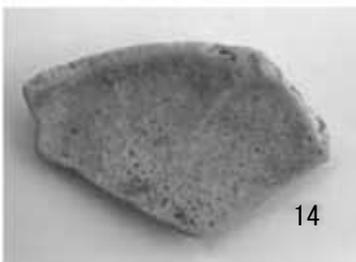
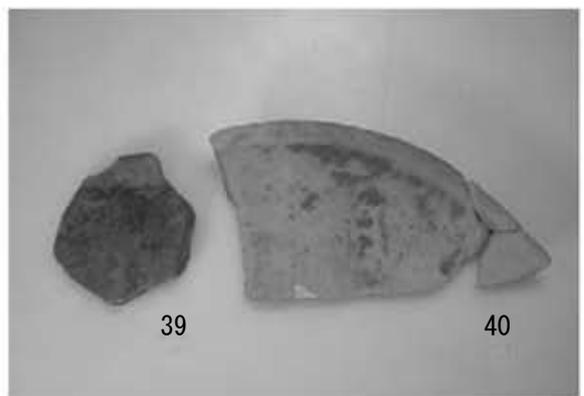
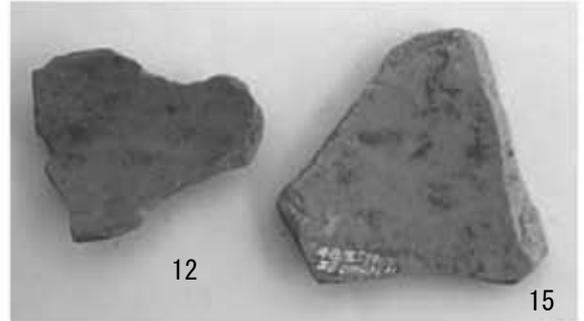
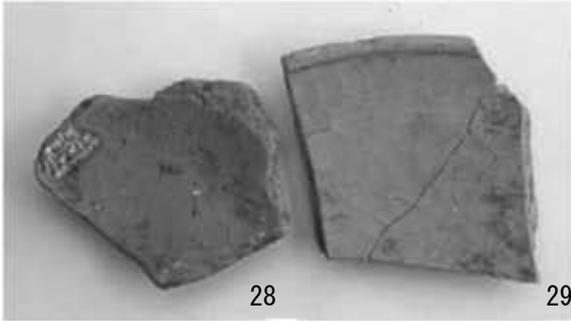


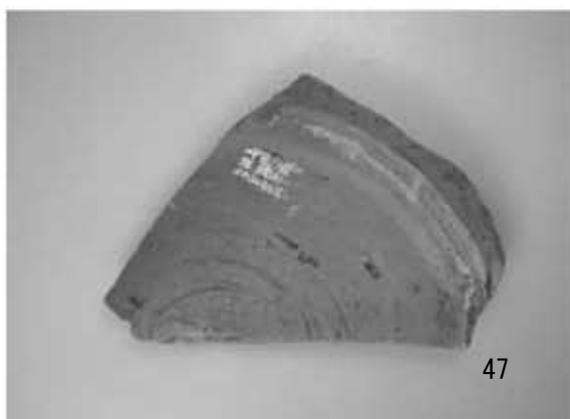
作業風景（南から）

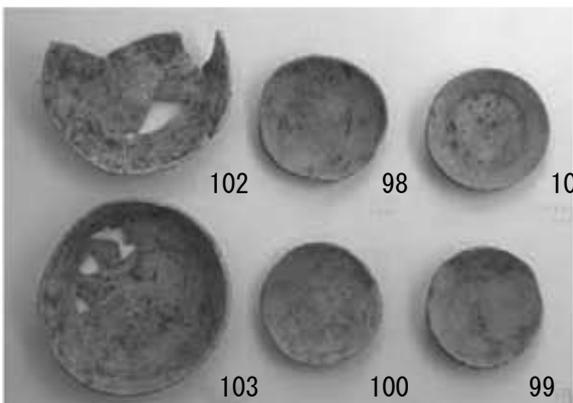
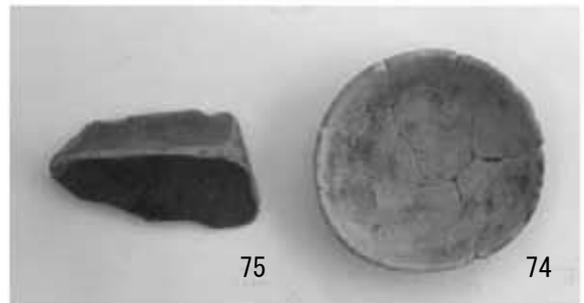
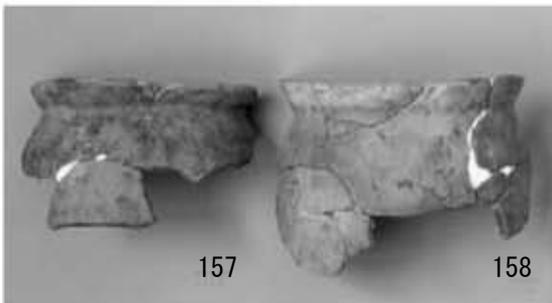
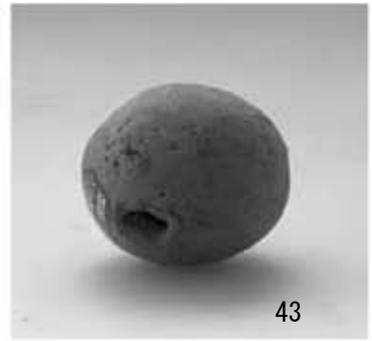


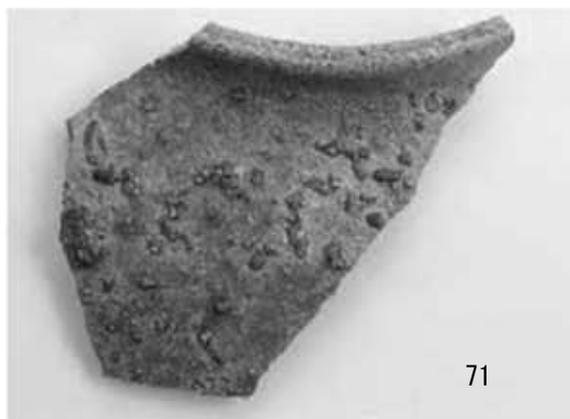
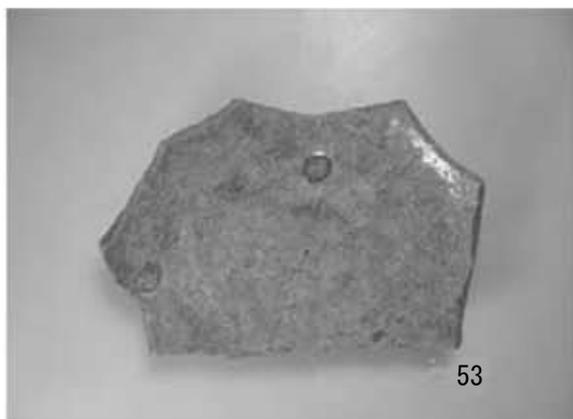
現地説明会（北西から）











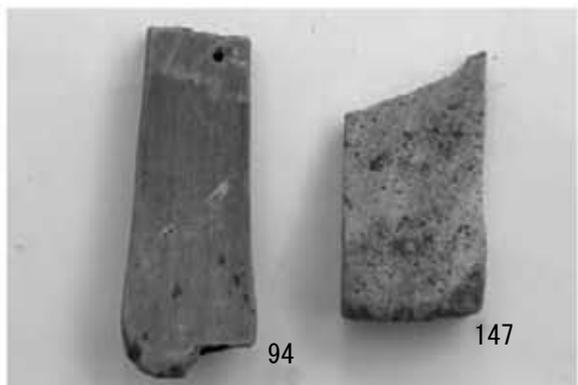
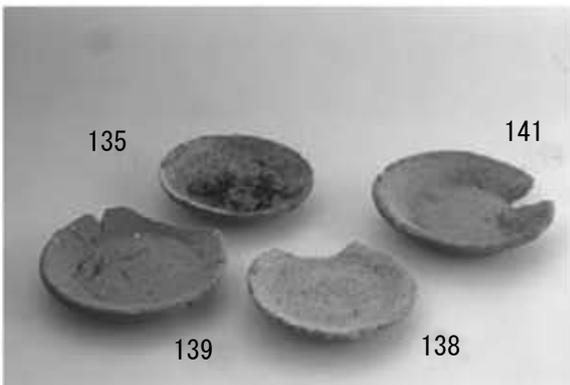
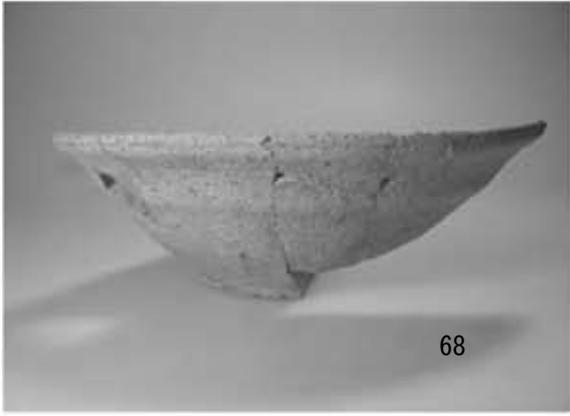
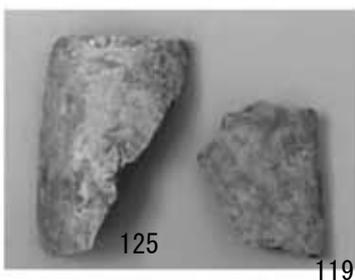
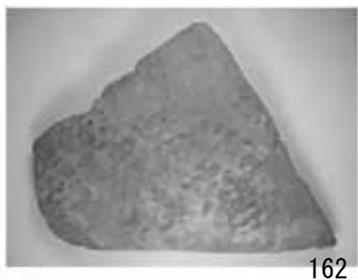
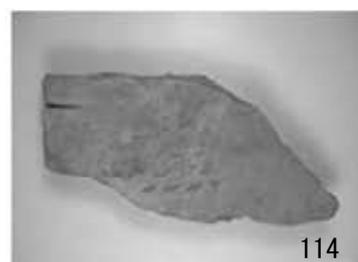
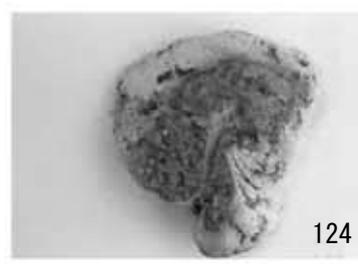
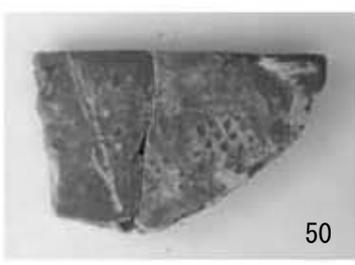
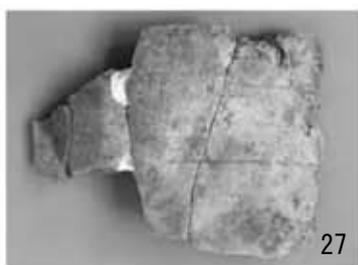
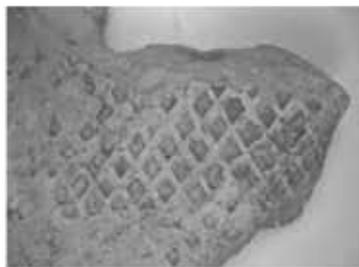
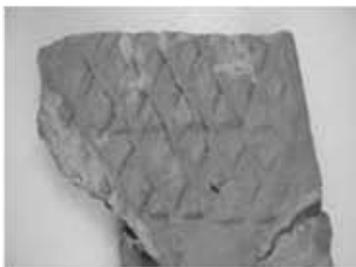


Plate 41





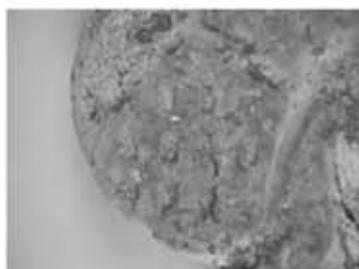
斜格子A類 (111)



斜格子B類 (47)



斜格子C類 (44)



正格子 (124)



模骨痕 (44)



布の綴じ合わせ目 (112)



分割突帯 撚糸痕跡



分割突帯 撚糸痕跡 (121)



布の綴じ合わせ目 (56)



ダーツ状布の綴じ合わせ目



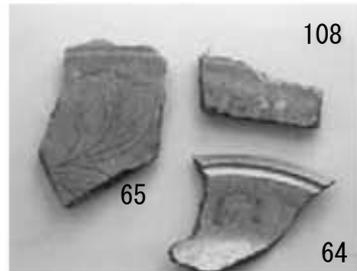
129



55



95



108

65

64

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひらたいせき だいいちじはつつちようさがいようほうこく							
書 名	平田遺跡 - 第1次発掘調査概要報告 -							
編著者名	吉田真由美							
編集機関	鈴鹿市考古博物館							
所在地	〒513-0013 三重県鈴鹿市国分町 224 番地 TEL0593(74) 1994							
発行年月日	西暦 2005年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平田遺跡	平田本町1丁目78-1,	24207	386	34°	136°	20040405	2411.1 m ²	宅地造成
御門垣内古墳	91-1, 92, 93, 94, 95, 96-2, 174, 175, 177-1, 185-1, 185-2, 185-3, 185-4, 187, 188, 189, 190, 190-1, 191-1, 191-2, 192		805	52' 56"	32' 16"	~ 20040722		
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
	集落	弥生時代 古墳時代 飛鳥時代 奈良時代 鎌倉時代	方形周溝墓, 溝 竪穴住居, 掘立柱建物 土坑, 土壘, 小柱穴	弥生土器, 土師器 須恵器, 瓦 灰釉陶器, 山茶碗 山皿, 青磁, 羽釜 天目茶碗, 石刀 砥石	縄文晩期 ほぼ完形の石刀出土。 廂付大型掘立柱建物の検出。 溝で囲まれた中世の屋敷の検出。			

平 田 遺 跡

- 第1次発掘調査概要報告 -

発 行 日 2005年3月31日
 編集・発行 鈴鹿市考古博物館
 〒513-0013
 三重県鈴鹿市国分町 224 番地
 TEL0593(74)1994
 FAX0593(74)0986
 印 刷 有限会社中村特殊印刷工業

Hirata Site 1st Excavation Report
Suzuka city, Mie Pref., Jpan

March, 2005

Suzuka Municipal Museum of Archaeology